

350

517

5 6 7 8 9 0<sup>m</sup> 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

始



B 104



大阪府名所舊蹟案内

大正  
4. 2. 10  
内交

# 大阪府名所舊蹟案内目次

## 大 阪 市

所在地及交通里程

○大 阪 城 址	東區馬場町(谷町二丁目停留所)……………	一
高麗橋	同區高麗橋一丁目(高麗橋又は天神橋停留所)……………	二
本派本願寺別院(北御堂)	同區本町四丁目(本町四丁目停留所)……………	三
○大谷派本願寺別院(南御堂)	同區北久太郎町四丁目(阿波座中通停留所)……………	四
○官幣大社生國魂神社	同區生玉町(下寺町停留所)……………	六
契沖阿闍梨墓(圓珠庵)	同區餌差町(上本町三丁目停留所)……………	六
府座摩神社	同區南渡邊町(阿波座中通停留所)……………	八
府座御靈神社…文樂座	同區淡路町五丁目(京町堀停留所)……………	九
雜喉場	西區百間堀畔(茂左衛門橋又は府廳前停留所)……………	一〇
大 阪 築 港	同區(築港行電車終點)……………	一一
中ノ島公園…豐國神社…圖書館	北區中ノ島(大江橋停留所)……………	一二
○府天滿宮…瑞寶山	同區大工町(南森町停留所)……………	一三

櫻之宮…造幣局…泉布觀  
 大鹽平八郎墓  
 西山宗因碑  
 四ツ橋  
 心齋橋  
 今宮神社  
 四天王寺  
 茶白山…雲水  
 天王寺公園(新世界)  
 超願寺…竹本義太夫墓  
 勝鬘院…愛染塔…遊行寺…夕陽  
 道頓堀…安井道頓…安井神社  
 千日前  
 一心寺  
 府高津宮…高倉稻荷  
 仁德帝皇居址

北區中野町及新川崎町(櫻宮又は空心町停留所)…一五  
 同區綿屋町成正寺内(寺町停留所)…一六  
 同區天滿西寺町(伊勢町停留所)…一七  
 南區四ツ橋(四ツ橋停留所)…一八  
 同區心齋橋筋(心齋橋停留所)…一九  
 同區惠比須町三丁目(惠比須停留所)…二〇  
 同區天王寺元町(天王寺西門停留所)…二一  
 同區同茶白山町(南海電車茶白山停留所)…二二  
 同區同玉水町(天王寺公園前停留所)…二三  
 同區同大道一丁目(天王寺西門停留所)…二四  
 同區同夕陽丘町(天王寺公園前又は椎寺町停留所)…二七  
 同區道頓堀(日本橋停留所)…二九  
 同區難波河原町(千日前停留所)…三〇  
 同區逢阪下ノ町(天王寺公園前又は西門前停留所)…三一  
 同區高津町一番丁(下寺町停留所)…三二  
 東區東高津北ノ町(上本町五丁目停留所)…三三

堺市

中井竹山一家の墓  
 井原西鶴墓

南區上本町四丁目誓願寺(上本町五丁目停留所)…三四  
 同區上本町四丁目誓願寺(同)…三五

明治天皇行在所  
 茅葺の海  
 市堺水族館  
 天誅組義士上陸地  
 大濱公園…北公園  
 妙國寺  
 南宗寺  
 大安寺(舊一國寺)  
 府開口神社  
 長柄豊碕宮址

西成郡

目次

中ノ町、鈴鹿氏邸(阪堺電軌、宿院町より三丁)…三七  
 熊野尋常小學校(同大小路より約五丁)…三七  
 堺市西方一帯…三七  
 大濱通(阪堺電軌、大濱通)…三八  
 榮橋通二丁(南海電軌、堺驛より一丁)…三九  
 大濱通吾妻橋通(阪堺電軌、大濱通)…四〇  
 材木町東二丁(同神明町より約五丁)…四一  
 南旅籠町東三丁(同小林寺橋より約四丁)…四四  
 同町東三丁…四五  
 甲斐町東一丁(阪堺電軌、大小路)…四七  
 豐崎町大字本庄(市電、天神橋筋六丁目停留所より五丁)…四九

鶴馬満寺  
毛馬開門...谷口蕪村  
江口里...君堂  
崇禪寺...崇禪寺...馬場仇討跡...來國  
瑞光寺...白山氏の庭園

東成郡

小帝塚山  
明治天皇駐蹕址  
北畠顯家墓...阿部野神社  
松蟲塚...柘榴塚  
天下茶屋...紹翁森  
住吉神社  
住吉公園  
杭全神社  
阪上廣野鷹墳...安藤直次墓

豐崎町大字南長柄(市電、天神橋筋六丁目停留所).....五〇  
同 町大字北長柄(同天神橋筋停留所より五丁).....五一  
中島村大字江口(京阪電鐵、守口停留所より十五丁).....五三  
西中島村大字山口(市電、天神橋筋六丁目停留所より十五丁).....五五  
大道村大字北大道(京阪電鐵、守口停留所より十二丁).....五六

住吉村(南海鐵道、東天下茶屋停留所より二丁).....五九  
榎並村大字關目(京阪電鐵、野江停留所より三丁).....六〇  
天王寺村大字阿倍野(南海鐵道、阿倍野停留所より二丁).....六〇  
同村(南海電車、姫松停留所).....六二  
同村大字天下茶屋(同天下茶屋停留所より八丁).....六三  
住吉村(南海、阪堺共神社前停留所).....六五  
同村(住吉神社前).....六八  
平野郷町(關西線平野驛).....六九  
同.....七〇

三島郡

大念佛寺  
御勝山  
舍利寺  
官幣中社水無瀬宮...水無瀬の里  
櫻井驛址  
高槻城址...野見神社...永井神社  
玉川(卯の花玉川)  
梅林寺...御駐蹕所  
黒井の清水・赤井の清水  
繼體天皇御陵  
勝尾寺...開成皇子御墓  
伊勢寺...古曾部燒...中將塚  
能因法師墓...松林庵  
釋迦ヶ池

同町大字平野馬場(同平野驛).....七一  
鶴橋町大字岡(城東線、桃谷驛より三丁).....七二  
生野村大字舍利寺(市電、天王寺西門より約二十丁).....七二  
島本村大字廣瀬(東海道線、山崎驛より五丁).....七四  
同村大字櫻井(同山崎驛より約十丁).....七六  
高槻町大字高槻(同高槻驛より約六丁).....七八  
三箇牧村大字西面(京阪電鐵、光善寺より一里).....七九  
茨木町大字茨木(東海道線、茨木驛より五丁).....八〇  
同.....八一  
三島村大字太田(同茨木驛より一里).....八一  
豐川村大字粟生(箕有電軌、箕面公園より一里半).....八二  
磐手村大字古曾部(東海道線、高槻驛より二丁).....八四  
同.....八五  
岸部村大字小路(東海道線、吹田驛より一里).....八七

高濱	吹田城址	八八
惣持寺		
富壽榮の松		八九
	吹田町(東海道線、吹田驛附近).....	八八
	三島村大字惣持寺(同茨木驛より二十丁).....	八九
	富田村大字富田(同茨木驛より一里).....	九〇

豊能郡

箕面公園	箕面瀧、動物園、瀧安寺	九一
萱野三平墓		九四
妙見堂		九五
伊居太神社		九六
五月山	有岡城址、太廣寺	九八
吳服神社		九九
久安寺		一〇〇
釋迦院	鉢塚、石燈籠	一〇〇
原田神社	古墳	一〇一
千里山	待兼、瀨進、鳥熊山	一〇二
寶珠寺	佛眼寺	一〇三
	箕面村(箕有電軌終點).....	九一
	萱野村大字芝(箕有電軌、公園入口より約十丁).....	九四
	東郷村大字野間中.....	九五
	池田町(箕有電軌、池田驛より數丁町の西北五月山下).....	九六
	同町(同池田驛より數丁).....	九八
	同町(同池田驛より數丁池田町の南端).....	九九
	細川村大字伏尾(同池田驛より一里).....	一〇〇
	秦野村大字才田(同池田驛より十丁).....	一〇〇
	豐中村大字櫻塚(同岡町驛).....	一〇一
	櫻井谷村(同櫻井驛より數丁).....	一〇二
	熊野田村大字熊野田(同岡町驛、豐中驛より各十丁).....	一〇三

劔尾山月峯寺	西郷村(能勢電車、鳥井前より四里).....	一〇三
--------	------------------------	-----

泉北郡

官幣大鳥神社	鳳村大字大鳥(南海鐵道、濱寺驛より十五丁).....	一〇五
家原寺	(行基誕生地)・家原城址	一〇六
濱寺公園	八田莊村大字家原寺(同濱寺驛より三十丁).....	一〇六
仁徳天皇御陵	濱寺町(同、濱寺驛前).....	一〇七
反天皇御陵	軸松村大字軸松(高野登山鐵道、堺驛より五丁).....	一〇八
履仲天皇御陵	向井町大字中筋(同堺驛より二丁).....	一〇九
牛瀧山	神石村大字上石津(阪堺電車、湊驛より二十丁).....	一一〇
國府清水	山瀧村大字大澤(南海鐵道、岸和田驛より四里).....	一一〇
横尾山	國府村大字府中(同大津驛より三十丁).....	一一二
信太森	横山村大字横尾山(同大津驛より四里).....	一一三
松尾山	信太村大字中(同羽衣驛より十餘丁).....	一一四
泉穴師神社	南松尾村大字松尾寺(同大津驛より二里半).....	一一七
	穴師村大字豐中(同大津驛より約十丁).....	一一八

泉南郡

岸和田城址：同公園：蟄地藏尊  
久米田寺：橋諸兄塚  
水間觀音堂  
木積觀音堂  
蟻通神社  
慈眼院：日根野神社：日根野松原  
犬鳴山七寶瀧寺  
樽井遊園  
金熊寺梅林  
淡輪遊園：宇度墓  
願泉寺（貝塚御坊）  
深日浦

南河内郡

岸和田町（南海鐵道、岸和田驛より五丁）……………一二〇  
八木村大字池尻（同岸和田驛より三十丁）……………一二二  
木島村大字水間（同貝塚驛より二里餘）……………一二四  
西葛城村大字木積（同貝塚驛より二里半）……………一二六  
長瀧村大字長瀧（同佐野驛より二十丁）……………一二七  
日根野村大字日根野（同佐野驛より一里）……………一二八  
大土村大字大木（同佐野驛より三里）……………一二九  
樽井村（同樽井驛前）……………一三一  
東信達村大字金熊寺（同樽井驛より二里）……………一三一  
淡輪村（同淡輪驛前）……………一三二  
貝塚町大字貝塚中（同貝塚驛）……………一三四  
深日村（同深日驛より五丁）……………一三四

天野山金剛寺  
狹山池

楠公誕生地：府社建水分神社  
赤坂城址：寄手塚：味方塚：金剛山  
千早城址：楠正儀墓  
觀心寺：後村上天皇御陵：楠公首墳  
叡福寺（上ノ太子）：應戶皇子廟  
敏達用明推古孝德天皇御陵  
葛井寺：正行戰死蹟  
平石城址：南朝戰蹟  
高貴寺  
弘川寺：西行墓  
錦溪溫泉：長野遊園  
源氏三將軍之墓：通法寺  
玉手遊園：安福寺：慶長古戰場  
府譽田神社：應仁天皇御陵

目次

天野村大字天野山（高野鐵道、長野驛より五十丁）……………一三七  
狹山村大字池尻（同狹山驛より五丁）……………一三九  
赤坂村大字水分（河南鐵道、富田林驛より二里）……………一四一  
同……………一四三  
千早村大字千早（同富田林驛より三里）……………一四七  
川上村大字寺元（高野鐵道、長野驛より三十丁）……………一四九  
磯長村大字太子（河南鐵道、喜志驛より三十丁）……………一五二  
磯長村大字太子（同喜志驛より三十丁）……………一五五  
藤井寺村大字藤井寺（河南鐵道、古市驛より十八丁）……………一五六  
白木村大字平石（同富田林驛より二里）……………一五八  
白木村大字平石（同富田林驛より二里）……………一五九  
河内村大字弘川（同富田林驛より二里）……………一六〇  
三門市村大字小鹽（同長野驛より七丁）……………一六二  
駒ヶ谷村大字通法寺（同喜志驛より十五丁）……………一六三  
玉手村大字玉手（同道明寺驛より八丁）……………一六四  
古市村大字譽田（同譽田驛前）……………一六六

土師神社 (道明寺天満宮) ……道明寺 道明寺村大字道明寺(同道明寺驛より四丁) ……一六八

中河内郡

官幣社 枚岡神社 枚岡村大字出雲井(大阪軌道、枚岡驛前) ……一七二  
生駒山 ……生駒聖天 ……長尾瀧 日根市村(同生駒より十丁) ……一七三  
恩智左近墓 ……恩智神社 南高安村大字恩智(關西線八尾驛より一里) ……一七五  
瓢箪山稻荷社 枚岡南村大字四條(大阪軌道、瓢箪山より二丁) ……一七五  
梅富寺 ……天照大神 ……高座神社 南高安村大字教興寺(關西線八尾驛より一里) ……一七六  
高安の里 南、中、北高安村(同より一里) ……一七七  
石切劔箭神社 大戸村大字神並(大阪軌道、石切より八丁) ……一七八  
常光寺 (八尾地藏) ……八尾顯幸墓 八尾町大字西郷(關西線八尾驛より十二丁) ……一七九  
木村長門守重成墓 西郡村大字若江南(大阪軌道、若江より七丁) ……一八〇  
大信寺 (八尾御堂) 八尾町大字大信寺(關西線八尾驛より十丁) ……一八一  
勝軍寺 (下ノ太子) ……物部守屋墓 龍華村字太子堂(關西線八尾驛より八丁) ……一八二

北河内郡

難宗寺 (行在所址) 守口町大字守口(京阪電鐵、守口より二丁) ……一八五  
別格社 四條畷神社 ……小楠公之墓 ……一八六  
官幣社 和田源秀之墓 ……飯盛城址 甲可村(片町線鐵道、四條畷驛より五丁) ……一九〇  
獅子窟寺 磐船村大字私市(同星田驛より一里) ……一九〇  
源氏瀧 交野村山中(同津田驛より一里) ……一九〇  
交野行宮址 ……百濟王神社 山田村大字中宮(京阪電鐵、枚方東口より十丁) ……一九一  
洛院址 牧野村大字渚(西牧野より十二丁) ……一九三  
蹉跎神社 ……佐太神社 蹉跎村大字中振(同光善寺より三丁) ……一九五  
枚方遊園 ……くらはんか船 枚方町(同枚方前) ……一九七  
天の川 ……天女の傳説 枚方町(同枚方東口より六丁) ……一九八  
博士王仁之墳 菅原村大字藤阪(片町線鐵道、長尾驛より七丁) ……二〇〇  
野崎觀音堂 西條村大字野崎(同野崎驛かり五丁) ……二〇〇

目次終



# 大阪府名所舊蹟案内

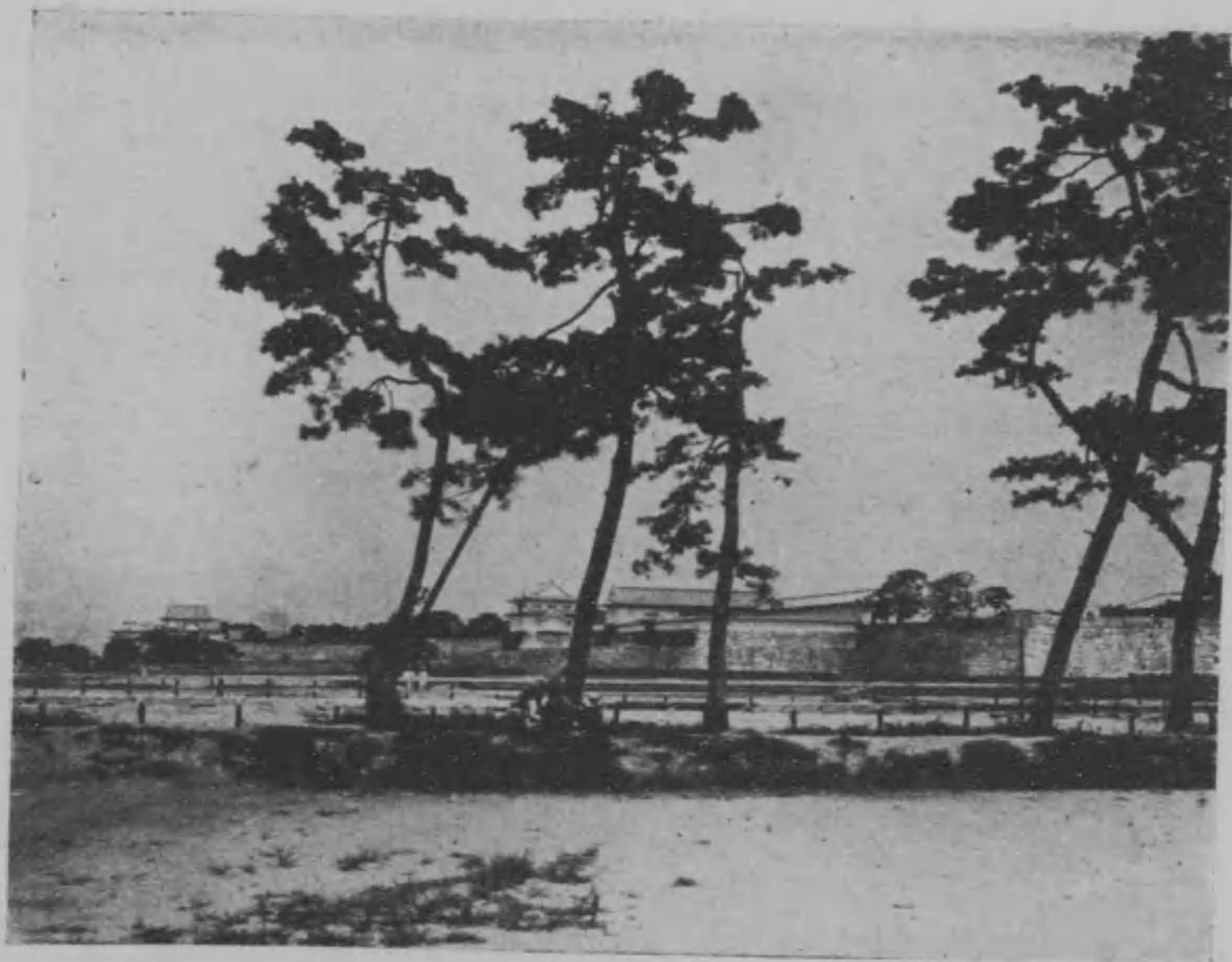
## 大阪市

大阪城址

東區馬場町

大阪城は大阪市の眼目たり。天主臺上眼を四方に放てば百萬の  
 大都城臺を要として純素の如く展開するを見る。地は天然の勝  
 區古の難波の宮もこのほとりなりけん天文の昔本願寺蓮如光教  
 父子始めてこの石山の地に壘を築きしより天正年間豊臣秀吉天  
 下の力を擧げて之を修築するや金城湯池の固め南山不落の名城  
 と稱せり。然も人去り時否にして元和夏陣の一炬に劫灰に歸し  
 徳川氏其の跡を修めて城代を置き明治五年大阪鎮臺となり今第  
 四師團司令部を茲に置けり。天然の要害に加ふるに人爲の工を

大阪府名所舊蹟案内



大阪城址

極め、塔壁の花崗石、大さ方數  
 十間に及ぶものあり、一箇の  
 石以て太閤雄圖の全豹を窺  
 ふに足る。周圍約一里、樓門  
 壘郭碧瓦粉壁空に聳え、日に  
 映じ、松林繞り、濠湟湛へ、宏壯  
 雄麗、今猶ほ海内の偉觀たり。

高麗橋

東區高麗橋

東横堀川に架す、長さ四十間  
 我國鉛製活字の創始者、元木  
 昌藏の設計に成る。市内最

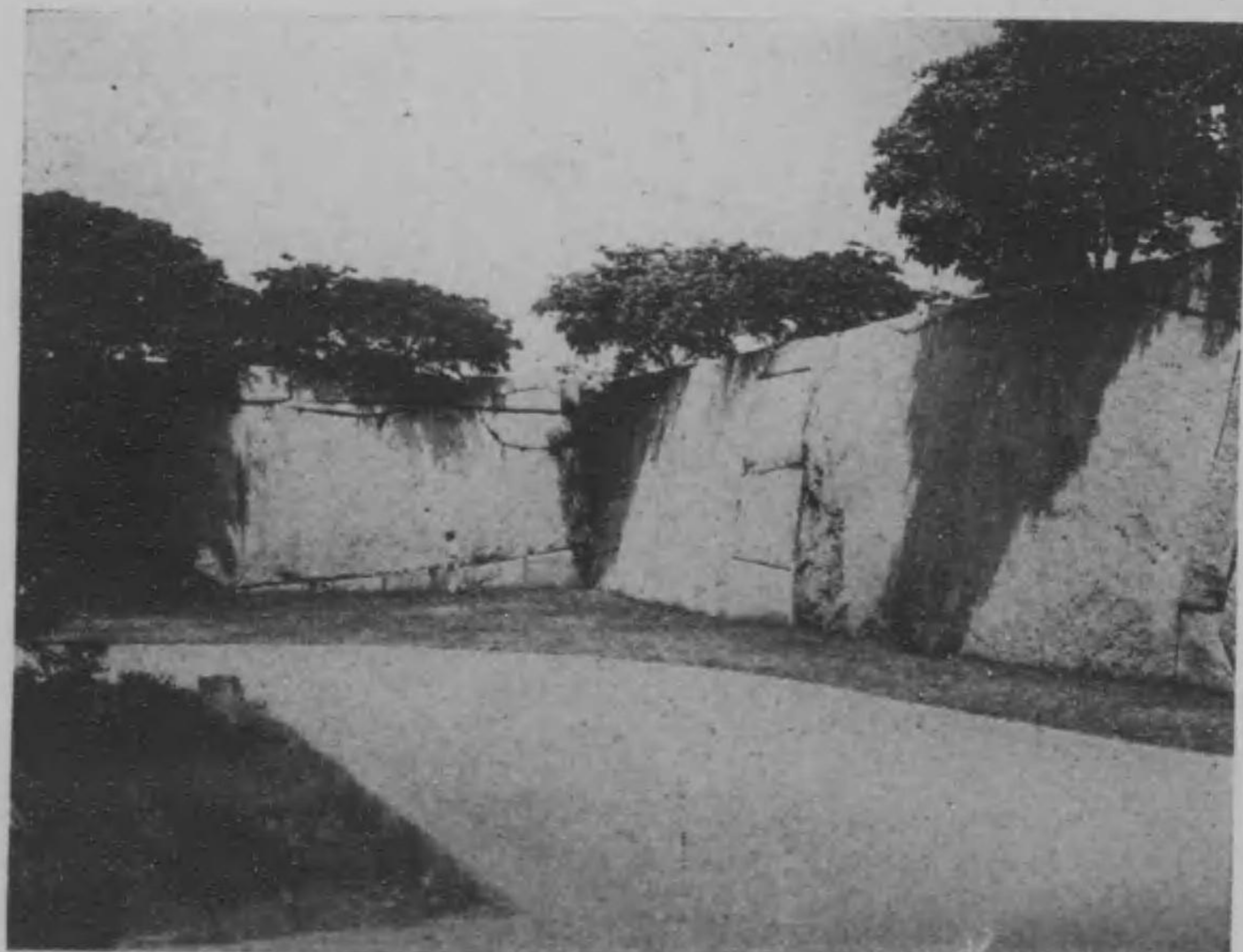
初の鐵橋にして、天滿橋、四ッ橋  
 等と名を等うす。街巷は繁華  
 の中心にして、橋畔には府里程  
 元標を建つ。

本派本願寺別院 (北御堂)

東區本町四丁目

世に津村別院、表御堂又は北御  
 堂と稱す。西本願寺別院にし  
 て慶長年間、准如上人の創建に  
 係り、享保年間回祿の災に遇ふ  
 て更に現地に再建す、地高燥、石  
 牆を繞らし、廣袤五千餘坪、結構

大阪府名所舊蹟案内



大阪城址の大石



津村別院

宏麗、金碧燦爛として本堂對面所二祖堂轉輪藏等莊嚴目を驚かし、本派有數の靈坊として信仰の一中心地たり、實に昔西山宗因が『西風に何ぞ自力の扇づれ』と詠じたるも宜なり。今境内に相愛高等女學校を設置せり。寺實には安阿彌作、阿彌陀佛、親鸞、蓮如、上人の影像、晁殿司、雪舟等の佛畫其他珍什多し。

○ 大谷派本願寺別院 (南御堂)

東區北久太郎町四丁目

南無と云ふその二つ字に花咲て阿彌陀佛に身は成りにけり

蓮如

北御堂を距る三丁、南北相對して巍然たる堂宇、市中建築の偉觀を極む。世に難波御堂、裏御堂又は南御堂と稱す。初め光佐(顯如上人)の浪華石山を本據となせし以來處々に移轉し、慶長年間大谷本願寺派の教祖、教如上人に至りて本寺を創め、難波御堂と稱し、雄麗宏壯北御堂と相匹し、宛然城郭の如く共に信仰の一中心をなす。本尊は北御堂と同じく安阿彌作の阿彌陀佛なり、境内花木多く淨麗を極め、同派屈指の名刹として稱名賽禮の徒絶えず、境内に大谷女學校を設く。



難波別院

官幣生國魂神社

東區生玉町

由緒の高遠、社殿の典雅、市内第一社と稱し、先年南區大火の際類焼したるを、今又再建せらる。祭神は生國魂大神、足國魂大神にして、遠く應神の朝に創祀し、始め大阪城内にありしを、明應年間蓮如之を奉遷し、豊臣秀吉更に現地に建造し、高燥の廣域に據り、結構善美を盡し、八ツ棟造の神殿莊嚴を極めたりき。再建築は渾て又原型に據りしといふ。社内靜肅にして眺望宏麗、來拜の徒常に多し。

契沖阿闍梨墓……圓珠庵

東區餌差町

契沖

わか宿の花を何そと人間は、先つ梅とこそいふへかりけれと詠じけん、墓畔の梅は今なほ春毎に芳を傳ふ。契沖阿闍梨は三大國學者の一人にして、學德風懷千秋の欽する所、其の國學歌學に

貢獻する所の大なる亦いふを待たず。

徳川光圀の重聘を辭して萬葉代匠記を獻著し、其の



契沖阿闍梨の墓

謝費を擧げて寺院貧民に分てるが如き高風想ふべし。墓は契沖幽棲の跡、圓珠庵の後に在り、多く阿闍梨の遺墨等を傳ふ。碑は水戸の鴻儒安藤爲章の撰する所。文中に曰く、

『師寬厚愛人、恭謙能下、然有造爲密法、邪說者果然闢之、無所回避、當時有職無當其鋒者、嗚呼師之歌學卓絶古今、人不得而知之、然是餘事焉耳……』と高德の面目躍如たり。

大阪府名所舊蹟案内

府座摩神社

神武帝の始めて大和高見山中に祀り給ひしものにして、生井神福井神外三柱を祭る。神后征韓の後茲に憩はせ給ひ明治天皇も社頭に鳳輦を枉げさせ給ひき。社は市内屈指の船場の中に在り。南御堂に隣り社内に陶器社稻荷社等あり社殿壯麗にして寶什鈔からず、市内古社中最も由緒に富むものなり。



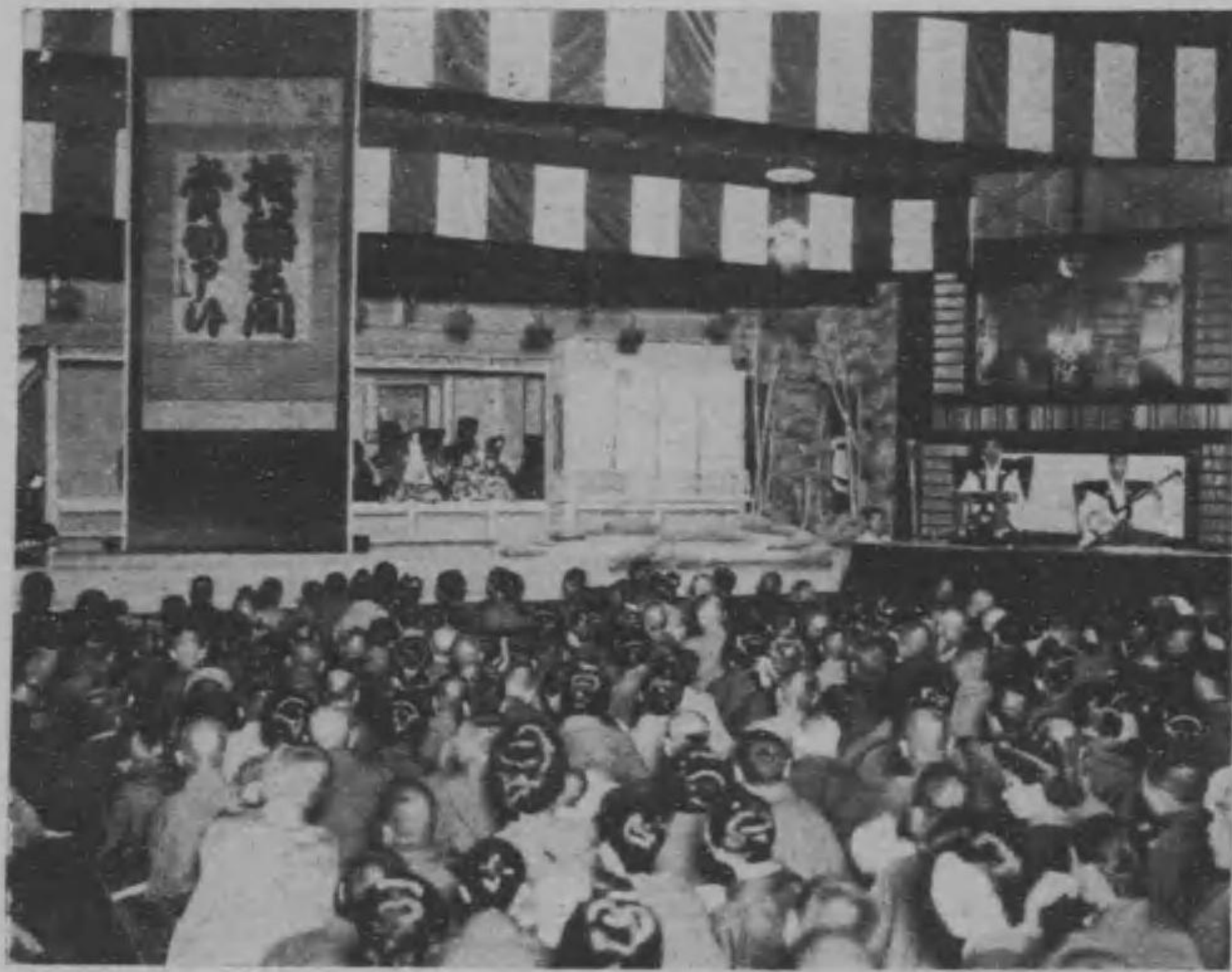
陶器神社祭禮陶器造物

東區南渡邊町

府御靈神社……文樂座

舊時乾宮と稱し、天照大神應神天皇外三種の神を祭る。氏子の多きこと市内諸社中第一に在り。結構壯麗にして其の祭典は殷盛を極む。

東區淡路町五丁目



文樂座

文樂座は御靈社内にあり、大阪名物人形芝居の本場にして、曾ては近松門左の妙文と、義太夫の美音と相待ち、竹田吉田の人形の巧技と共に發達し、神韻縹緲たる一種の幻華藝術を大成せるものにして、今なほ越路

大阪府名所舊蹟案内



雑喉場

太夫一門と人形師桐竹吉田等の  
 據りて以て獨特の妙技を示すと  
 ころ眞に浪華藝術界の一名物た  
 り。

雑喉場 西區百間堀畔

熱鬧を現す。夜半より河岸に集る遠近の漁船は先を争ふて陸揚の聲勇ましく拂曉より市場は喧々囂々魚貝紅白陸離たる間活氣

雑喉場の名猶ほ魚場のごときか。百萬都民の食膳日々の需要を給するのみならず遠く四方に魚類を輸送する唯一の市場にして東京日本橋魚河岸に比して一層の

旺溢せる市人往來の狀宛然戰場の如し。

柳亭翠鶯

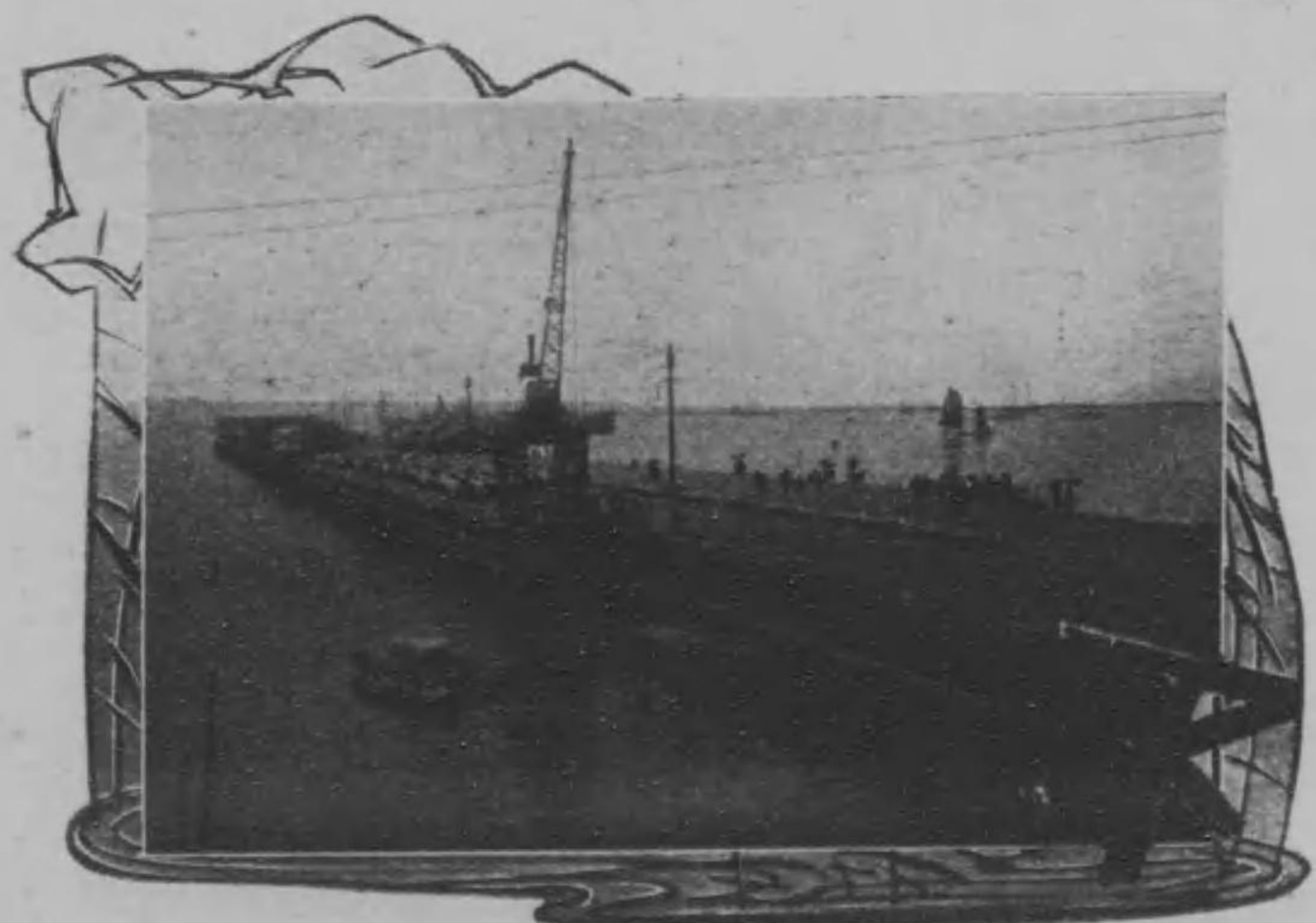
勢にまけて散り出す櫻かな

大阪築港

西區築港

往昔堺港の霸權一度大阪に移りてより海陸天與の要地たる大阪の盛名は夙に世に著はる。天保山沖三里の海上内外の船舶を集めて帆檣林立の文字を實現し神戸港と數里の海を夾んで帝國海運の咽喉たりき。而して更に

大阪府名所舊蹟案内



大阪築港

築港の議は明治元年の開港と共に其の端を發し、數次の沿革を経て明治二十六年遂に二千二百餘萬圓を投じ、築港の舉を決し、幾多の困苦を冒して未曾有の大土工を成し、南北の突堤長く碧水を抱き、灣深くして波穩やかに、三十六年より大艦巨舶の出入を許すに到り、陸には築港通の大路を開きて、臨港電車鐵道を通じ、埋立地は新市街を作り、海陸相聯ねて漸く一大良港を現出せんとす。埠頭に立ちて明媚の風光に對し、朝暉夕陰の壯觀を賞すれば、長風千里より吹いて市塵頓に消せんとす。殊に此の邊釣魚避暑の適地として市民の來遊するもの年々多く、春夏の交雜杳殊に甚し。

中ノ島公園……豊國神社……圖書館

北區中ノ島東端

堂島土佐堀の二流南北を夾んで小島嶼をなす所、翠松を植ゑ綠草を敷いて公園となし、市民熱鬧の間、しばらく逍遙の別界を作る。

園内には豊國神社公會堂圖書館木村長門守の記念碑等あり、市民偕樂の一勝區たり。



秀吉公銅像

別格官幣社 豊國神社

社は明治十二年の創建に係り、豊太閤の靈を祀る。社殿清潔にして樹園み、河を控へ苑内に建てる豊公の銅像は萬瓦を隔て遙に錦城の天主臺に對す。

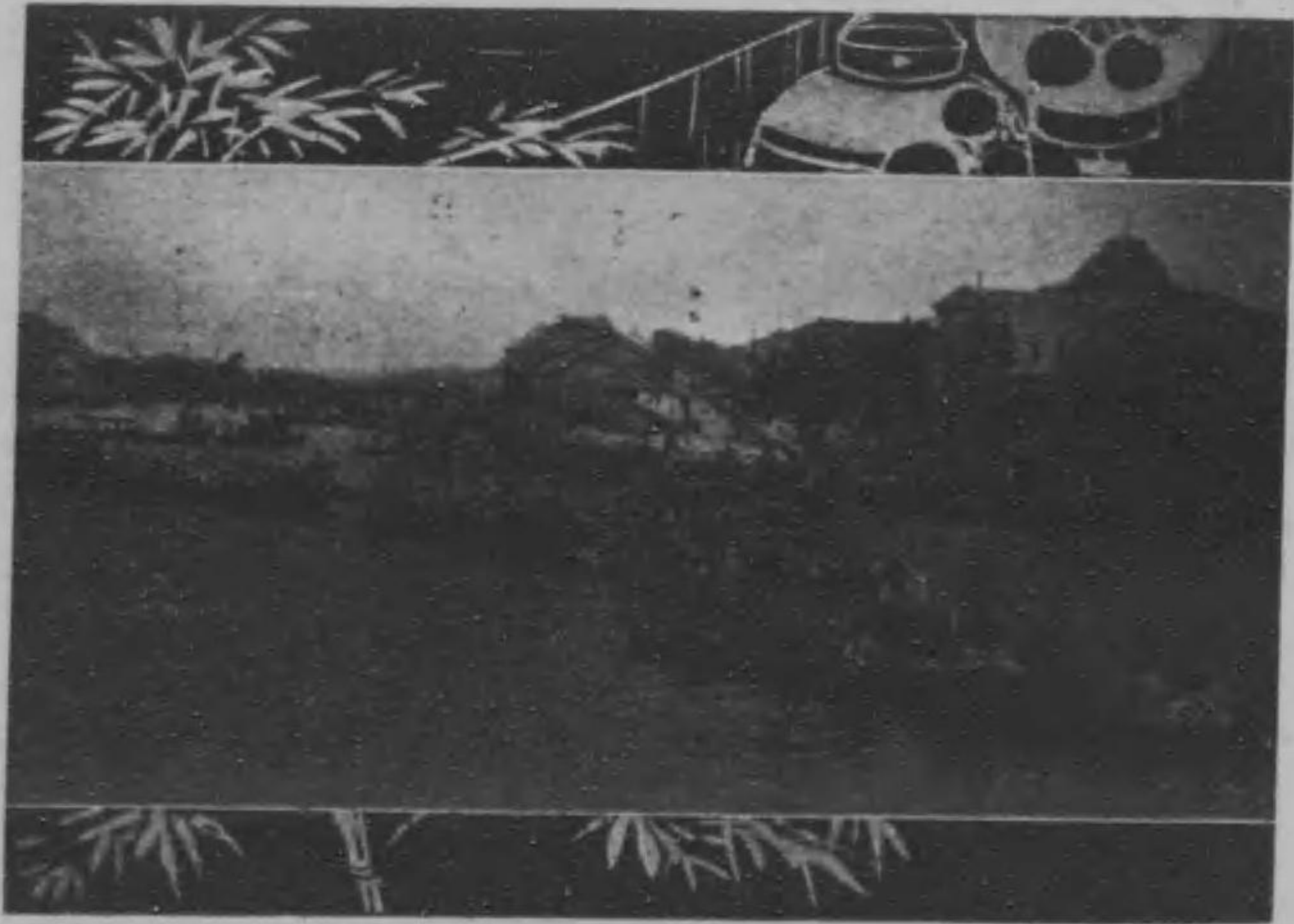
北區大工町

府天満宮  
 『激浪花飛鎮駐春城北靈祠猶仰德』天曆年間村上帝の勅願により

大阪府名所舊蹟案内

て創建せられし古社なるが、屢、祝融の災に罹り天保年中又大鹽騷擾の災に逢ひしも再建し、近年大に修理を加へて今日の壯觀を致せり、社内攝社多く、參拜者四時に絶えず、正月の初天神、秋祭の神事の盛んなる、殊に七月祭の般盛の如き市内夏祭の第一と稱す。

は安治川通南四丁目にあ  
り、小阜草間一石標存す、丘は當年の  
奇才河村瑞賢が安治川を穿ちて其の土砂を積み、兼て防波に備へ  
人呼んで波除山となせし所とす。瑞賢曾て淀長柄中津の諸川を



景の御渡祭夏宮満天

治めて大功あり、この波除山を作るや、指して人に語つて曰く、『この山二十年にして平地となり又二十年にして田とならん』と後人先見に服すといふ。

金峰

海門良策奈波瀾。虎尾履來肝膽寒。欲見當時治水跡。

鯨江一簣瑞賢山。

櫻之宮……造幣局……泉布觀

北區中野町

花は東都の墨堤に比して稍、少しと雖、川は隅田の水よりも清く、攝河の翠黛を雲際に見、錦城の天主を花間に見、澱江を隔て、造幣局、泉布觀の勝境に近く、社殿清淨、天照皇太神を祀る亦城北の一名區たり。春時長隄、櫻雲の美に加へて、附近十里の菜花、黄金を敷き、士女其の間に嬉遊す。嵐雪の句碑、『花に風軽く來て吹け酒の泡』あ

大阪府名所舊蹟案内



り。蟲聲月色共に賞すべく華表前の江水は所謂青灣の水にして最も茶を煮るによろしく曾て豊公の料水たり。江畔、田能村直入建つる所の青灣銘の碑あり。

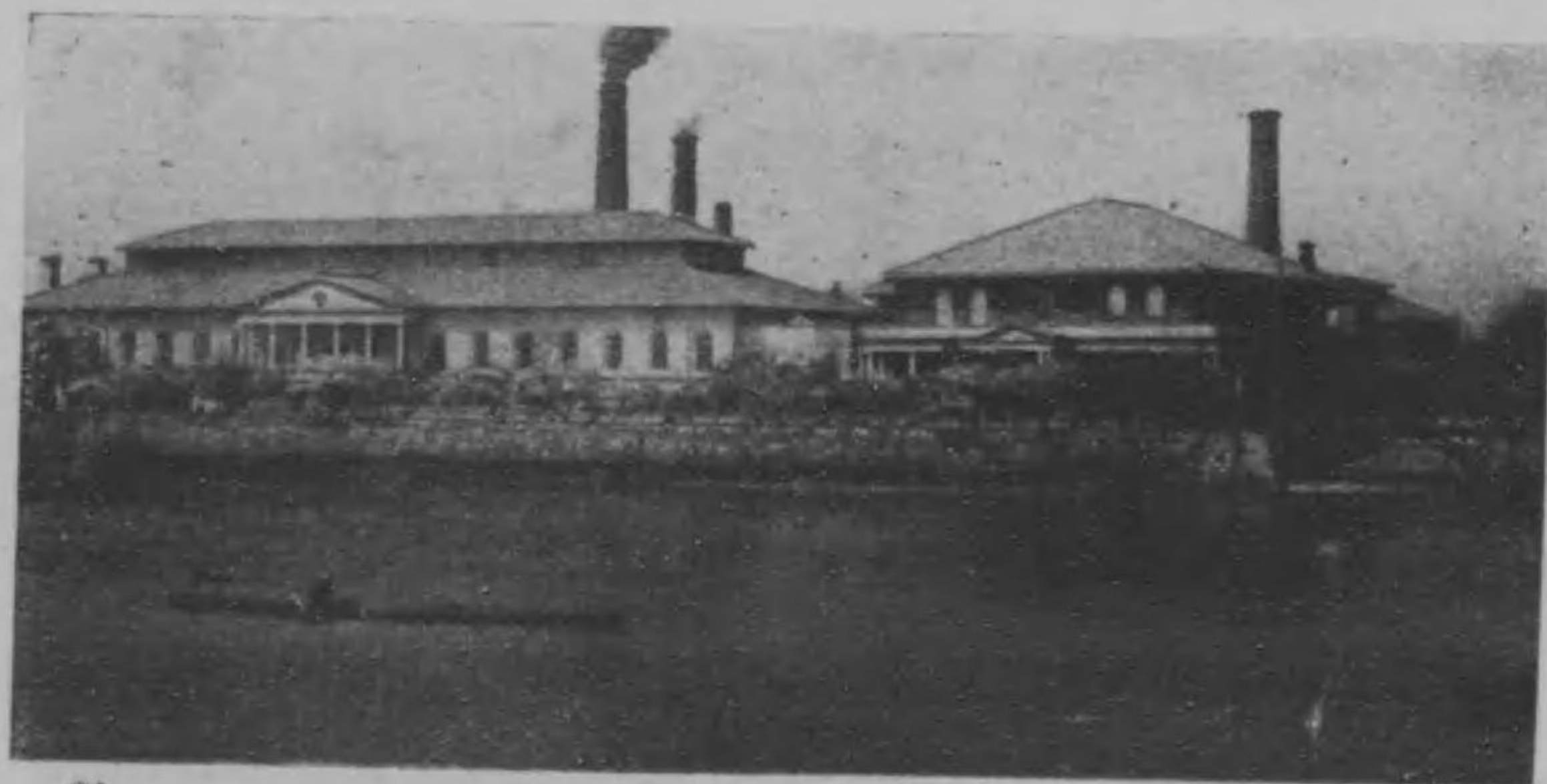
正裕

ちりなから流れもやらで網島にかゝる櫻の宮の春風

北區綿屋町

大鹽平八郎墓

世は天保の亂賊平八郎を記して哲人洗心洞主大鹽後素を説く者少く人は騷擾の慘を傳へて酷吏の弊を忘るゝもの多し。一片の墓石黙々として雪虐風饕に



造幣

任かす。

大鹽君子起索吾舊著外史答以其佩刀。刀名工所造陋撰不足以當之慙

悚之餘賦此奉謝 賴山陽

吾書三千餘萬字博得君家兩尺鏡廉明所佩可辟妖服之護身長不失君刀疑經斬姦邪魚腸紋雜血痕黥吾書字々頗類此此是千古英雄血有新陳用意素心相照兩如雪如新發硎付吾藏及未覆亂債君閱吾觀吾心佩吾心百歲不蠹又不折

西山宗因碑

北區天滿西寺町



局

大阪府名所舊蹟案内

されは茲に談林の木あり梅の花

梅翁(宗因)

肥後武士と生れて延保頃浪華に入り、俳壇の豪として、句姿に用語に浪華趣味を發揮し、檀林の一派を創め、遂に江戸芭蕉の正風と相對して海内の俳壇を二分せり。宗因又畫を能くし筆致洒脱一種の趣あり。天和二年江戸に歿せり。碑は其子宗春の建つる所に於て『實省宗因法師觀光昌察處士』の字を刻せり。

花て候お名をは申すまひの袖  
夢の間よ唯若衆の春

宗因

四ツ橋

涼しさに四ツ橋を四ツ渡りけり

南區四ツ橋  
來山

長堀西横堀の二川交叉して綠水溶々たる所、四橋井字を畫いて柳影水に蘸せり、古來浪華名所の一と稱せらる。觀月納涼に宜しく

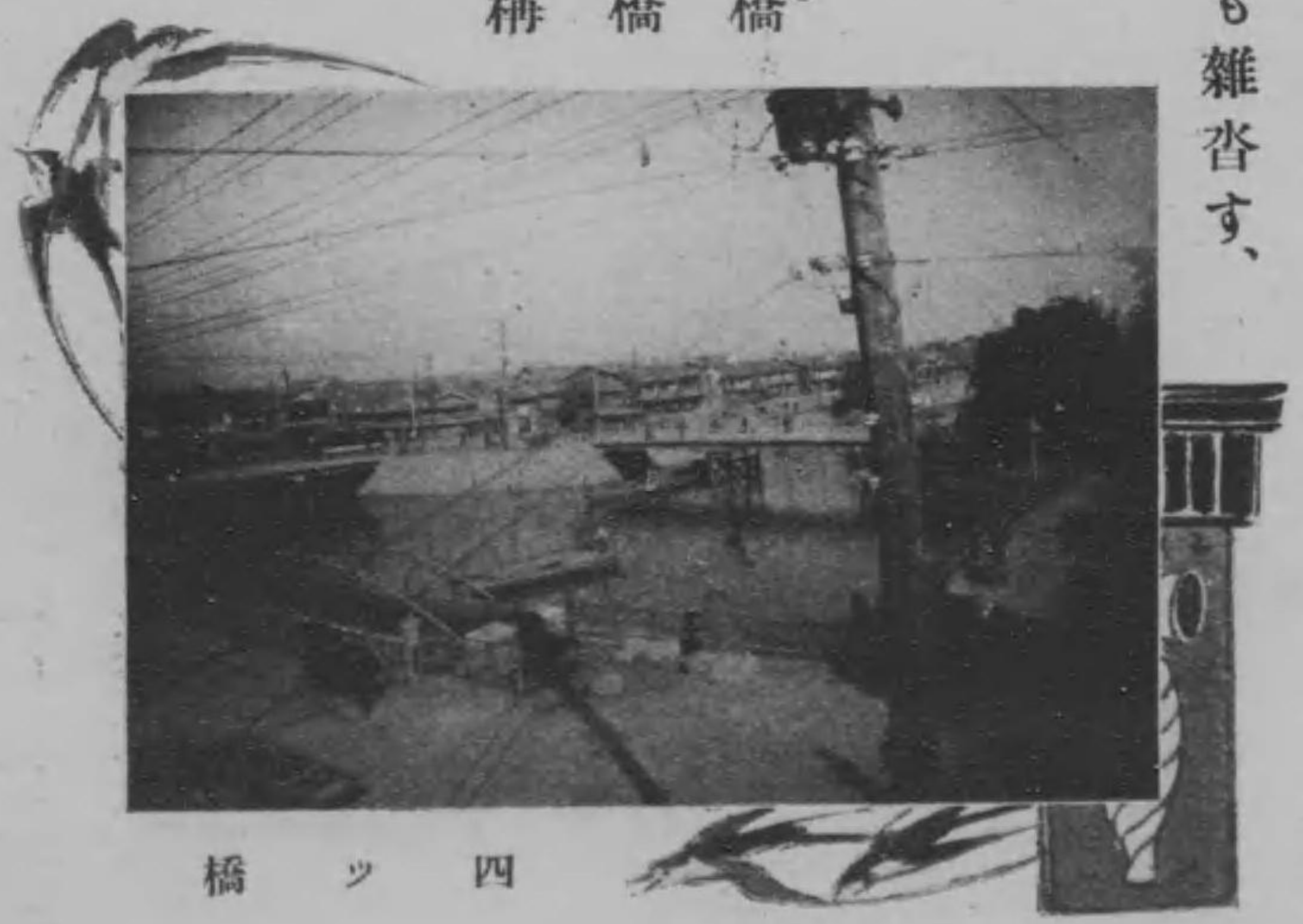
壺所の所謂『月華何處望尤宜十字江流口字橋』は之れなり、地は市の中樞に當り電車交叉し行客最も雜沓す、橋畔古來名物の煙管舗多し。

心齋橋

南區心齋橋筋

橋は長堀川に架せる。伊太利式石橋にして眼鏡形をなす。此の橋南戎橋より北船場に至る間を心齋橋筋と稱し大阪の銀座街とも稱すべき所たり、道路は比較的狭しと雖も、老舗巨店軒を並べ、行人の絡繹たる真に浪華商衢の中樞たり。殊に夏時滿街

大阪府名所舊蹟案内



四ツ橋

日覆をなすのとき、三伏の炎威を  
忘れ、瀟洒たる店飾りは、往來の子  
女と相映じ、恍として幻境のごと  
し。

### 今宮神社

南區惠比須町三丁目



心齋橋

内外、方二十里の人を集め、般賑熱鬧は東京大鷲社の酉の市とも比  
ぶべし。我は蛭子命の稱にして古來此戎を龔神と傳へ、賽者の羽

今宮戎と稱し、町名も茲に出で古  
來頗る有名の社たり。祭神は天  
照大神、蛭子命、外三柱なり、一月十  
日の祭禮は十日戎と稱へ、殆ど市

目板を敲きて『参りました』を大呼するなど頗る古奇の趣きあり。

### 四天王寺

南區天王寺元町

#### 林羅山

太子盛名歷世崇。不  
時新作四天堂。丹楹  
刻桷驚人眼。終忍破  
茅風雨中……。

電車西門に降れば石華  
表高く堂門に映じ、標石  
『大日本佛法最初四天  
王寺』の字先づ目を驚かす。

寺は天台宗にして荒陵山敬田院四天王寺と號す。聖德太子創め



四天王寺

て玉造に建立せしを、後荒陵の東に移したるものにて、實に我國最古の靈刹たり。千餘年の間、幾多の天變地災を経たりと雖、巍然其偉觀を存し、境内宏闊幽邃にして、老木立ち古池湛へ、四方に大門を開き、堂塔丹碧燦として相映じ、歩々名蹟を仰ぐべく、實に後柏原院の御製『かしこしな法の初の名をとめて難波の寺は末世まで』を思ふ。四時參詣のもの塔の如く特に春秋の彼岸詣りの如き雜鬧名狀すべからず。什寶には國寶の外、珍貴のもの頗る多く庶人の拜觀を許し、



天王寺西門

高さ二丈六尺の頌德鐘は世界第一巨鐘の稱あり。有名なる五重塔は金堂の前に聳え、高二十四間半、丹碧層々尖頭雲に入り、整齊の美、壯嚴の威、眞に浪華の壯觀たり。上層に登りて下界を瞰すれば、近畿の江山目睫に落ち、遐邇の巷街指顧に入り、其の大觀魂を消し魄を飛ばしむべし。夕陽金色の天、塔頭の九輪落暉を漂はして悠悠蒼靄に立ち、暮鐘般々として雲に入るの時、覺えず人をして禮拜せしむ。

(謡曲弱法師)……萬代に澄める龜井の水までも……五濁の人間を導きて濟度の舟をもよするなる難波の寺の鐘の聲、異浦々に響き來て普き誓みち潮のおし照る海山も皆成佛の姿なり……。

茶 白 山……雲水

南區天王寺茶白山町

孤丘茶臼の如く、老松鬱茂して外濠に映じ、今は富豪住友氏の別莊

たり、古の所謂荒陵あらかみさきの地にして元和の冬陣に家康の本營を置きし地、御勝山の稱之より出づ。夏の陣に西軍の雄、真田幸村が東軍と奮戦して討死せる所なり。翠竹緑松の間、畫樓粉壁夕陽に映じ、天王寺公園の好背景をなす。近く邦福寺其東にあり、雲水の名を以て世に聞ゆ、茶臼山をも雲水阪といふ、雲水比丘の再興に係り、寺院閑雅にして風趣あり、雲水の普洱茶料理は此の寺の名物なり。

○天王寺公園……新世界

南區天王寺玉水町



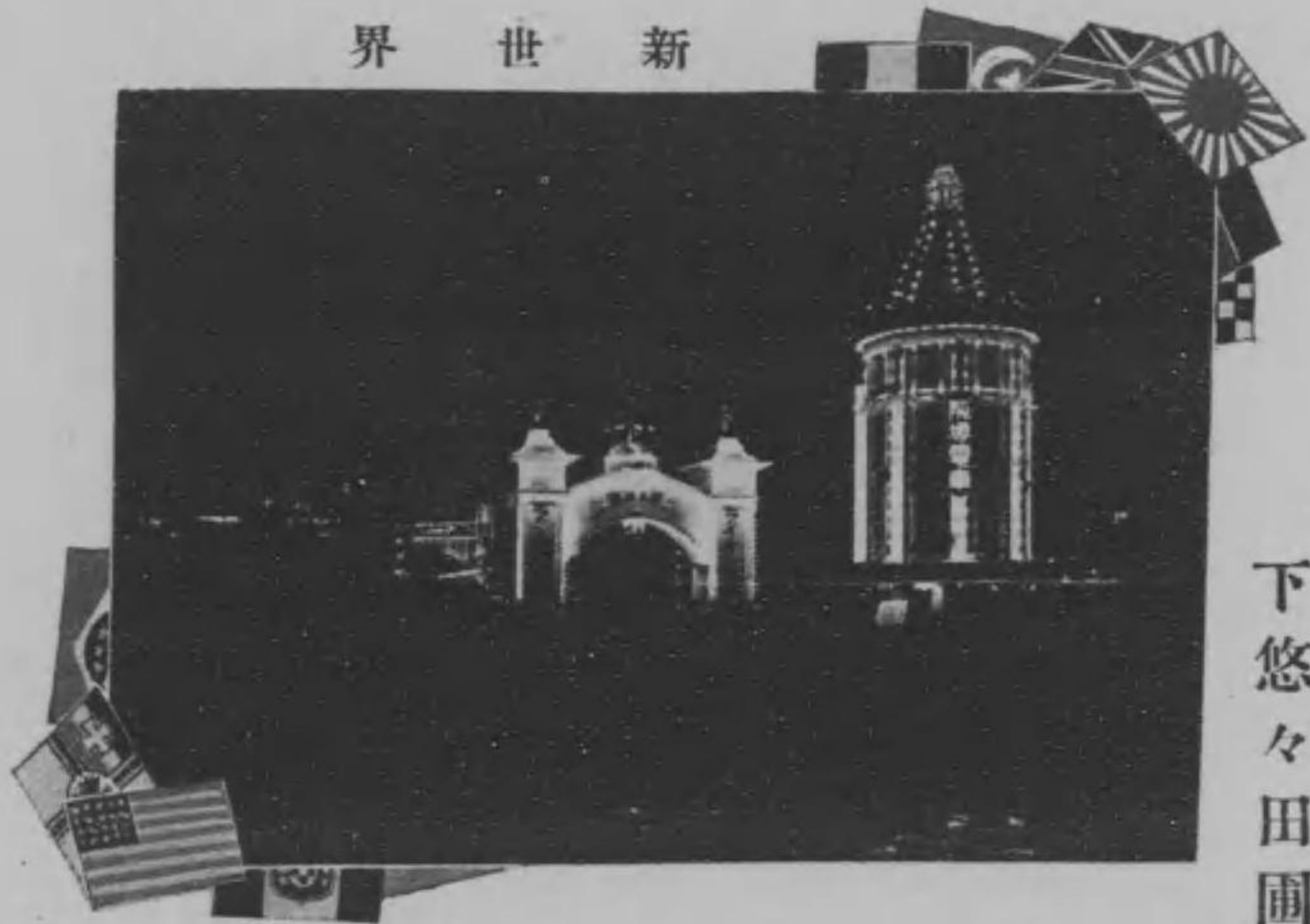
園公寺王天

地は天王寺茶臼山の勝地に近く、路を隔て、阿倍野の岡に隣り、厓

下悠々田圃の蛙鳴を聴くべく、廣袤十萬坪餘、和洋

兩式の庭園は閑雅瀟洒の好對照を爲し、公會堂温室運動場娛樂場新世界等其間に在り。氣清くして變化萬千、歐米新式の娛樂機關を集めて慰藉に供し、園池亭榭、排置の妙を極め、雅俗併せ領して市街公園の一傑作と稱す。浪華市唯一の大公園たり。明治三十六年の内國勸業博覽會場の跡を受け、市は鉅萬の資を投じて之が經營に當り著々としてその完美を致せり。四時

新 世 界



大阪府名所舊蹟案内

逍遙行樂の盛、海内に比ひ少なく、髣髴として西歐の勝園を偲はしむ。

○ 超 願 寺…竹本義太夫墓

南區天王寺大道二丁目

寺は聖德太子の開基にして太子自作の阿彌陀佛を安置す。代々皇室の歸依淺からざりしが曾て回祿の災に罹りて焼滅せしを眞宗の祐眞、教祐等之中興し、内陣を以て遇せられしより寺運の隆盛を見たりき、境内に音曲義太夫の元祖竹本義太夫の墓あり、義太夫は始め天王寺村の農なり、性淨瑠璃を好み、宇治加賀井上播磨の名手に就き祕奥を極め、藝名を義太夫と稱し、天性の美音に刻苦練磨を重ね、遂に獨特の一流を創成し、斯界の代名詞たるに至れり。常に好んで近松門左の文を節附し、美聲妙文相待ちて天下を風靡し、浪華藝術の權威を立つ、碑は綠陰深き所に在り、元祖竹本義太夫

墓と題し側に正德甲午年九月十日と記せり。

○ 勝鬘院…愛染塔…遊行寺…夕陽丘…陸奥伯…小松帶刀墓

南區天王寺夕陽丘町

院は聖德太子の勝鬘經を講せられし道場にして、愛染明王を安置す、年々六月一日の開帳には、愛染詣とて賽者雜鬧す、愛染塔は、夕陽丘上にあり、古木蕭散之を周り、二重の寶塔は、彩色落剝せしと雖、古雅優麗尙ほ都下建造物中稀觀の一たり。

遊行寺は字勝鬘阪にあり、太子講經の跡にして遊行派の道場たり。一遍上人も來りて茲に寓せしことあり、本尊を藥師佛とす、堂前の芭蕉茶屋には芭蕉翁の碑あり、黃蘗佚山の題筆にして文は滋野井中納言の撰に成り、翁が難波の終焉を記念せるものなり。

夕陽丘は新清水寺より東北にかけたる一帶の阜を指稱し、眼下

萬葉海を隔て、淡路島山を漂渺の間に望む。歌聖藤原家隆(新古今の撰者)この地に幽棲し、

契りあれば難波の里にうつり来て浪の入日を拜みつるかなの秀詠あり夕陽が丘の名實に之に出づ。丘上家隆の墳あり五輪若蒼く浪華の海を瞰し愛染塔に隣れり大阪府立高等女學校今此の地域に在り。

此の地に隣りして陸奥宗光伯及父君千廣の墓あり宏闊幽邃洵に俊傑の瑩域たるに恥ぢず。

千廣和歌を好みて家隆の風懷を慕ひ曾て『空せみのからはいつこに朽ちぬとも吾か魂やとるかた岡を是れ』の詠あり死後この地に葬らる。伯亦遺言して先人の側に眠る。小松帶刀の墓亦この北域にあり。

豊聰太子勝鬘夫人遊行芭蕉愛染塔而して家隆陸奥伯父子夕陽丘邊一帶の地街隅郊畔何ぞ幽玄の趣に富めるや。

道頓堀…安井道頓…安井神社

南區道頓堀

道頓堀川の岸十數町、日本橋南詰より戎橋に至るの間を市内繁華第一地の道頓堀となす。五座の大劇場茶屋酒樓軒を竝べ、川を隔て、歌吹街に對し、般賑云ふばかりなし。堀は天正の頃安井道頓豊公より城南の葦洲を賜ふて大運河を作り、弟道トの時に及びて落成せるものにし



大阪府名所舊蹟案内

て即ち人を以て堀に名けしなり。  
 今の日本橋畔の安井氏は其裔に當り安井神社は道頓の崇信せし者と傳ふ。若しそれ春曉秋宵堀に沿ふて裏街を望めば緑水油の如く溶々として動かざる處色彩多趣にして畫の如く亦一種の幽韻を覺ゆ。

千 日 前

南區難波河原町

東京の淺草と東西相竝んで千日前の名夙に著はる。地は道頓堀と丁

字形をなして相隣り、劇場寄席興行物の盛、關西第一と稱し、鼓笛噪



千 日 前

然、電燈不夜城を現じ繁華熱鬧茲に至るかと驚かしむ。此の地維新前罪人の刑場にして腥風鬼火青く、千日寺の鐘聲陰悽を極めたりし昔日を想へば世變の急、活動寫眞も猶寫して及ばざるを嘆すべし、近時遊樂場、樂天地新に成りて又般盛を加ふ。

一 心 寺

南區逢阪下ノ町

圓光大師二十五跡の一にして天王寺の華表を距る西一丁にあり地、高燥にして公園を畦下に瞰し、頗る眺望に富む。慈鎮和尚が茲に新別院を作りて、法然上人(圓光)を請せしを創始となす。上人茲に日想觀を修する數年『阿彌陀佛といふより外は津の國の難波のこともあしかりぬへし』の詠を後、白河法皇に奉りて御酬詠をうく。家康の茶白山に陣するや本寺を以て其居となし、爾來代々の尊崇ありて寺運漸く盛んに、一心寺の號も家康の意に出づと傳



ふ。表門は其色に因みて黒門の稱あり大阪城の玉造門を寄附されたるなりといふ。本尊は傳ふる所によれば毘首羯摩の作阿彌陀佛にして三千佛堂彌勒堂御影堂等あり、境内古墳墓の多きを以て聞え。大阪陣に戦死せし本多忠朝及び八代目市川團十郎小西來山の墓等知名のもの尠からず。家康駒繫の松は枯れて跡のみなれど大久保彦左衛門手植の老椿は昔ながらの色を改めず、小堀遠州八窓の茶室狩野永徳山樂常信僧古澗等の畫障等觀るべきもの多し。

府高津宮……高倉稻荷

南區高津町一番丁

仁德仲哀應神履仲天皇及神功皇后葦姬皇后を祀る。貞觀八年奉幣使を下されしこと史に見え、代々皇室武將の崇敬厚く、秀吉の大阪築城に當り、現地に遷宮あり、後屢修營して今日に及べり、望煙亭

高津宮



大阪府名所舊蹟案内

は仁德帝一千五百年祭の際建造する所、社殿莊嚴にして地高爽、崖上の舞臺は恰も西京の清水舞臺の如く臺上の眺め頗る雄麗にして、詣者晝夜絶えず。東隣の高倉稻荷は賽者の多き市内、稻荷の第一と稱せらる。

仁德帝皇居址

東區東高津北ノ町

高き屋にのほりて見れば煙たつ民の竈は賑ひにけり。仁德帝愛民の大御心に其の名高く響ける高津の宮址は今、定かな

らず、或は大坂城邊かと説くものあれども、宮址碑は嚴乎として此の地にあり。

碑は仁徳帝一千五百年祭に際し、地を相して建つる所のもの、悠々千載其の仁、天の如く、子民其徳を仰ぐ更に新なり。

頼山陽

煙未浮天皇愁。煙已起天皇喜。漏屋敝衣富赤子。子富父貧無此理。八洲縷々百萬煙。簇擁皇統長接天。

中井竹山一家の墓

南區上本町四丁目誓願寺

中井竹山履軒兄弟は名家登庵の子として共に五井蘭洲に學び、各一家を成す。竹山の主として懷徳堂に文秉を執ること二十餘年浪華文學空前の盛觀たり。是より先き片山北海の此の地に混沌社を結び、篠崎三島小竹父子の梅花塾を創めて各一方に霸たりと

雖此の地文教の殊勳は竹山の懷徳堂書院を推さざるを得ず。墓地には竹庵登庵竹山履軒蕉園等中井歷世の墓碑を竝べ、鬼才井原西鶴の墓に對す。

竹山 自像自讚

泉比坐斷四十餘年。淺陋之學豈究天人。微力閑進襄斥異言。愚者一得埃聖不愆。

五井蘭洲の墓は附近上本町實相寺にあり、登庵の親交として其二子の師たり。懷徳堂の興る蘭洲與つて力あり。

井原西鶴墓

南區上本町四丁目誓願寺

井原西鶴墓『人間五十年の究り、それさへ我には餘りたるに、ましてや『浮世の月見過しにけり、末二年』と辭世を残して、元祿六年に歿せる西鶴が文世に定評あり。靈犀の眼、珍瓏の筆、古今に獨歩

大阪府名所舊蹟案内

し、浪華文學の爲に萬丈の氣を吐く。鶴や宗因派の俳匠として難波鎗屋町に住み、住吉社頭に二萬三千句を吟しては二萬翁と號し、二十餘卷の草紙に不朽の生命を宿せり。墓碑は門人團水等の建つる所仙皓西鶴の四字に此の鬼才の跡を留めたり。

### 堺市

#### 明治天皇行在所

堺市中ノ町鈴鹿氏邸  
同 熊野尋常小學校

明治十年、明治天皇堺市へ行幸の際、舊家河盛氏の別莊を以て行在所に當てさせ給ふ。邸は今鈴鹿氏の有となれるも、便殿、御寢臺等舊のまゝ保存しあり。當時又車駕熊野小學校へ臨幸し、和河泉三國の優等小學兒童を此校に集め、習學の狀を天覽ありて、文教を奨めさせ給ふ。校庭に明治頌徳記念碑を建て、故小松宮殿下の御染筆にかゝる、永く大帝の偉徳を頌し奉る。

#### 茅渚の海

堺市西方一帯の海

神武帝東征の役、皇軍此の地に戦つて利あらず、皇兄五瀬命流矢に中りて薨じ給ふ。矢創を海にて滌ぎ給ふより、此の海を血沼と稱

大阪府名所舊蹟案内

せしを後世茅淳と改め稱せりと傳ふ。

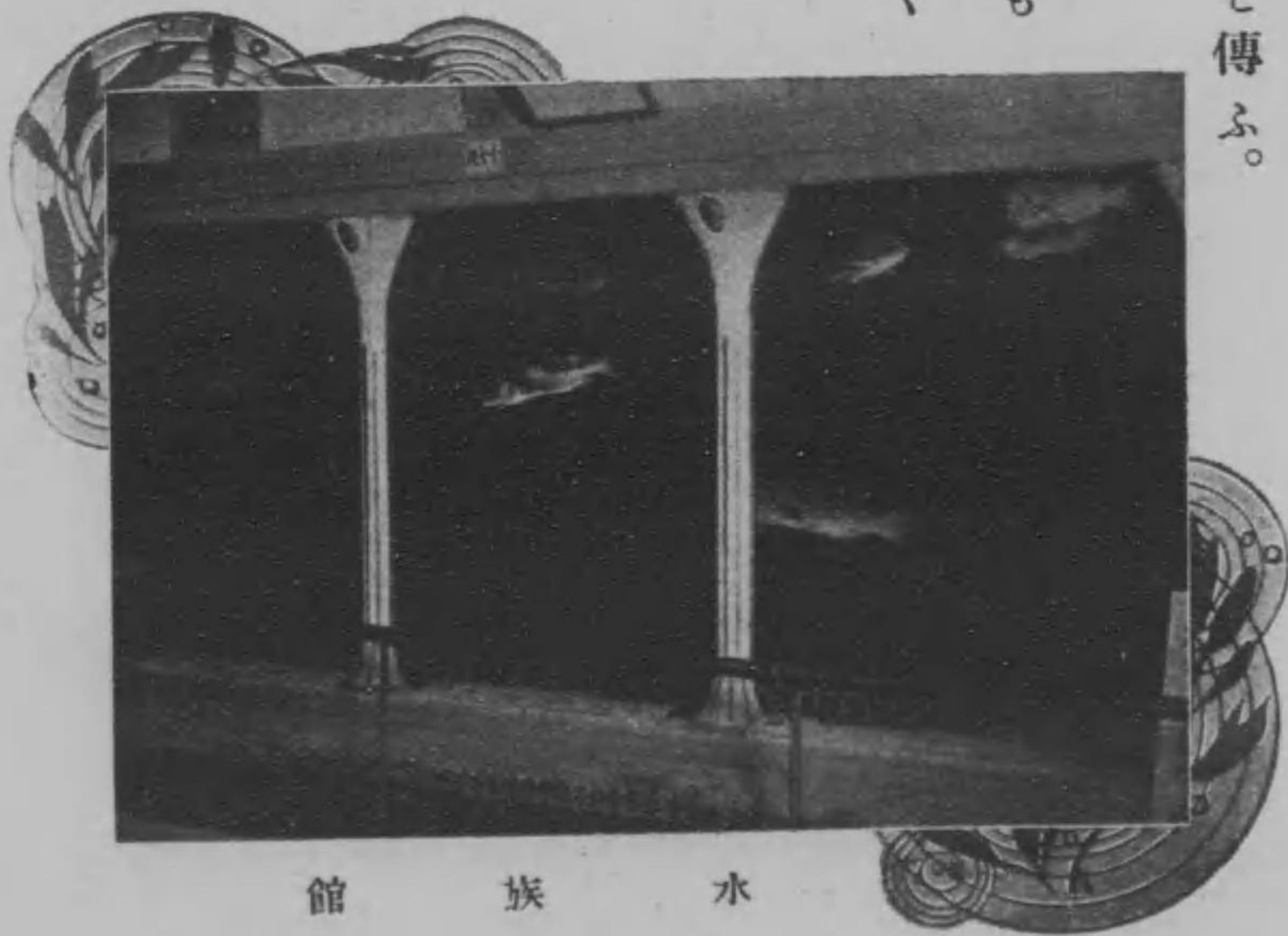
神武天皇御製東征來目謠

みつゝし來目の子等か垣も  
とに植ゑしはじかみ口ひく  
我は忘れず撃ちてし止まん。

### 市立堺水族館

堺市大濱通 電車直通

昔に聞きし龍宮城をさながら  
に今に移し、海底魚貝の生活を  
歩々の間に見せしめ、教育慰樂  
の上に其效大なる水族館は明  
治三十六年第五回内國勸業博



水 族 館

覽會附屬館として經營せしを後に拂下げ、市營として今日に及べ  
り。地は舊砲臺の跡にして、海に面し庭を控へ、周圍宏闊にして天  
然の佳趣に富み、庭園は即ち福羽技師の佛式の意匠に成り、魚槽は  
即ち飯島博士の案に出で、槽内巖石の排置は海底又は保津川の奇  
景を模せしと聞く。曾て明治天皇陛下竝に 今上陛下の東宮に  
在しまし、時臨御あらせられし名譽の記念館にして來觀者常に  
絡繹たり。

### 天誅組義士上陸地

堺市榮橋通二丁

文久三年中秋の望夜、月下三十の壯士、肅々腕を扼して天保山下を  
船出し、此の地に上陸して、纜を橋畔の老榆下に繋ぎしは、中山大納  
言を奉じ、世に先ちて勤王の義旗を擧げたる藤本鐵石、松本奎堂等  
天誅組の一隊なりき、後人老榆を指して忠木と云ひ、碑を立て、上

大阪府名所舊蹟案内

陸地の記念となす。

大濱公園：北公園

堺市大濱通  
吾妻橋通

大濱公園は茅渚の海に臨み水族館に隣し燈臺海口を照し一たび浴樓に上れば千里の長風衣髪を吹き紀淡の紫山眉端に落つ。海水浴潮湯海樓等の設備悉く整ひ四時の遊覽に宜し。又大阪市民健康の安全瓣として土地頗る殷賑を極む。

北公園 大濱公園の北に連り



大濱公園

僅に歩を移せば眼界一轉風光幽雅住吉の高燈を松林の間に望み遠く摩耶六甲の連山を見る。地はもと燈臺址にして園下の遠淺は最も沙干狩に宜し北畔一碑あり寛政文化の間獨力堺港の改修に功ありし吉川表右衛門の記念碑なり。大濱公園の豪華に對し幽雅の別界をなす。

妙國寺

堺市材木町東二丁

徳川家康この寺に宿して適本能寺の變を聞き直に遠州に歸れることは史に著はれ曾ては猛將信長半夜の夢を驚かして舊の寺院に返されし大蘇鐵は今猶ほ千年の蒼蓋を眼前に展べたり。家康元和の役に再び此處に來り大蘇鐵樹を見『妙なりや國にさかゆるそてつ木の聞きしにまさる一もとの株』と詠せしより世に蘇鐵の大樹を妙國と呼ぶといふ。寺は日蓮宗にして日光僧正の開



打連く妙國寺へと參詣し唯彼蘇鐵を拜しければ今は此の蘇

基三好長慶の叔父實久地を寄進し  
油屋常吉堂樓を建つ。輪奐の美見  
妙るべく三重塔の彫刻は左甚五郎作  
國と傳へ妙技頗る賞すべし庭前の老  
蘇鐵は靈怪の氣を吐いて側なる利  
休好みの六角石燈籠に對す本堂に  
羅陳せる什寶には古文書書畫武器  
蘇鐵の怪(太閤記)僧俗の嫌なく  
鐵器等徵古鑑賞の料に富むもの多  
し境内には曾て佛人の膽を驚かせ  
し土佐浪士十一人割腹の碑あり。

鐵の爲に世の中一際騒々敷信長公心に是を怒り玉ひ……  
人夫をかけて彼樹を掘出し遂に安土に引かれける……公或  
夜更がてに目覺獨り坐して在しけるに廣庭の方にしわがれた  
る聲して呼ぶ音す怪み耳をすまして聞給ふに正しく妙國寺へ  
歸らふ歸らふといふ誰かあると召すに蘭丸候と答ふやがて召  
されしかくとのたまふにぞ氣早き蘭丸手燭を取りて先に立  
ち遣戸を開けて縁側に出れば信長公も追取刀にて立出給ひ傍  
りをきつと見給ふに月ははや西山に落入つてあやめも分ぬ暗  
き夜に松風颯々と物凄く何れに聲の有けるぞと猶豫ふ内に以  
前の如く怪しき聲にて妙國寺へ歸らふといふより早く蘭  
丸つかくと廣庭に下り立聲をしるべに立ちよりて窺へばま  
がふべくもあらず蘇鐵の聲を出すなり……

南宗寺

堺市南旅籠町東三丁

一たび山門を入れば閑寂幽邃塵念頓に消す、請ふて偉僧澤庵の手澤を賞し、利休が方丈の茶室に黙坐し、彼が遺愛の手水鉢、苔青き六角石燈籠に對し、そゝろに奇骨薄命の雅士利休居士の風神を想ふ。寺は禪宗大徳寺派に屬し、大林和尚の開基にして、三好長慶の建立なりしが、中頃兵燹に罹りしを澤庵和尚再興し、徳川將軍以下諸侯の尊崇厚くして、結構宏麗を極む。



室茶休利寺宗南

坐雲亭は秀忠家光兩將軍の來

りて休憩せる所、古織部設計の庭園の雅致ある縁下の無名塔は大坂夏の陣老雄家康が眞田幸村の奇計に敗遁せし跡と傳ふ。院後の利休茶室は實相庵と號し、日本三茶室の隨一と稱せらる。寺内に紹鷗、千利休、牡丹花、肖柏の墓あり、寺寶に觀るべきもの多し。閣に坐して遠く蛙を聴く夜かな。

蕪村

大安寺

(舊一國寺)

堺市南旅籠町東三丁

寺内の障襖に畫ける狩野古永徳が苦心の二十六羽の鶴及び遁麗の檜樹と、藝術苦心の逸話に名ある筆添の松は、夙に世に名を知らるゝもの、今や國定讀本の文に入りて、童幼猶ほ泉州一國寺の畫障を説く。

寺は禪宗東福寺派にして、徳秀和尚の開基たり。當時堺の港貿易の巨商納屋助左衛門(世に呂宋助左衛門と稱す)禪道に歸依し、其書

大阪府名所舊蹟案内



狩野古永徳筆襖畫 (大安寺藏)

院を擧げて當寺に寄附し、佛殿となせるものにして、善美を盡せる結構は以て助左豪華の狀を想ふべし。松永久秀が納屋家の爲に盈滿無常の理を一刀に示せしといふ柱上の刀痕今に歴然たり。四周の消金障に妙腕を揮へる古永徳が松檜の間、猿猴藤梅の間、鶴の間は古法眼元信の筆と傳ふる西湖の圖と共に鑑賞家の目を喜ばすべく、其他弘法大師作聖觀音像の妙相端嚴なる助左衛門寄進の壺香爐、利休の時雨の井戸など觀るべきもの多し。

更に本派及大谷派本願寺別院の共に由緒ありて而も堂宇の壯麗なる小林寺は狂言釣狐の白藏主の白狐に名高く、祥雲寺松の寺の建築寶什に見るべきものある如き枚舉に遑なし。堺は舊と山名氏清、大内義弘、細川滿元等の諸豪交、據りし所にし、信長家康に關する史蹟多く、又享保天文以來有數の外國互市場として般盛を極めし所たり。故を以て名所舊蹟に富み、雅人逸士の跡、美術古玩の類、藏蓄甚だ多く、流風餘韻今猶ほ存し、好事家の低回去る能はざる地たり。

府開神社

堺市甲斐町東一丁

開口神社は式内に屬し、又三村明神と號す。舊と鹽穴郷、開口村、木戸村、原村、三村の間にありしを以て名づく。神功皇后征韓凱陣の時、明神奇瑞を現し給ふと傳ふ。古へ住吉外宮と稱し、二十年毎

大阪府名所舊蹟案内



に朝廷より改造崇尊せられたるものにして、社殿は最も壯麗、三重塔繪馬堂の建造も亦妙を盡せり。境内多く櫻牡丹を植う。此地舊と念佛寺と稱する真言の名刹ありし跡なれば俗に此の社をも大寺と呼べり。陰曆四月八日の植木市九月大祭の般賑世に聞えたり。

## 西成郡

### 長柄豊碕宮址

豊崎町大字本庄邊

孝德天皇紀に『大化元年冬十二月天皇遷都難波長柄豊碕』とあり、帝の宮柱太しき立て南面して大化の新政を成し給ひしは實に今の豊崎町一帶の宮址と傳ふ。瑞雲繞りし宮居の跡は見るに由なく麥秀漸々として纔に一祠を存するのみ、公朝卿が『いにしへの長柄の宮はあともなし橋柱たに朽果つる代に』(夫木集)と咏歎しける時よりすらはや千載を経たり。夕陽春く處、中津河畔、杖を駐めて先聖の古都を偲べば、髣髴として鳳闕を暮靄の間に描くべし。

長柄橋址 橋址の諸説確かならざれど長柄の宮の附近なりしや

疑ひなく、日本古名橋の随一として千古雅人の風懷を惹きしものなり。日本後記に嵯峨帝使を遣はして攝津長柄橋を造らしむと見え、古文歌集にこの橋名を載せざるはなし。名高き人柱の口碑とともに朽ち柱獨り長く留めしことは、『橋柱無らましかは流れての名をこそ聞かめ跡を見ましや（藤原公任）』にも知るべく、赤染衛門は天王寺に詣づるの途に橋址を過りて『われはかり長柄の橋は朽ちにけり難波の事もふるか悲しさ』と橋によせて述懐し、和泉式部が『ありけると橋は見れとも甲斐そなき舟なからにて渡ると思へば』とかこちけん。兼葭風に戦ぐの時、月下に立て古橋を懷へば、本居宣長が『面影に立つや長柄の橋はしら朽ちても月のすみ渡る夜は』の感あらん。

鶴 満 寺

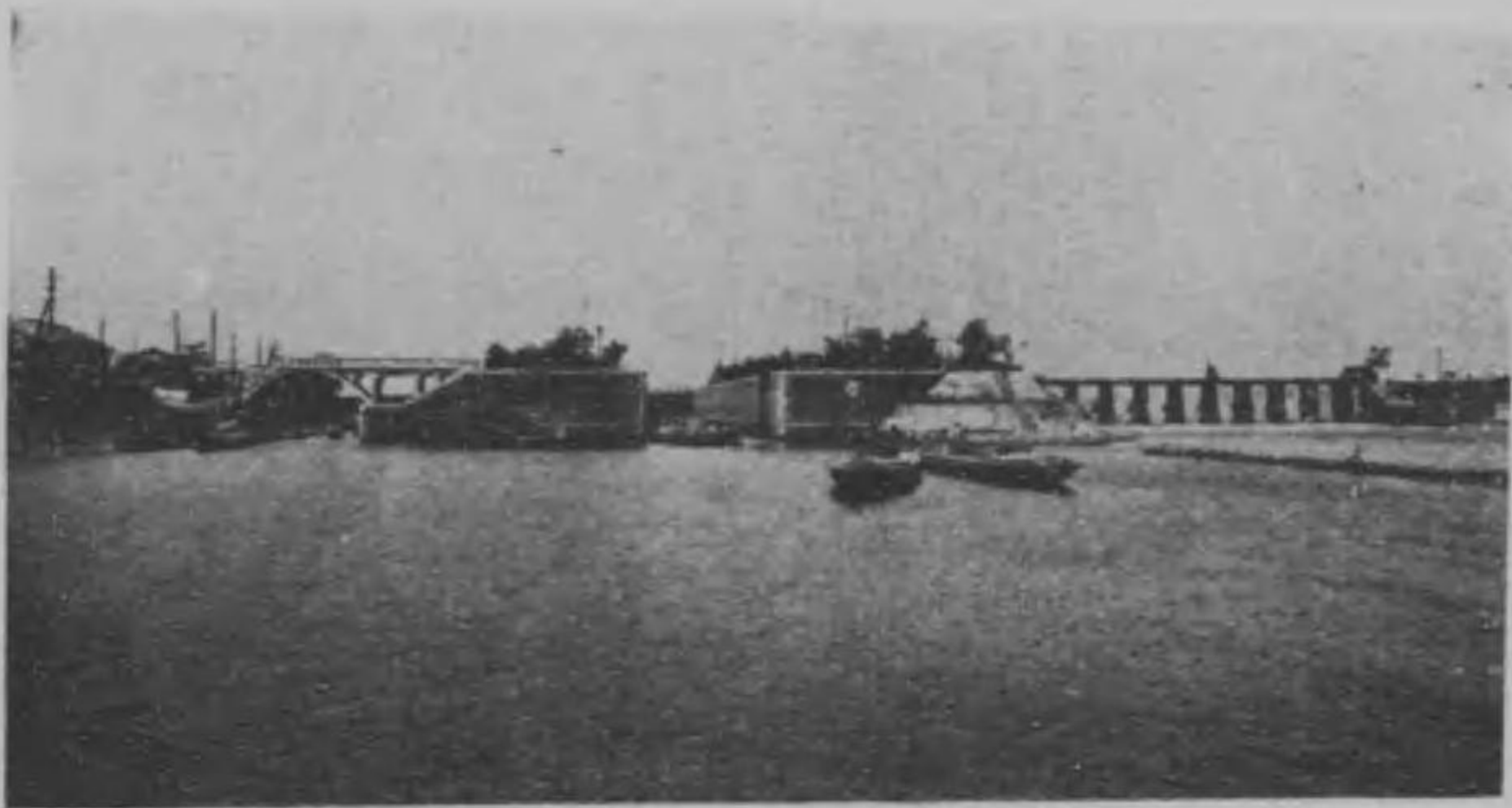
豊崎町大字南長柄

天台宗の寺院にして慈覺大師の開基と傳ふ。本尊は慈覺大師作阿彌陀佛なり、荒廢の後、延享中忍鎧上人中興の時、檀越大阪の上田氏の建立にかゝれり、鐘樓の古梵鐘は世に名あり、往昔長門毛利侯の寄進に係り、曾て萩城下の土中より掘出せし者と云ふ、支那西晉時代の製にして千五百年を経たり。鑄する所の『太平十年二月云々』の字體極めて古雅、邦内希有の名鐘たり、鐘銘は後代長州にて刻せるもの、句中に曰く『聞鐘聲煩惱輕。智惠長菩提生。離地獄出火坑。願成佛度衆生……』

毛 馬 閘 門……谷口蕪村

豊崎町北長柄

大阪の血管たる澱江の水命を制して、人工の威力を示せるものは毛馬閘門にして、淀川改修の日に當りて設けしもの、實に活殺兩瓣の妙機をなす。長堤の畔、江流洋々として、魚時に躍り、雨大に到れ

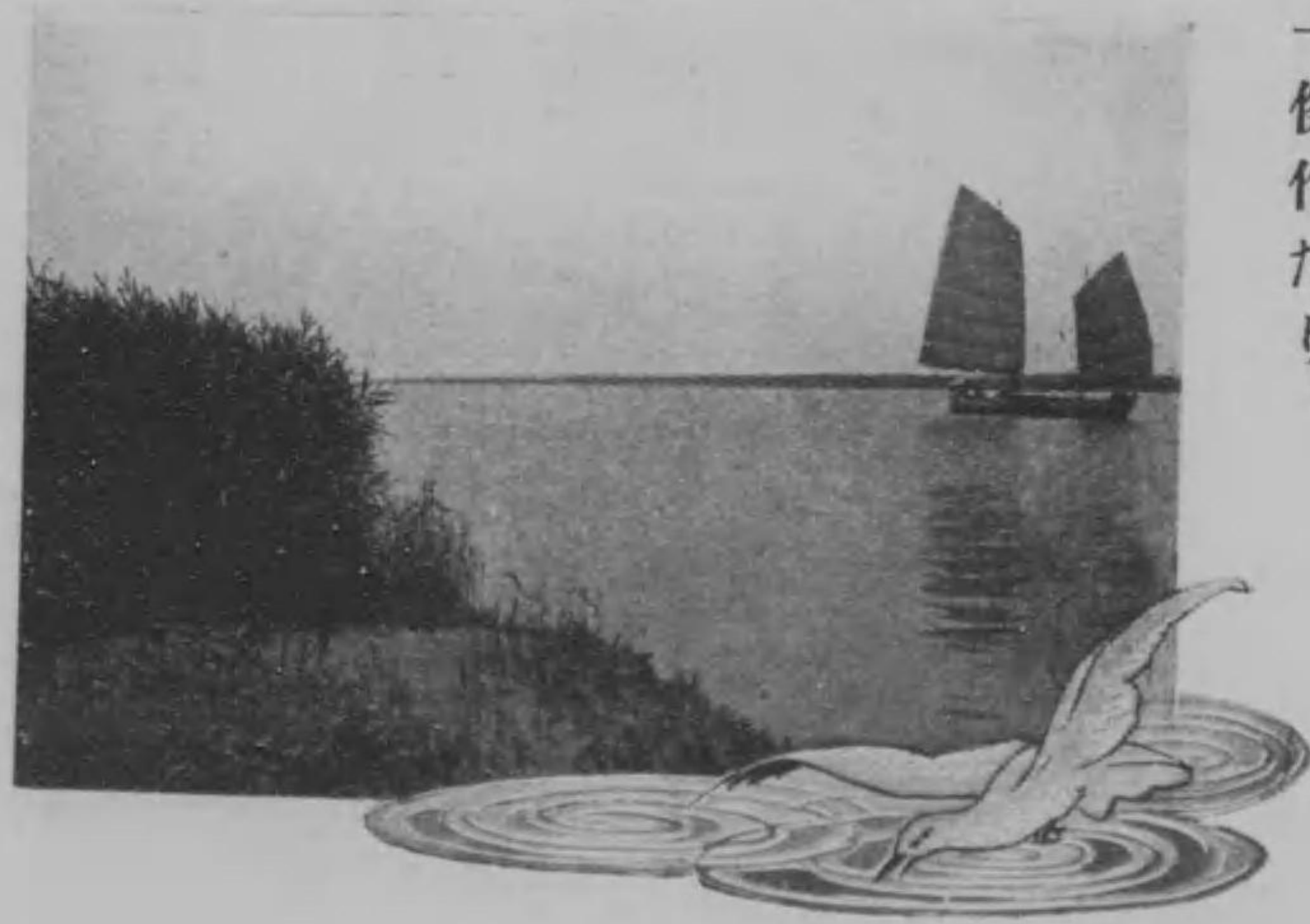


洗堰毛馬間門

ば剩水忽ち巨瀑を現す本邦第一の閘門として土功上の傑作たり。

五二

なり。其の作春風堤曲は實に蕪村が青年時の想出を敍し毛馬堤の春



岸頭高く建てる淀川改修記功碑は西村時彦の撰文に係る。畫俳の鬼才谷口蕪村は毛馬村の産川碓新

色を背景となせるもの、曲に曰く、

余蕪村一日問耆老於故園渡澱水過馬堤偶逢女歸省者先後行數里相顧語代女述意……やぶ入りや浪華を出て、長柄川『春風や堤長うして家遠し』一軒の茶見世の柳老にけり『古驛三兩家猫兒妻を呼妻來らす』『春草路三又中に捷徑あり我を迎ふ』故郷春遠し行々て又行々『楊柳長堤道漸くくれたり』……

江口里

中島村大字江口

淀の長江岐れて神崎川を派するの畔、即ち古の江口神崎の里址と傳ふ。當年の碓船港にして和船唐船舳艫を並べ、紅樓翠亭軒を接して所謂江口の遊君の住みける所なり。推古の朝の古きより、舒明孝謙仁明の御宇、高麗船唐船も此に湊り、遣唐使も茲に舩し、日本の咽喉地たりしこと載せて代々の史文にあり。後世堺大阪の發

展につれて此處もさびれ、徒らに西行法師と宿問答の江口の君の逸話のみ永く口碑に留まれり。雲水の詩人西行が『長月二十日餘の頃江口といふ所を過ぎしに家は南北の海を挟み、旅人の往來の船を思ふ。遊女の有様いとあはれにはかなき物かなと見えたりしに冬を待たぬ時雨の冴えくらし侍りしかばけしかる伏屋に立寄りて晴間待つ間の舍りを借侍りしに主の遊女許す氣色の見えざりしかば何となく「世の中を厭ふまでこそ難からぬ假の宿りを惜む君かな(西行)とよみしかば主の遊女打笑みて「家を出づる(又)世を厭ふとも(人)とし聞けば假の宿に心とむなと思ふはかりそ(遊女妙)と返して内に入り侍りき』といふ傳説のいつかは又江口の君を以て普賢菩薩の權化となし、絶好の詩畫題たるに到れり。君堂は江口にあり、遊君妙女像を安置し一に普賢院と稱する日

蓮宗の一小宇なり、江畔林間今も尼僧の堂を守るを見る。

(謠曲江口) ワキ 是は諸國一見の僧にて候、我未だ津の國天王寺に參らず候程に此度思ひ立ち天王寺に參らばやと思候。「都をばまだ夜深きに旅立ちて淀の川舟ゆく末は鶺鴒殿の蘆のほの見えし松の煙の浪よする江口の里に著きにけり。ワキサシ 扱は是なるは江口の君の舊跡かや痛はしや其身は土中に埋むと雖、名は留りて今迄も昔語の舊跡を今見ることの哀さよ……。

崇禪寺……崇禪寺馬場仇討址 西中島村大字山口

天平中行基僧正の開基にして徳叟和尚の中興にかゝり、足利義教の菩提所として其墓今に存すと傳ふ。本尊傳教大師作釋迦像及李龍眠筆涅槃像とを傳ふ、境内廣く千竿の修竹之を圍み、篁中二義士の墳あり、之れ郡山藩士遠藤安藤の兄弟が長兄の仇生田傳八郎

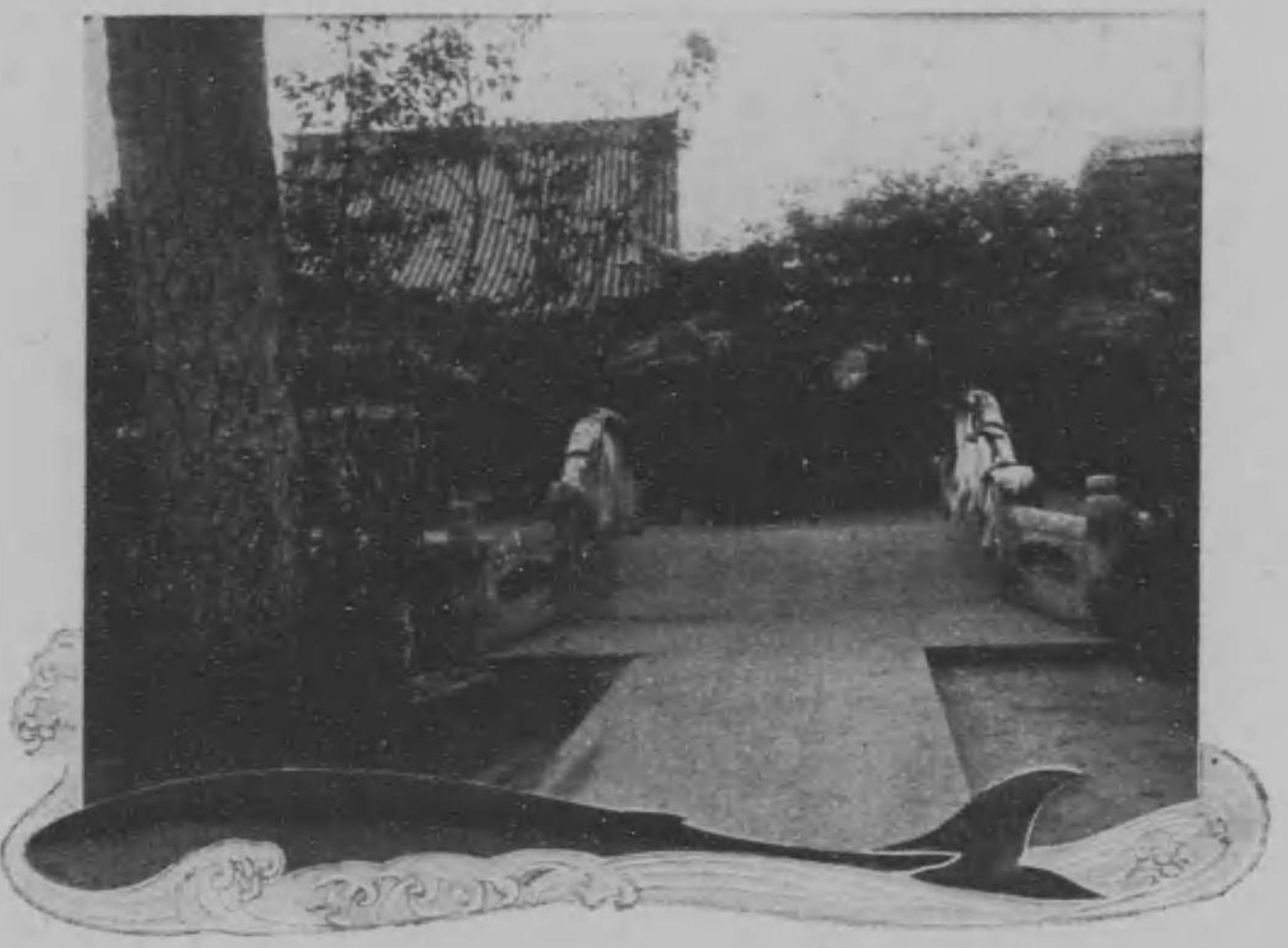
の爲に欺いて返り討ちせられし所謂崇禎寺馬場仇討の所なり、遺恨永く結び同情の賽者絶えず、二勇士が怯敵に欺かれて多勢と奮戦せし馬場は寺前松原ついきの所にして中島惣社の鳥居のほとりに當れり。

來國次國長の屋址 中島村淡路なる永春寺は刀劔の名匠來國次國長の屋敷址なり。國長は世に所謂中島來又淡路來と稱す、子孫今この地に姓と共に残り名匠が用ゐしといふ鐵床と古井と尙存するあり。

瑞光寺

大道村大字北大道

延寶の頃僧禪市の再興に係り天然山と號す(始め指月寺と稱せり)本尊は聖德太子作正觀音を祀る、鬱々たる滿境の古松は禪市の精を傾けて栽培せしものにして、當時松林夜光を放てる奇特に感じ



大阪府名所舊蹟案内

瑞光と號せりと傳ふ。泉池堂舎櫻松の間に相連り頗る幽雅なり明治四十三年 今上陛下東宮に在しける時台臨ありし光榮を有瑞せり、池に架せる奇橋は鯨橋と稱し寶曆中紀州熊野浦より寄進せる鯨骨にて作るものなりといふ。白山氏の庭園 津守村白山氏邸内にあり大阪二名苑の一と稱せらる、苑は元祿年間の經營に成り廣袤一町步、築山湛泉、物ふりて奇樹、珍石の數奇を凝らし、四時の景

趣太だ愛すべく雅客の一訪に値す。

窓の灯の梢にのほる若葉かな

蕪村

東成郡

小帝塚山

住吉村



帝塚山

住吉村の人家を距る二丁餘に兀然たる二丘あり。大帝塚小帝塚之なり。丘上の眺望開豁にして景趣雄麗明治三十一年陸軍大演習の際明治天皇御登臨親しく武を閲し給ふ所たり。里民坐跡を記念し碑を大塚上に建て題して天皇駐蹕碑といひ傍に『手なふれそ御幸か岡の草も木も君か惠みのかいらぬはなし』の一首を勒せ

り。塚は仁賢六朝の忠臣大伴金村父子の墳とも云ひ或は金村の裔大伴御行夫妻の墳とも傳ふ。

明治天皇駐蹕址

榎並村大字關口

慶應四年三月維新の氣運方に開くるの時、明治天皇御年十七歳にして大阪に行幸の途、榎並村岡田某方に御駐蹕あらせらる。後の里人相圖りて碑を建て其盛事を勒し以て後昆に垂る、碑面は大岡代議士の書文は桑山良の撰に係る。

北畠顯家墓……阿部野神社

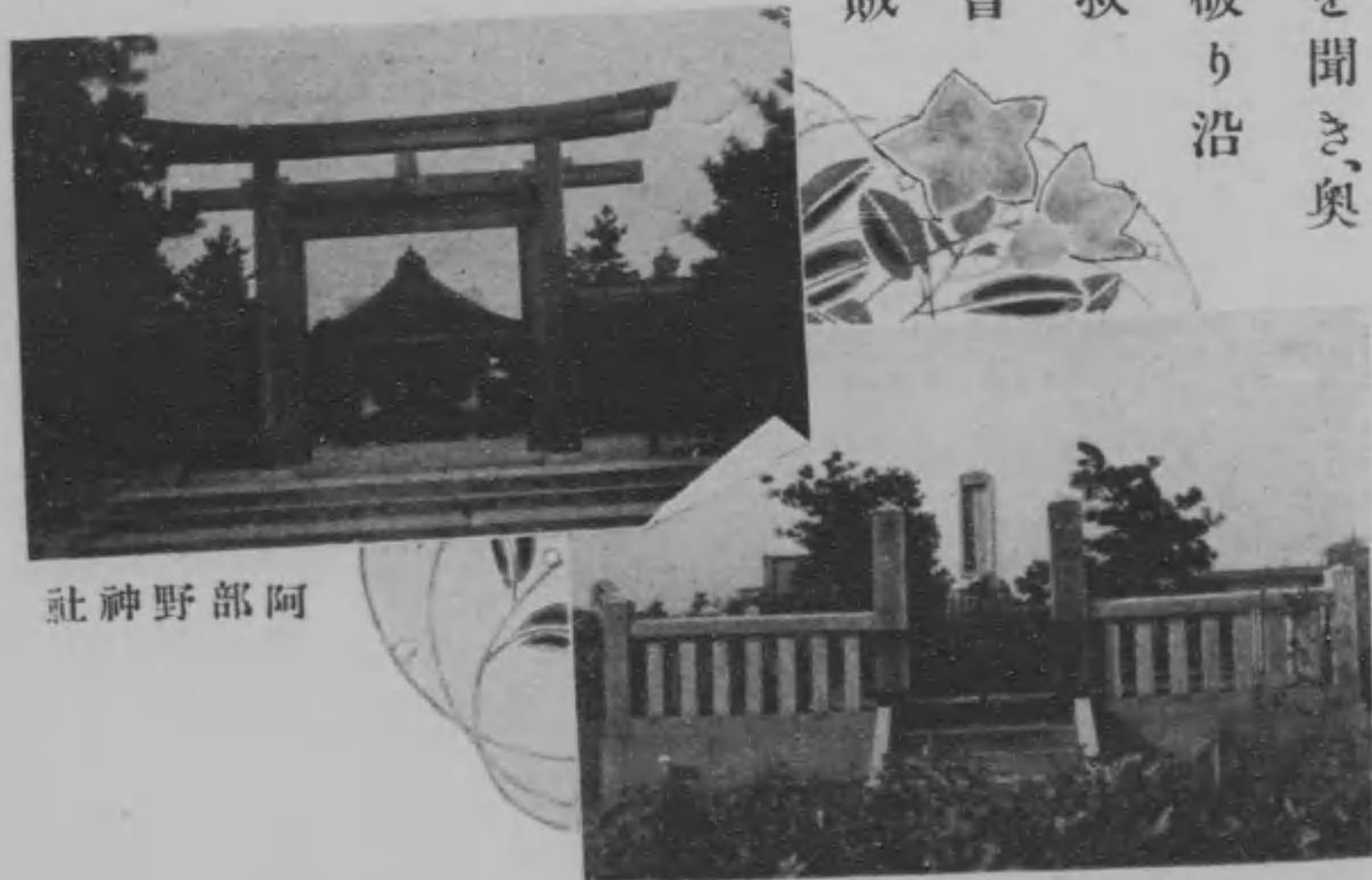
天王寺村阿倍野

野草萎々として露しげき阿倍野田圃に、孤墳石柵を繞らし、碑面兩行の文字を題する者を南朝の忠臣北畠顯家卿の墓となす。公は准后親房の長子、忠勇倫を絶し、年十四、左近衛中將に任じてより、文武の材洵に南朝の柱石たり。延元三年尊氏宮闕を犯し、帝吉野に

幸し給ふや、公遠く關外に在て急を聞き、奥州白河を發し利根を濟り、鎌倉を破り沿道の賊を掃蕩し、長驅して吉野を救はんとし、和泉堺に賊將高師直と會戦し僅かに二十騎を以て雲霞の賊に馳突し利あらずして死す、年甫めて二十一とぞ聞ゆ。公の北の方悲傷已むなく河内觀心寺にて落髮し、阿倍野に至り公が戦歿の跡を弔ひ、

亡○き○人○の○か○た○み○の○野○邊○の○草○枕○  
ゆ○め○も○昔○の○袖○の○白○露○

大阪府名所舊蹟案内



阿部野神社

顯家卿の墓

と歎かれしも此の處なりけん。

別格官幣社阿部野神社 住吉村に鎮座し、准后親房顯家卿父子を祀れり、社殿は明治十五年に建立し、丘高く翠松圍み、境内清淨にして殿宇壯嚴なり、准后親房は華胄の賢相五朝の輔弼たり、南朝無二の忠臣として戎馬の間に筆を揮つては神皇正統記を著し、字々風霜千古の至文と稱せられ、文武兼備の偉人たり。父子の偉烈炳として青史にあり、正に楠公父子の儔たり。

松蟲塚……柘榴塚

天王寺村

阿倍野のほとり顯家卿の墓近くして、一叢松の下に小祠あり、墓昔青くして標碑に松蟲塚の字を見る、いづれの御代にかありけん、官女松蟲局阿倍野に生れて大内に宮仕し、老退の後庵を結んで茲に終りきと。謠曲松蟲の取材之に出づ。此の地又小野小町の隠棲

して野花草蟲に吟情をやりしとの口碑をも傳ふ。

(謠曲松蟲)昔此の阿倍野の松原を或人二人つれて通りしに、折節松蟲の聲面白く聞えしかば、一人の友びと彼の蟲の音を慕ひ行きしに、今一人の友人や、久しく待てども歸らざりし程に心元なく思ひ尋ね行き見れば、彼者草露に臥して空しくなる……其の儘土中に埋木の人知れぬところ思ひしに朽ちもせで松蟲の友を忍ぶ名の世にもれけるぞ悲しき。

柘榴塚 は天王寺字柘榴塚にあり、社宮跡塚と稱す。高丘の上老松盤屈し、眺望幽雅、昔年菅公左遷の時、茲に憩ひし處と傳ふ。

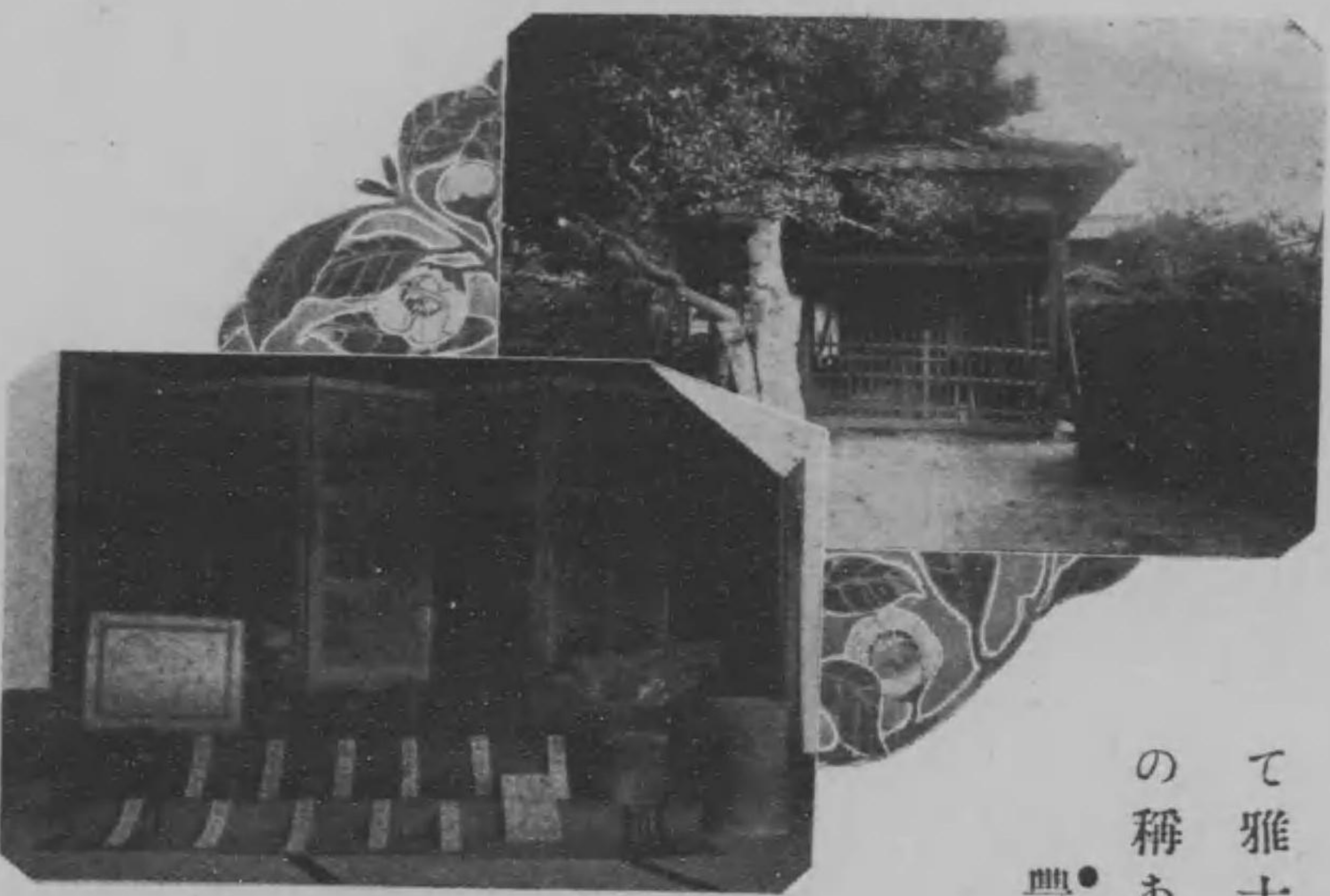
天下茶屋……紹翁森

天王寺村大字天下茶屋

風趣雅淡、池を湛へ丘を負ひ、千樹の櫻、一帶の翠松、天下茶屋は今も天然の樂園たり。大阪市に接して交通の便多く、別莊閑亭參伍し



て雅士富豪この間に隠れ天下茶屋遊園の稱あり。



天下茶屋秀吉茶室及寶器

豊太閤の風流と天下茶屋仇討によりて名を知られし天下茶屋の名残りは勝間停車場に近く紹鷗森に隣り芽木氏邸内にあり、昔床しき趣を存す。秀吉の憩ひし二疊式茶室と、水を汲みし惠水と呼ぶ古井は老樟の陰にあり、側に徹山筆蟠龍藍江筆群鶴の傑作の天井畫ある雅室を構ふ。往

年豊公住吉社參の日、千利休を伴ひて茲に憩ひ、利休の師紹鷗が愛用の井水を汲み茶をすゝめたりと傳へ、多くの茶器と文書書畫等を藏蓄す。

紹鷗の森 天下茶屋の南、老楠數十株、鬱蒼たる古林を成す所紹鷗森といふ。石を建て紹鷗杜と題せり、茶人紹鷗の址なり、風趣掬すべく、雅人箬を曳くの所とす、紹鷗は千利休の師にして堺の人、其先武田信光に出づ、薙髮して一閑居士と稱し、歌をよくし、禪に通じ、茶を珠光の門宗陳に習ひ、遂に天下の名匠として餘芳今に香ばし。森中に又天満宮を祀れり。

官幣社 住吉神社

住吉村

後嵯峨院製御

神よ神なほすみよしとみそなはせ我世に立つる宮柱なり

大阪府名所舊蹟案内

住吉神社



官幣大社住吉神社は海内無雙の靈社にして古來春日(和州)住吉と竝稱せらるゝ者攝津一の宮として數千年の史を有し境内の幽邃森嚴殿堂の丹碧華麗と賽者の盛とは世に比ひ少し。本社四神は底筒男命・中筒男命・表筒男命・息長足姬命を祀る神后征韓の時墨江大神として皇艦の守護神と現せしより歷朝の尊崇厚うして萬民歸依する所船舶詩歌の神として津々浦

浦に信仰せらる、四社は所謂住吉造りの原型にして夙に國家特別保護の中にあり。附近一帶歌枕の名所に富み本邦の文學美術に縁深き事世の知る處たり加ふるに神苑の美祭典の盛亦海内希有と稱せらる。

藤原定家

和歌の浦の道をは捨てぬ神なれば  
哀をかけよ住よしの波

(謠曲岩船)夫れ圓満十里の外なれども此處は所も住吉の神と君とは隔てなき誓も古き瑞籬の久しき世々の例として此處に御幸を深緑松にたぐへて千代までも正しき君の御旅居いづくも同じ日の本の

大阪府名所舊蹟案内



物遺船塞閉順旅

洩ぬ御影ぞ有難き……

### 住吉公園

住吉村住吉社頭

『住の江の岸による浪よるさへや』波白き住吉濱邊、一帯の松林千古の翠を罩め、夕陽浪に浴びては、『見渡せば夕日そかかる住吉の浦に向へる淡路島山(家隆卿)を望む。此處古への馬場の松原にして、今府下三大公園の一たり。天然の勝に加ふるに設備の宜しきを以てす、最も神を暢べ目を怡ばしむ。松原



住吉公園

は神話に崇神帝の御宇、神降りて三松一夜に白沙に生せし……と傳



杭全神杭  
社神全杭  
ふる所、一園の萬緑は其遺葉か、潮音松苔を撫しては貫之が『音にのみ聞き渡りつる住吉の松の千とせを今日見つるかな』の思ひを同じうす。松林盡くる出見の濱邊に高燈籠の聳ゆるあり、遠望極めて風趣あり、登瞰の眺め壯麗にして亦住吉名勝の一なり。

### 杭全神社

平野郷町大字殿堂

社は貞觀年中の創建に係り素蓋鳴尊を祀る。社頭一路坦にして青松夾み立ち、中に一老樟あり、周

大阪府名所舊蹟案内

七園、巨龍蟠屈、蔚々天を掩ひ、頗る神苑の莊嚴を加ふ。平野の郷は舊と杭全の莊と稱せし所にして、社は近郷の尊信甚だ篤く、久しく其盛をなせり。社寶、伏見宮書、土佐光芳畫の縁起の如き亦珍重すべし。

七〇

阪上廣野磨墳……安藤直次墓

平野郷町

廣野磨は田村磨將軍の男にして、忠勇節義の古名將たり、右兵衛督となり、杭全の地を領し、世々此に家し、菩提所修樂寺を修めて、田村磨及代々の墓となす。墳は即ちその寺跡にあり。裔孫猶ほ此地に連綿として祭祀を絶たず。

安藤正次 は家康旗下の忠臣なり、元和の役奮戦して利あらず、平野郷願正寺に入りて自刃す。墓は今町の東、八尾街道側に在り、五輪塔苔深くして、勇魂永く此の下に眠る。

大念佛寺

平野郷町大字平野馬場

寺は大源山諸佛護念院大念佛寺と謂ひ、本邦融通念佛宗の總本山にして、良忍上人の開基たり。寺格の尊輪奐の美、希有の靈刹たりしが、明治三十一年火災に罹りて、僅に寶藏鐘樓大門を殘せり。良忍上人は崇徳帝御宇の高徳なり、明敏碩徳以て融通念佛の一派を開き、茲を本山として諸國を巡化し、頗る化を弘む。殊に誦經の聲音美妙を極め、日本聲明の中興と稱せられき。上人寂後、法明上人天得如來を迎へて、本尊となし、頗る宗風を擧げ、法燈漸く耀き、家康の歸依靈元上皇の信奉を得て、遂に末寺四百の隆を見るに到れり。寺寶には鳥羽帝下賜の鏡にて鑄たりといふ龜鐘を初め、後小松帝宸翰、土佐光信畫縁起、其他鑑査狀附きのもの二十餘點の多きを有す、海内法界の一名場たり。

御勝山

大○阪○城○より南に茶○白○山○と申す處あり、大○御○所○様○御○本○陣○なり、同○巽○  
 に○當○り○岡○山○と申す處あり、將○軍○様○(忠秀)御○本○陣○也。(大阪物語)  
 丘はもと岡山と稱し、大小橋命の墳と傳ふ。平野川前に流れ、林樾  
 相連り、遙に金剛生駒の雄姿を望む。元和の役、將軍秀忠茲に陣し  
 て大阪城を陥れ、凱歌を奏せしより、御勝山と改め呼ぶに到れり、今  
 は此の地、府立農學校に屬せり。

舍利寺

生野村大字舍利寺

寺門建築古雅、題して南岳山舍利寺と云ふ、筆力適勁、黄蘗の僧木庵  
 の書する所、門を通じて、恰も四天王寺五重塔を望むべし。傳ふ  
 昔此の里に生野長者と云ふものあり、愛子の啞なるを歎き、神佛に  
 祈願す、偶、聖德太子之を聞き、啞兒に告げ、前世預けし所の三舍利を

吐かしめしに、兒立るに言ふ、長者乃ち佛德を深謝し、一舍利と太子  
 の自畫像とを納め、一刹を營み、祀れるものは本寺なり。徳川氏木  
 庵に本寺を與へて、中興せしめ、嗣いで悦山に及び、頗る法運の盛を  
 見たり。今は昔日の如くならずと雖、境内清閑にして、寺寶には聖  
 徳太子自畫像、土佐昌信筆の涅槃像、隠元木庵の書畫等、見るべきも  
 の多し。

三島郡



水無瀬宮

官幣中社 水無瀬宮…水無瀬の里

島本村大字廣瀬

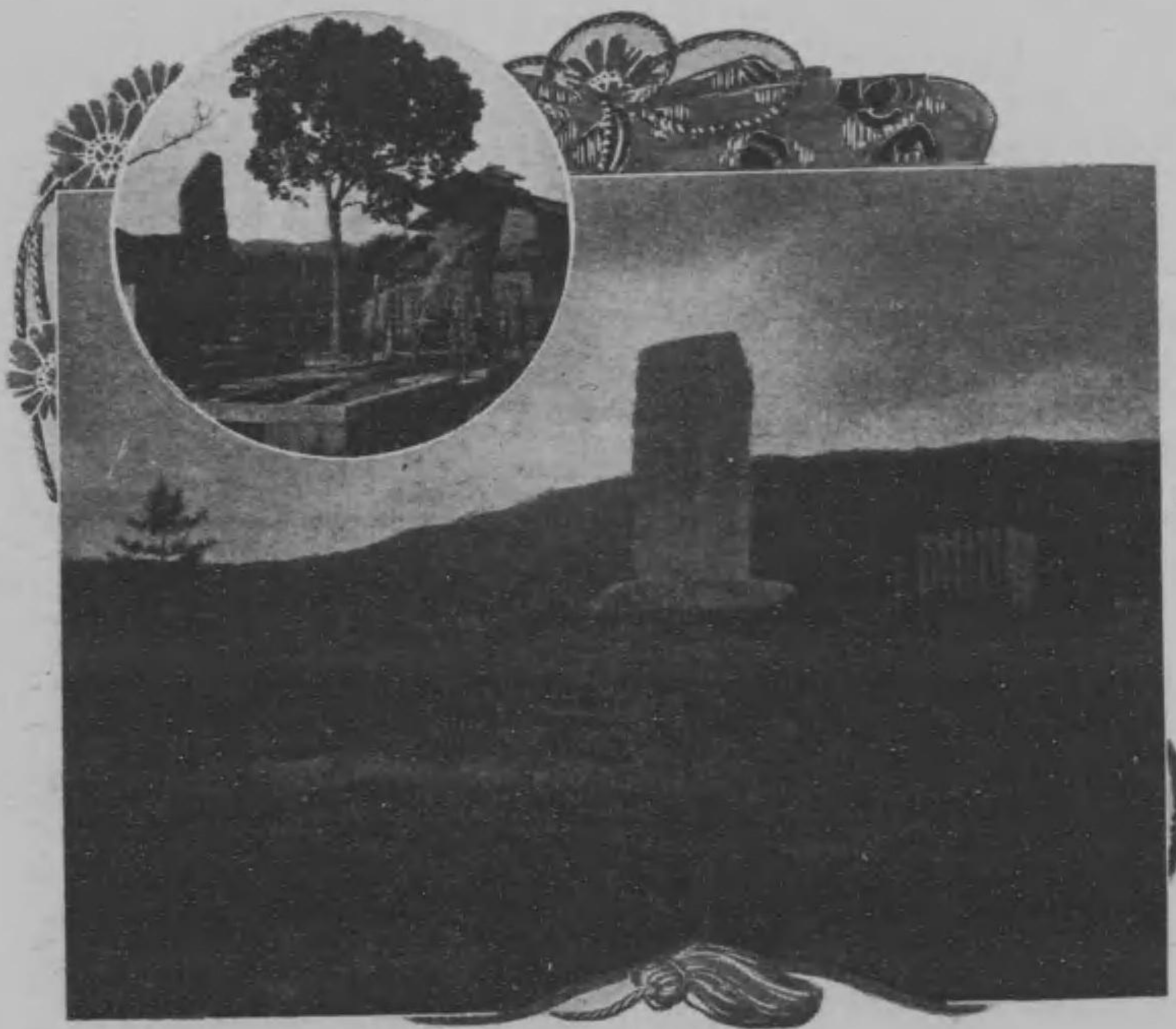
宮は古の水無瀬の里に在り。後鳥羽士御門順徳の三帝を祀れる所たり、曾てはこの地『御鳥羽院と申おはしましき…水無瀬といふ所にえもいはずおもしろき院造りしてしばく通ひおはしましつ、春秋の花もみちにつけても御心ゆく限り世を響かして遊をのみぞし給

ふ所がらも遙々と川に臨める眺望いと面白くなむ元久の此の詩に歌を合せられしにも取りわきてこそは見わたせは山もと霞む水無瀬川夕は秋と何思ひけむ」萱ぶきの廊渡殿など遙々と艶にかしうせさせ給へり。』(増鏡)院には北條氏の暴横を憤らせ朝權復古の御企あり事成らずして御父子三帝三所に遷され給ひ遂に邊土に崩じ給ひき。後鳥羽院の隠岐に崩じ給ふや遺命して宸筆御影を水無瀬の舊殿に修め給ふ水無瀬影堂と稱せしもの實に此の宮の起りなり。今信實筆御影(國寶)と共に社寶たり後に至り土御門順徳の御靈を阿波佐渡より遷して併せ祀るに至れり。宮司水無瀬子爵の祖は鳥羽院に仕へし中將信成なり世々同社に奉祀す。社殿清雅にして昔ゆかしく古人の詩歌など思ひ出づること多く本殿社務所及び茶室など殊に觀るべし寶物に貴重なもの多

し、表門柱には巨盜石川五右衛門の手形と傳ふる手痕を存す。  
 水無瀬の里 桓武嵯峨二帝の屢、此に御獵し給ひしは更なり。惟  
 喬親王の宮址、後鳥羽院の院址など世に名高き名勝たり。業平が  
 惟喬親王に『枕とて草引き結ふ事もせし』の歌奉れるも水無瀬  
 の狩の御時なりき(伊勢物語)。代々の歌集に其名を絶たず。歌枕の  
 水無瀬川、水無瀬瀧、水無瀬山は皆この附近にあり、山容水態人をし  
 て低回去る能はざらしむ。

島本村大字櫻井

○櫻井驛址  
 山崎をわか立ちくれば朝霧の絶え間に見ゆる櫻井の里(景樹)は西  
 國街道の要路に當り、楠公父子訣別の處と傳ふ。楠公旗立の松(又  
 兒別れの松といふ)は今纔かに其根を留む。明治初年有志相謀り  
 碑を建て、記念とせしが、大正二年新に地域を廣め、乃木大將筆の



大阪府名所舊蹟案内

櫻井驛址

一大碑成り『楠公父子  
 訣別之所』の字を勒せ  
 るもの巍々として壇上  
 に聳ゆ、竣功の日閑院宮  
 殿下台臨あり且つ手づ  
 から楠樹を植ゑさせ給  
 ふ、豊碑遙に金剛生駒諸  
 山に面し一層の偉觀を  
 なすに到れり。楠公父  
 子と乃木將軍事績筆者  
 と相待ちて無限の感あ  
 るを覺ゆ。

過櫻井驛址

賴山陽

山崎西去櫻井驛傳是楠公訣兒處林際東指金剛山堤樹依稀河內路  
 想見警報交奔馳促驅羸羊餒虎問耕拒奴織拒婦國論轉倒君不悟  
 驛門立馬臨路岐遺訓丁寧垂鬢兒從騎肅聽皆含淚兒伏不去叱起之  
 西望武庫賊氛惡回頭幾度視去旗旣藏全躬支傾覆爲君更貽一塊肉  
 剪屠空復膏賊鋒頗似祈山與綿竹脈脈熱血灑國難大灑東西野草綠  
 雄志難繼空逝水大鬼小鬼相望哭

高槻城址

野見神社、永井神社、八町松原

高槻町大字高槻

高槻町の南にあり、昔近藤連の築きし所、延元年中入江春則之を補  
 修し、後天正の勇將高山右近の居城たり、徳川氏に及び、其後裔高山  
 長房、耶蘇信徒たるの故を以て流謫さるゝや、其の址を修造して土  
 岐氏に屬せしめ、慶安年中永井直清此の城に遷りしより明治に至  
 り城壘を毀ち、獨り堡壁を存して現に工兵大隊の衛戍地たり。

野見神社 は高槻城址内に在り古來高槻城の鎮守として崇敬を  
 受く、老樹鬱蒼として境内清淨なり。永井神社は野見神社に隣り  
 し舊城主永井氏の祖を祀れり。傍に永井先公遺愛の碑あり。  
 八町松原 は高槻町の東に隣り、磐手村大字安滿千年の古松參差  
 として翠蓋八町の馬場に連り、宛として陸上の小天橋たり。馬場  
 は舊と城主永井氏の築きし所と傳ふ。

玉川

川

(卯の花玉川)

三箇牧村大字西面

藤原定家

卯の花に夜の光を照らさせて月にかはらぬ玉川の里  
 日本六玉川の隨一として千古詩畫の好資料たりし攝津玉川の里  
 は即ち此の地にして、世に卯の花玉川と稱す、水涸れ花散り、悠悠幾  
 春秋、荆棘の間纔かに其名を留むるのみ。藪中に一凹石あり、觀月

大阪府名所舊蹟案内



臺と云ひ、仲秋三五の夜、明月凹處の水に宿りて三尊の姿を現すと傳ふ。既に萬葉集に『卯の花の咲かぬ、桓根は無けれ、其名に流れたる玉川の里(忠通)と卯の花の覇權を此の里に記し、世々の騷人雅客の傑作に不朽の姿を留む。來りて古を偲ぶの人『卯の花のしつ枝たわゝの朝露に道も去りあへぬ玉川の里(曾柏)の思あらんか。

梅 林 寺……御駐叢所

茨木町大字茨木

茨木古城址に在り、境内廣からずと雖も高燥にして閑雅、梅花の香清くして眺望曠闊たり、源賴義の建立に係り、後、眠譽、南月中興して淨土宗に改め號を梅林寺となす。天正の勇傑中川清秀堂宇を再建して清秀院と號し、寺に豊公、清秀の遺物を襲藏す。明治四十四年秋、今上陛下未だ東宮に在り、陸軍大演習御見學として此の地に行啓あらせられ、本寺を御假泊所に充てさせ給

ひし名蹟なり。

黒井の清水 赤井の清水

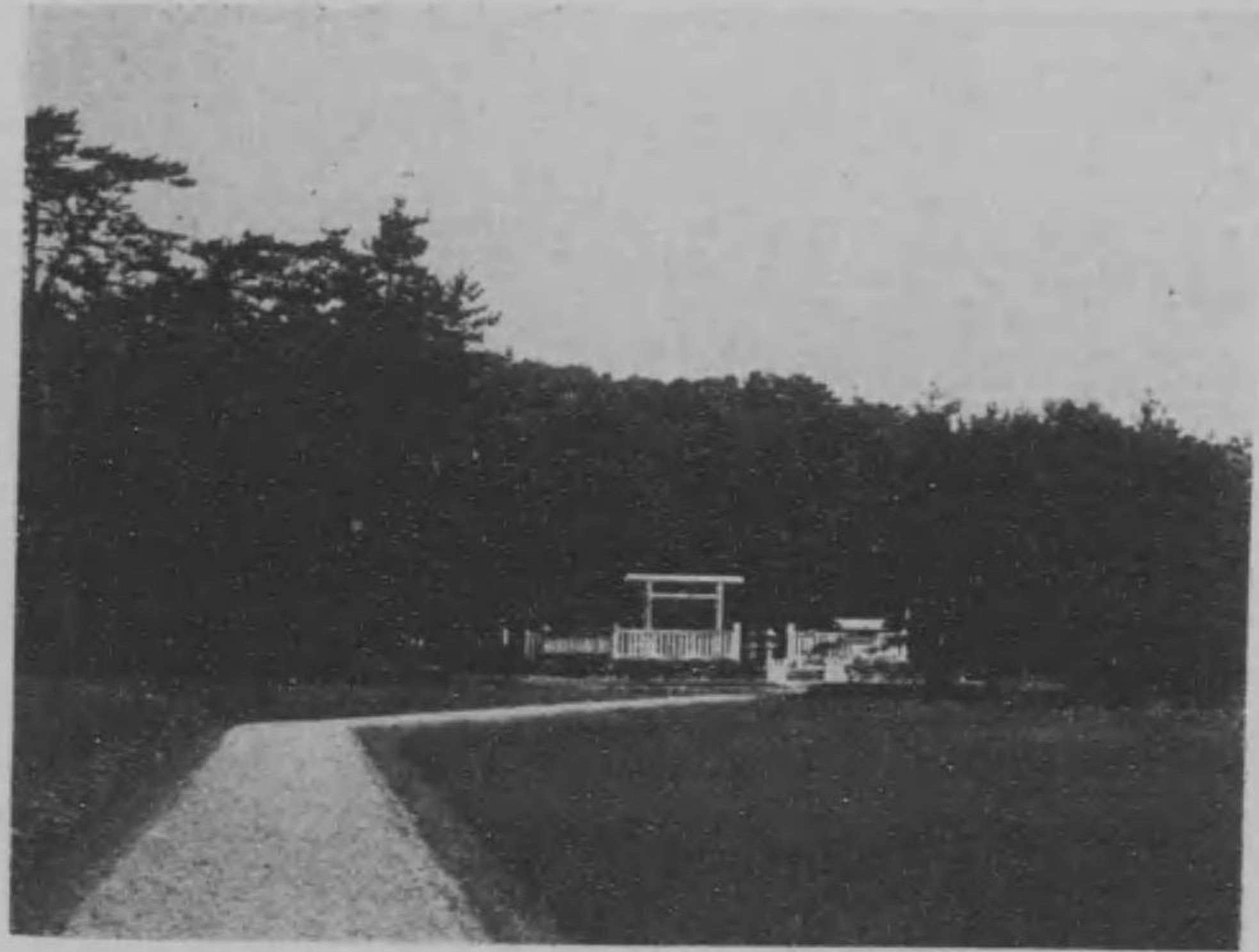
茨木町大字茨木

二井共に茨木神社境内にあり、清冽にして味美なり。古へ豊川村の青井と共に郡内三清水と竝稱せり。黒井は豊太閤大阪在城の間、茶水として汲み寄せられ、賞して名を黒井と命せらる。赤井は今上陛下曾て東宮に在り、梅林寺御假泊の際御料水として奉れる者にして、僻陬一境の二井聖主名將の遇を辱するも亦至榮あり。

繼體天皇御陵

三島村大字太田

西國街道に沿ひ、車窓より隆然たる圓丘、老松蒼鬱として異彩あるを望むべし。外濠を繞らし方十丁高十仞、頂上に五箇の自然石あり、繼體帝藍野の御陵(里人池)上陵と稱へ奉る、即ち是なり。就きて拜すべし、陪塚三箇相望んで大陵を環る。



天體天皇御陵

八二  
此附近古墳多く壘々として相連  
る、里人傳へて貴人の墳となす

勝尾寺…光明院御廟開成皇子御墓

豊川村大字粟生

僧東明

格たり。神龜年間攝津の刺史致房の二子、僧善仲、善算の開基に係  
る光仁帝地を寄せ堂を建て勅願の所となし、陽成、花山兩帝の行幸  
寺は攝北の巨利にして真言に屬し、箕面瀧に近き深山裏に在り、西  
國三十三番の札所にして中本寺  
中。天。積。翠。極。攀。躋。一。般。若。臺。高。群。象。低。  
淵。道。經。過。斜。照。裏。白。雲。深。處。子。規。啼。

あり、鎌倉源家、豊臣、徳川諸武  
將の歸依淺からず、明治維新  
後稍衰へたりと雖、今猶本支  
坊、靈を竝べ本尊十一面觀世  
音、樂師佛、彌勒佛、開基善仲、善  
算及開成皇子等の影像を安  
置し千歳の古堂翠寰に峙ち、四  
山の老樹白雲を罩め、幽邃莊嚴  
遙かに人境を絶す。境内又楓  
樹多く秋晩の美、最も賞するに  
堪へ、靈地勝景夙に世に著る。



勝尾寺

開成皇子御墓 勝尾寺山の頂に在り、幽寂清淨の所、六尺

大阪府名所舊蹟案内

八三

の石塔一基を存す。皇子は光仁帝の御子にして桓武帝の庶兄なり、穎悟の資、夙に道に志し、遂に勝尾寺に入り、佛乘を修め造詣あり。墳側に扁平の石あり、皇子坐禪の石と傳ふ。御墓は宮内省の管理に屬す。

光明院御廟 勝尾寺山東谷にあり、院は北朝の祚を踐み給ひしが出家して此の山の幽靜を慕ひ遷つて菴住し給ひき、兆域方數丁、其中に高五尺の七重石塔立てり。左右に櫻楓を植ゑ、老幹相對して廟門を護れり。廟は宮内省の管理に屬す。

伊勢

寺……古曾部燒……中將塚

磐手村大字古曾部

伊勢

難波かた短き蘆のふしの間もあはて此の世を過してよとや  
此地曾て平安朝の才媛伊勢の御里人、今に伊勢姫様と稱す、幽棲の

所なり。

見る人もなき山里の櫻花ほかの散りなん後そ咲かまし

とは、古曾部の里の山花に寄せし伊勢が歌なり。御は端麗聰慧にして宇多帝の春宮の時入りて御息所たりき、晩年此の地に隱棲し死後草庵を寺となし、焦石和尚中興し、山上に御祠堂を作れり。傍に林羅山撰文の碑を建つ。境域修竹萬竿、幽翠古松に映じ、江山の眺め極めて美しく、秋候松茸多く生じ、士女の來遊する者尠なからず。什寶に深草元政坊筆の縁起伊勢の古硯鏡等あり、この地古來古曾部燒の産あり、雅朴愛玩に耐ゆ。伊勢之墓の前面に又一松丘あり、里俗中將塚と稱し、或は傳へて在原業平の墓と云ふ。

能因法師墓……

松林庵

磐手村大字古曾部

伊勢寺の東隴圃の間、方數十間の荒墳、修竹老樅之れを蔽ふ所に、能

因法師の墓あり、碑は昔し高槻城主永井氏の建つる所とす、能因法師は平安歌人の優にして『秋風そ吹く白河の關』の詠、兒女猶ほ記誦す。晩年この里の幽靜を愛し、隠れ住みて古曾部入道と稱し



能因法師墳

茲に終れり。春の夕こゝより近き金龍寺に杖を曳きては、山里の春の夕くれ來て見れば入相の鐘に花そ散りける。

と詠歎し。(能因櫻及法師の茶水不老井共に墓の附近にあり)寺畔斃死の美人を見ては、淺茅原まとふくろ髪きのふまで誰か手枕の上に置きけん

と悼弔し、初夏新緑菴に坐して南山を望みては、我宿の梢の夏になるときは生駒の山そ見えすなりける

と心驚き。山田吹く秋の風には、ひたふるに山田守る身となりぬれはわれのみ人を驚かすかな袋草紙に『能因は古曾部より毎年花盛りに上洛して、大江公資が家に宿る』と記せり。平安朝の大歌人、圓頂の僧、黒髪の姫、嫺雅の公子其跡相隣り、松露苔香黙々として千歳の風雨を経たり。菴居の址、今松林菴と稱し、門楣に黄蘗高泉の題額を掲ぐ。

釋迦ヶ池

岸部村大字小路

溪間一泓の幽池、周回半里、全村の用水池たり。秋季より雁鴨來り、游戈碁布の如く時に十萬を算す。隣村山田村の八町池と共に鴨の名所たり、大阪市場に供給するもの殆ど此等の池に獲る所なり。

水鳥や夕日江に入る垣のひま

蕪村

八八

高濱……吹田城址

吹田町

(更科日記)……高濱といふ處に止りたる夜いと暗きに夜いたう  
ふけて舟の楫の音きこゆ問ふなれば遊びの來るなりけり。人  
人興じて舟にさしつけさせたり。遠き火の光に一重の袖長や  
かに扇さし隠して歌うたひたるいと哀に見ゆ。

歌枕に名も高濱の地は今の吹田町の西南神崎河畔に當れり。京  
伏見往來の航路に在り。岸迫り波高くして難所なりしが、觀音の  
靈により安全を得たりと傳ふ。昔は松林江に沿ふて白鶴來り巢  
ひ、朱樓水に倚りて、吳舟越船の人を呼びけん。

太上天皇御製

來て見れば千代もへぬへし高濱の松に群れ居る鶴の毛衣

(續後撰)

又後嵯峨院が大臣實の吹田の山庄に御幸ありて川口鶉飼などお  
ろさせて『川舟のさしていつくか我かならぬ旅とは云はし宿と  
定めん』(御製)など興じ給ひしこと増鏡にのせたり、今は川轉じ松  
枯れて空しく昔の跡を偲ぶのみ。

吹田城址 は永享中須田河内守の居城たり、廢址定かならねど大  
日本麥酒會社附近の地に、纔かに城の前城の内等の名を留むるのみ。

惣持寺

三島村大字惣持寺

おしなへて高きいやしき惣持寺の佛の誓たのまぬはなし

(西國三十三番詠歌)

寺は補陀洛山と稱し西國三十三番の札所たり。開基は神話に名  
高き山蔭中納言が購ひ助けし巨龜の爲め、愛兒を救ひ報いられ、佛

大阪府名所舊蹟案内

八九

恩に感じ歸途この地を相し本寺を建て、十一面觀音像を安置せるなりといふ。七堂伽藍雲に聳え、晨經夕鐘西國の名刹なりしが、兵燹にかゝりて後豊臣秀頼の再建せるもの即ち現在の堂宇とす。結構宏麗にして境内淨寂、寺寶千百頗る逸品に富む。寺内に山陰中納言廟及姫塚等あり。

富壽榮の松

富田村大字富田

本願寺派別院本照寺境内にあり、一株の老松、龍幹蟠屈、翠蓋低く鳳翼を張りて全庭を蔽ひ壯美限りなし。富壽榮の松と稱して古來この地の奇觀となす、昔冷泉爲村卿この寺の住職と姻縁あり、來遊してこの松を詠せるもの石に鐫して樹下にあり。

爲村

むら鶴の富壽榮の松葉枝高く廣く茂れる幾千代の陰

豊能郡

箕面公園

箕面瀧・動物園・瀧安寺

箕面村

忘れめや瀧つ流に枕して紅葉の錦かつく旅寢は 上田秋成



箕面瀧

豪壯にして幽邃曾て唐使の魂を驚かせし箕面瀑布は、櫻

大阪府名所舊蹟案内

楓の勝、巖石の奇を以て夙に天下に鳴る、碧潭碎けて箕面川の奇溪をなし、箕面山水を夾んで雄姿を弄し、新緑陰を蕪すの日は、清麗花よりも美に、翠松白雲を生みて、紅楓錦を織るときは、優に高尾龍田に駕すべく、人をして近郊亦この幽勝あるかと歎せしむ。箕面公園は府下三大公園の最優として、一溪兩山の間二十丁に互る。箕面動物園は天然利用の設備にして、山に據り溪を夾み、樹下石上巧に珍禽奇獸を飼養し、猛虎山月に吼え、仙鶴樊籠に舞ふ所、日本有数の動物園たるを見る、園中旗亭茶店所々にあり、綠樹深き所、佳人欄に倚り、坡亭閑なる邊、雅客景を指す。山入ること愈、深くして溪愈、幽。山猿枝を攀ち、野鹿巖に立つ、四時の景趣變化萬千、而して最も春候秋晩に宜し。若し夫れ盛夏三伏暑を避けて此に遊べば、冷風谷を渡りて、人は續を挟まんことを思ふ、大阪より電車五十分にし

て達すべく、戸々浴場の設けあり、浴場窓を開いて溪流を瞰れば、水清くして魚數ふべし。

山中一寺あり、瀧安寺と云ふ、役小角の開基にして、辨財天を本尊とし、本邦最初の道場と傳へ、孝徳帝以降代々の勅願所たり。今の公園地は昔概ね本寺の領に屬せしものなりき。白雲紅樹の間、隱約として塔頭を顯はし、鐘聲溪を渡りて時に省機の念あらしむ。寺寶如意輪觀音近時國寶の選に入る。

遊箕面山……齋藤拙堂……久聞箕面之勝冠於畿甸……發大阪東北渡長柄川行五里、至山下盤廻上、則淨境別開、清溪奔馳、紅欄橋架焉。此間竹經松緯、一往幽折、心甚樂之、但日昏黑、寺門閉矣。投宿門前茶店、背即溪、終夜有聲、琅然到枕……滿山皆楓、爛然飽霜、色如渥丹、綺錯水巖之間、時有墜錦點波、談者多言其勝在高雄之上、意

然、出後門沿徑而行、楓盡  
 松來、水窮石出、有巨巖竦  
 峙大如厦屋、曰唐人戾……  
 ……更進聞大聲鞞々  
 震山谷、徑轉望見瀑布掛絕壁  
 長可二百尺……



墓平三野堂

○萱野三平墓  
 風寒古碑邊。壯士去何之。悲歌數聲起。千載使人思。林鳳谷  
 山崎街道を距る三丁萱野村千里山の麓にあり、苔碑六尺の面題し  
 て「萱野三平墓」といふ。之れ院本忠臣藏の所謂早野勘平の墓と  
 なす。書は三平生前の恩師、京の百拙和尚の筆に係り事績は堀南  
 湖の碑文に詳なり「三平忠孝兩全一死維石不磷令名在是」と銘せ

萱野村大字芝

るも宜なり自刃の處たる門長屋の八疊の室猶存し。塚草弔客の涙  
 に濕ひ、月白うして霜悲しむ。

妙見堂

東郷村大字野間中  
 永阪石埭

雲際園林見。花間堂閣重。諸天天鼓擊。虎谷響琴琴。

信徒十萬、結社三百、白雲を踏んで諸國より參集するもの絡繹たる  
 能勢の妙見は、豊能山中の海拔二千七百尺、望嶮雄大なる妙見山頂  
 に在り。飛泉雲を起し連峰空を刺し、堂塔其間に聳え、旗亭門前に  
 並び、祭日の般賑云はん方なく、京阪地方人の崇信甚だ深し、社は昔  
 源滿仲の裔能勢氏の此地を領するや、靈符を此に勸請して城の鎮  
 守となせしもの、後世日蓮宗に轉じ、鎮守も北辰妙見大菩薩と改ま  
 り、明治に及びて能勢家より本尊堂宇を寄附し初めて衆庶の參拜

大阪府名所舊蹟案内



所となし、以て今日の盛を致せり。寶物には日蓮上人の黄金像を初め佛像刀劍等多し、開運與樂を祈りて題目三昧に入るもの鼓聲琴々、山谷に響き山中希有の靈場たり。

當山の繁昌賽人の群集平生尙ほ法筵の如し……。

(攝津名所圖繪)

伊居太神社 池田町

五月山下池田町の西北にあり、神樹\*  
内物寂び、式内の舊社として代々の  
伊居太の里と云ひ、池田川の清流淙



妙見堂

鬱乎として境、  
勅願所たりき。

池田町は古へ

淙として町を繞り、池田の芳醇、池田炭、植木等の産、夙に海内に名あり。在所なれども池田は名所月に\*。

\*十二の市か立つ』

(里謠)と傳唱せる地にして、應神帝の朝、使を吳國に遣し、名工兄媛、弟媛、吳織、漢織の四女を貢せしめ、池田の地に機殿はたどのを建て、織縫の事を教へしむ、之を我國機織の始めとなす。京阪機織の譽ある其の源或は茲にあらんか、漢織姫、吳織姫の逝後、社を建て、祭祀せるもの即ち本社の基因なり。現社殿は慶長中豊臣秀頼の再建せし所、大門・唐門・殿堂頗る宏麗、眺矚の壯美亦



伊居太神社

大阪府名所舊蹟案内

稀に見る所たり。

五月

山……有岡城址……太廣寺

池田町

紀貫之

さつき山木すゑを高め時鳥なく音そらなる戀もするかな

五月山 池田町の北、屹然二百餘尺、雲樹蒼々、堂塔丹碧其間に隱見し、頗る佳色あるものを五月山(又池田山)となす。古來有名なる歌枕にして、觀月聽鶉の名所なり。山上の眺望雄大、攝播紀淡の江山縹緲として、雲際を劃り、山麓には池田信輝の居城たりし有岡城址、太廣寺、伊居太神社等相接し、大阪神戸の萬覺眼下に布き、山中愛宕社の祭日には千百の燈を點じ、遠望の奇觀を極むるもの、古來池田の愛宕火と稱す。

崇徳院御製

五月山弓杖振立て燈す火に  
鹿やはかなく目を合すらん

吳服神社

池田町

町の南端にあり、古松老杉の間華表粉壁を見る。式内の古社にして仁徳帝及び吳織姫を祀る所、現在の社殿は豊臣秀頼の再建に係れり。姫室梅室は吳織漢織二姫の古墳と傳へ、染殿井星の御門(星宮社あり)絹掛松唐船淵等の遺蹟附近に散在し共に二姫織縫の記念地たり。

大阪府名所舊蹟案内



社 神 服 吳

久安寺

細川村大字伏尾

大澤山安養院と稱し伏尾の山中にあり、行基僧正の開基にかゝり山靜にして清流縈り、道場亦一時の盛を極む。近衛帝勅して再建せしめ久安寺の宸筆を賜ひ之を寺號となす。左甚五郎が修理せしといふ樓門は八百餘年の古色なほ名匠の面影を留め、境内弘法大師の遺蹟、車漣若くは螢に名ある安谷、觀音石等の名勝あり。春花秋葉の美を兼ねて雅人騷客の曳筇を待てり。

釋迦院

鉢塚……石燈籠

秦野村大字才田

地は古の秦の郷、尊鉢の里なり。今の大字才田は元祿中字面を改めしものにして、即ち釋迦院の齋田なりき。行基僧正の開基にして聖德太子作釋迦牟尼佛を本尊とす。屢、火災に罹り今の堂宇は近く慶應年中に建てしものなり。附近に鉢塚あり、巨石を疊み

て窟を成し、窟内に丈五の石塔及佛像を安んず。鬼氣陰森として人に迫る。石燈籠は同じく秦野村にあり、箕面秦の溪流を集めて此に來り、奇巖怪石の間に飛下する、三百尺、頗る豪宕の趣あり、苔石に坐して飛泉に對すれば、三伏の熱も頓に銷するを覺ゆ。

原田神社……古墳

豊中村大字櫻塚

社は白鳳中天武帝の勅願に創り、豊中村櫻塚に在り、素盞男大神等を祀る、足利將軍代々の尊崇を得、社殿善美を盡し、も屢、兵燹に罹り、今は郷社として近傍八村の奉祀を享く。新年祭の稚兒行列、若菜祭の乙女の手振等式典優雅にして昔床しく、足利氏の建立に成る社殿は、古色蒼然として、後山の翠松と反映し、頗る風致あり。この附近古墳三十六あり。今猶里人の幣祀をうく、相傳へて貴人の墳となす。神社に近きものは所謂櫻塚にして、古へ巨櫻爛漫とし

てその上を蔽ひ、里名亦之に出づといふ。

千里山

後鳥羽院御製

待兼山…邂逅、鳥熊山

櫻井谷村

來ぬ人を待兼山の時鳥傾く月のかけに啼くなり

石橋停車場の東三丁、山勢嶮峻すること三里之を千里山となす。状を以て又遠寐山の稱あり。九十九溪の間、幾多の勝區を藏して有名の歌枕地たり。

鳥聲蟲語猶古音を存し、邂逅山には壬生忠見が「邂逅に今日あひ見れば鈴蟲は昔なからの聲ぞ聞ゆる」の歌も昔しのばれ、鳥熊山の夕煙に、

玉勝間鳥熊山の夕暮に獨りか君か山路こゆるん

(萬葉集)

の情も優しく遠寐山の秋には寂蓮法師が「秋の野を寐山の裾に分けなして袖に片しくさを鹿の聲に哀を催す。」

寶珠寺

佛眼寺

熊野田村大字熊野田

長徳中花山院が佛眼上人に勅して紀伊熊野の神を茲に勸請し、聖觀音を本尊とし、寺を熊野代山と號せしにより村名となり、後熊野田に變せり。僧圓達中興せしも復た衰へ、今は昔日の觀なきも奥の院たる佛眼寺は堂宇莊嚴にして世に聞えたり。

劔尾山月峰寺

西郷村

秀峭の孤峯三千尺、劔尾山の勝夙に世に著はる、山上には古寺の廢址あり、山中又名跡に富む峯頭蓮華岩上の視界は江山歷々十餘州を容るべしといふ。

月峰寺 は其山下に在り、聖徳太子百濟の僧日羅を伴ひ當山に登

大阪府名所舊蹟案内

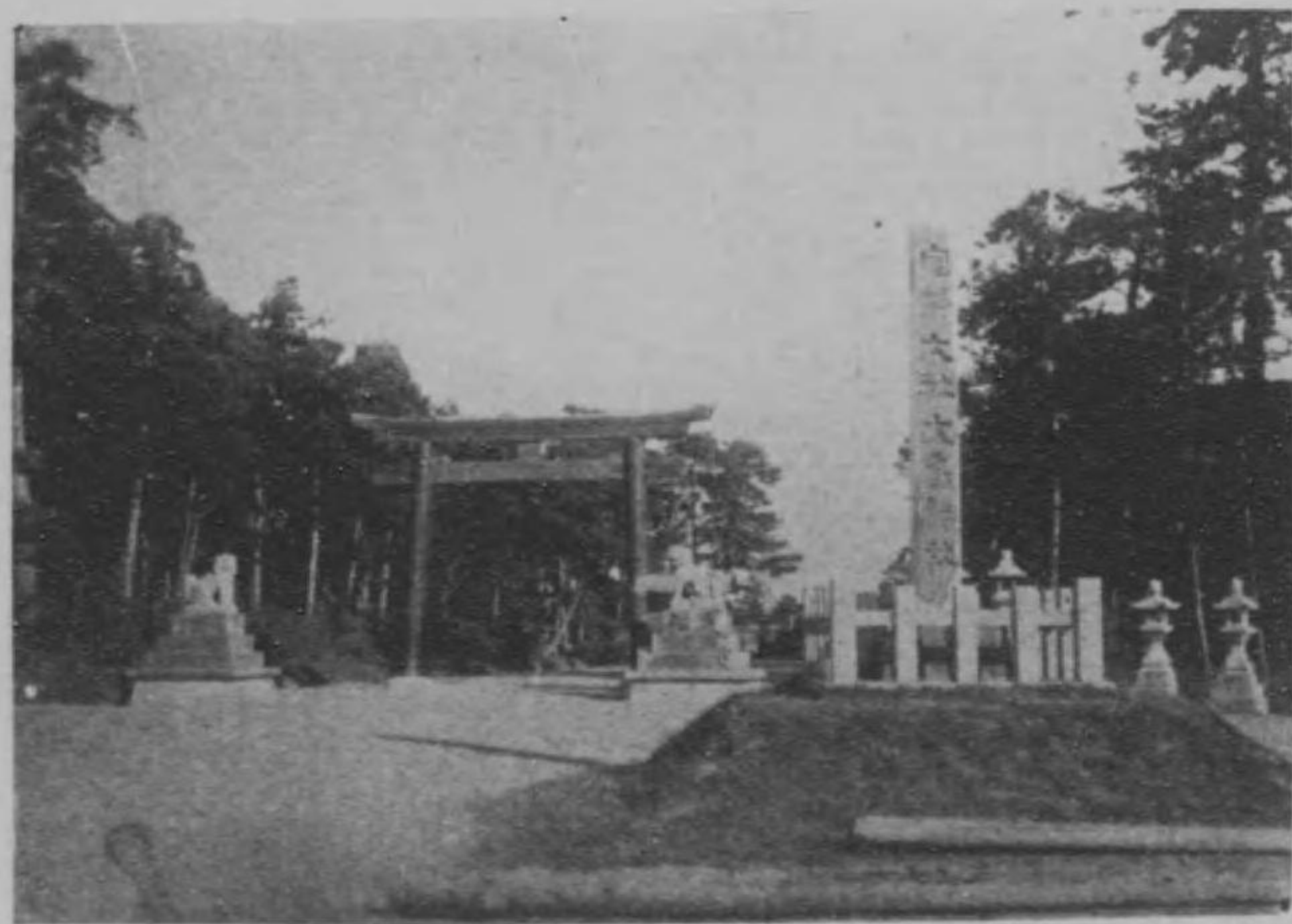
一〇四  
り本寺を開いて日羅を住ましむ。後兵燹に滅びしを、僧觀行中興し片桐且元の歸依深かりき。今存するもの本堂以外數字に過ぎず、寺寶には鑑査狀附の繪縁起書等見るべきものあり。

## 泉北郡

官幣  
大社 大鳥神社

鳳村大字大鳥

武尊東征凱陣の途、病みて能褒野の原に薨じ給ふや、神靈八尋の白鳥と化して天翔りし此の地に下り止りしといふ、所謂白鳥靈蹟の一にして大鳥神社と稱し、大鳥連祖神を祭る。境内老樹神々しく、實に其名の千種の森に稱ふ。季知が『千早ふる神し、在せは春秋の梢の色も世に似さりけり』と詠みしも宜なり。式内和泉



大鳥神社

一〇六  
一の宮として、社殿宏壯、神園宏闊にして梅櫻多し。境外の攝社は濱寺高石八里莊村の三所にあり、四月花摘祭の昔床しくして華麗なる、八月官祭の壯嚴なる、とりぐにかしこく、稜威千古、永く皇國の鎮護たり。

### 家原寺

(行基誕生地)……家原城址 八田莊村大字家原寺

大鳥神社の東北二十丁にして希世の高僧行基菩薩の誕生地たる家原寺あり。寺は行基を開山とし行基作と傳ふる文殊釋迦普賢三尊は家原文殊の名を以て著はれ、天平年間の建築にかゝる大門堂宇鐘樓は松樹扶疎の間に連り、今は乃ち往昔三十二坊の盛を見る能はずと雖、境幽にして堂樓古雅、猶ほ昔日の面影を存し、什寶中巨勢金岡の筆行基繪傳三幅の如き、未だ世に知られずと雖、筆致の妙、傳色の巧、眞に希世の名品たり。一月左義長、二月の節分、三月の

御影供の賑ひは更なり、四時參詣の道俗群をなせり。家原城址は

昔寺町左近將監の茲に據りて三好山城守に破られし所。

### 濱寺公園

濱寺町

音にきく高師の濱のあた浪はか  
けしや袖のぬれもこそすれ  
(一宮紀伊)



濱寺公園

の歌に名高き高石濱は、濱寺の白沙青松一帯の地域にして、大阪府三公園の一たり。持統帝の御宇置始東人が『おほともの高師の濱の松か根を……(萬葉集)と詠みけん松が根に千

大阪府名所舊蹟案内

一〇八  
歳の緑を撫すべくよせては返す仇浪の昔ながらに渚を洗ふ。

元享年中、三光國師の開創に係る濱寺は七堂伽藍の盛を空しく昔物語に留めて、名を公園の今に垂れたり。旅館酒亭相連り、海水浴場、運動場の設備あり。夏季、秋候最も宜しく、山海の眺め、松林の奇趣、須磨舞子も超ゆ可らず。明治の初め、某あり開拓を企て心無くも、伐木せしを時の大久保内務卿巡視の途之を聞きて、慨せられ「名にし負ふ高しの濱の濱松も世のあら波はのかれさりけり」と一首の歌を詠せられしに、某も覺る所あり、伐木を止めて保護を加へし、てふ佳話を存す。公園は明治六年堺縣令税所氏の設置に創り、現時大阪府經營の下にあり、來遊の者踵を接せり。

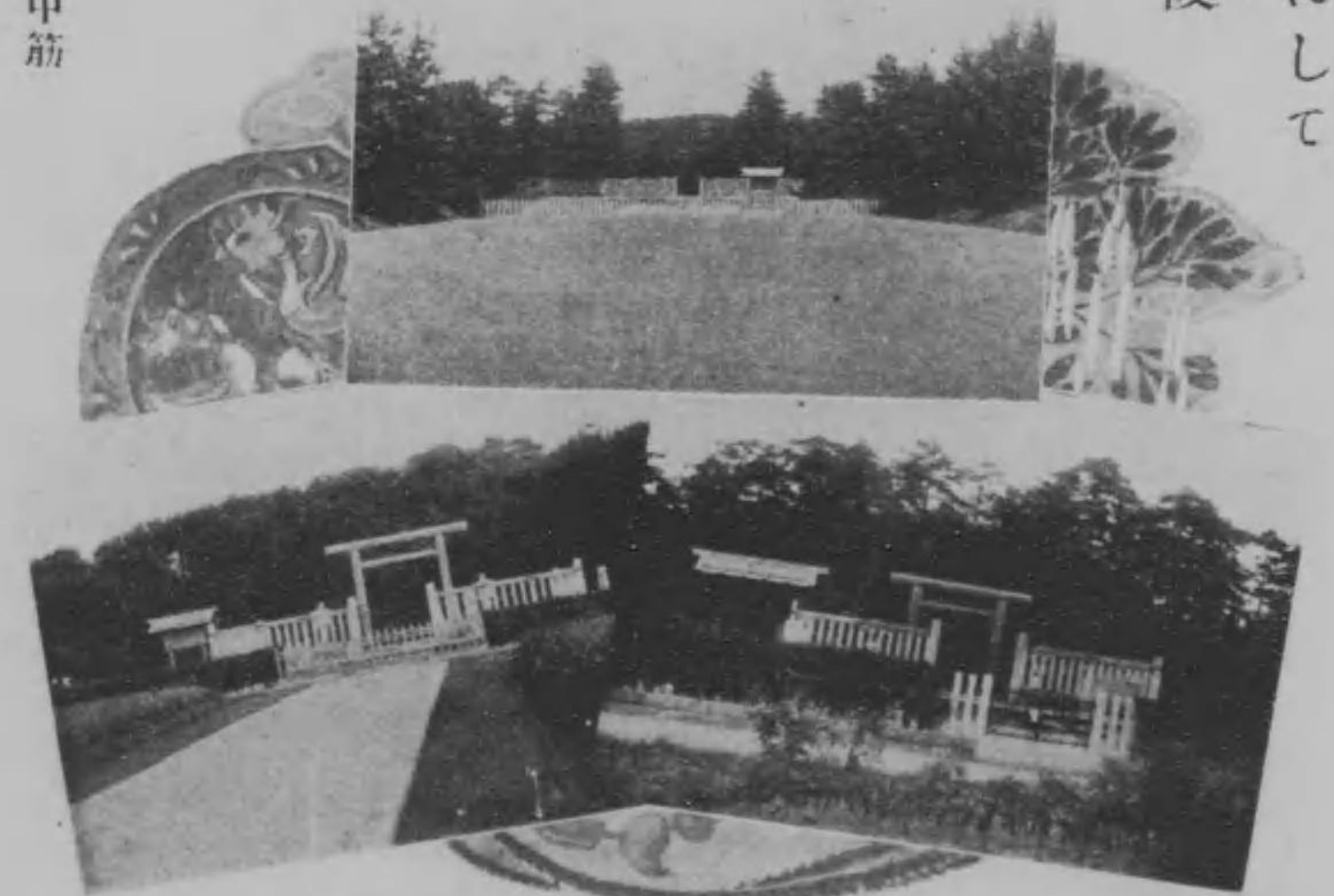
仁徳天皇御陵

軸松村字軸松

堺市の南、松森鬱蒼として天を畫り、琵琶形の丘陵、莊嚴凡ならざる

を仰ぐべし。之れ即ち仁徳御陵にして、百舌鳥耳原中陵と稱し、俗に大仙陵と稱す。封土の高十丈、外堤千餘間、神濠二匝して松翠影を蕪し、一たび至り拜して敬肅の念禁じ難きを覺ゆ。仁徳帝曾て此地に行幸あり、叡慮にかなひ萬歳の後、其の御陵と豫定あらせられし所に、し日本紀に所謂百舌鳥耳原は即ち是なり。

仁徳天皇御陵



履仲天皇御陵 反正天皇御陵

反正天皇御陵

向井町大字中筋

大阪府名所舊蹟案内

百舌鳥耳原北陵と稱し、又地名によりて楯井陵とも云ふ。兆域一萬八千餘坪、封土高さ五丈、古松鬱茂之を蔽ひ、大仙陵と相對して、森嚴云ふばかりなし。

神石村大字上石津

履仲天皇御陵

百舌鳥耳原南陵と稱し、俗に仁山田と云ふ。大仙陵の南に隣り兆域五萬餘坪、巨松葱然として封土を護り、附近四箇の陪塚累々として繞り侍す。朝暉夕陰、三陵を望めば、隆然たる聖封相連りて壯觀を極め、思はず人をして敬拜せしむ。  
をし。かは。の。あし。を。の。く。ち。を。引。す。ゑ。て。

百舌鳥野の御狩始むとそきく

公朝(夫木集)

牛瀧山

山瀧村大字大澤

岸和田の東四里、葛城山系、蜿蜒として、大津川の源をなす、溪山相蹙

つて瑰奇の勝を盡すものを牛瀧山となす。名は即ち山中の牛瀧より出づ、白雲巨巖を繞り、古柏天半に聳え、一條の飛瀑、滿崖の紅楓



牛瀧



を劈いて、牛形の青石に落ち、溪流漸く徐かにして河鹿の幽韻を聴く。山腹に泉州第一の古刹大威徳寺あり、役行者の開基にして、惠亮和尚の作大威徳明王を安置す。曾ては天智帝の勅願所となり、弘法大師も亦經歷せる所、本堂の建築の如きは古雅を極め、往年四十八坊の盛時を懐はしむ。天然の奇法威の靈、亦泉北郡有数の地たり。

祇園南海

茅海之南葛嶺東

溪山秋色醉丹楓

雲歸龍窟千峯雨

泉落千潭萬壑風

金界凝烟夕嵐紫

玉蕊映日曉霞紅

何當絕頂眺明錦

楚岫谷山論異同

國府清水

泉井上神社

國府村大字府中

泉井上神社の後なる一小池なり、老杉盤根の下清泉混々として湧き、湛へて一泓の池をなし、流れて里の小川となる。傳へ云ふ神功

皇后征韓の年、此水一夜に湧き出でしかば、瑞を稱して和泉の郡と名づけ給ひ、凱旋の際再び舟して茲に行啓あり、大に泉を賞で給ふ之を和泉國號の起因と傳ふ。天正中豊太閤命じて、日々此の泉を大坂城に輸せしめ、茶を煎て其雅味を喜びきと。水甘くして茶に宜しく釀酒に適す。老杉に倚りて一掬千古を味ふも亦妙。  
泉井上神社 は式内の社たり、世に井の八幡、又水内社と稱し、神功皇后を祭る、世々武將の祈願所たりき。  
石工の鑿ひやしたる清水哉

槇尾山

(施福寺)

横山村大字槇尾山

蕪村

南畿の間、山貌雄偉にして奇勝多し、河泉の境を疆るもの重巒層々して七越山に及ぶの間、槇尾山實に其の主峯たり。四岳八峯蒼翠として稚子滿願寺の二瀑十丈の素簾を懸け、西國巡禮第四番の札

大阪府名所舊蹟案内

所にして、磴階雲に架し圓笠白衣の巡禮者が『深山路やひはら松原  
 わけ行けは横のお寺に駒そいさめる』の詠歌の聲絶えず。寺は欽  
 明の御宇、行滿上人の開基にして、役小角茲に法華經を納め、行基僧  
 正は懺悔祕法の卒都婆を立て、弘法大師垂髻の頃、亦この山に道を  
 聽き、花山鳥羽後深草院の尊崇厚かりき。金堂大日堂大門は欽明  
 の御宇の建築と傳へ、本尊丈六の彌陀を安置す。二棟の寶庫には  
 什寶見るべきもの多く、亦近畿の一靈山たり。  
 (古今著聞集に僧正行尊の横尾山に於ける參婦祈禱の逸話出  
 づ。)

信太森…信太森神社

信太村

聖神社の西數丁、老樹陰々たる一森は、古來有名の歌枕、泉州一の名  
 所たる信太の森なり。千枝の楠年ふりて、昔し西行が『物思へは千

枝に心を碎けぬる信太の森の數ならねとも』と低回せしも此處な  
 りしよ。後鳥羽順徳院の畏きより能因定家  
 俊頼の歌豪、さては和泉式部赤染右衛門津守  
 國助女の才媛の此森に藻思を寄せ雅  
 懷を傳ふるも數ふ可らず、わきて世に  
 知る口碑は、陰陽博士安倍晴明の生母  
 といふ白狐の精、葛の葉の子別れなり  
 障子に残せし薄墨の『戀しくは尋ね  
 來て見よ和泉なる信太の森のうら  
 み葛の葉』の一首人口に膾炙して離  
 恨永く千年の森にこもれりと傳ふ。  
 信太森神社又葛の葉の社は巨楠樹



信太森

大阪府名所舊蹟案内

下の小祠に過ぎざるも、賽するもの踵を接し、陰曆二月初午の祭日には、臨時に葛葉停車場を設くるに至る。

和泉式部

秋風はすこし吹くとも葛の葉の怨み顔には見えしとそ思ふ  
(三十三間堂棟木の由来)……嫁女なうかか様と聲をばかりに三人  
が尋ね廻れば流石にも引るゝ心執著の又も姿をあらはす有様  
やゝかか様かとかけよる稚子、夫も涙の聲をあげ、非情の草木と  
云ひ乍らなさけあればこそ之迄に、睦まじく馴れなじみ一人の  
若をまうけし身が、何とてふりすて歸りしぞ、せめては母を見送  
る迄、ともに介抱してくれと、かこち歎けばやう／＼に萎るゝ顔  
をふり上げて、傳へ聞く安倍の童子の母上も、丁度我身と同じこ  
と一人の子を残し置き、信田の古巢に歸りしとや、夫れは野干の

年ふる身……(淨瑠璃)

松尾山

南松尾村大字松尾寺



天武の昔役小角、此の山に法を修め靈木を得て如意輪觀音の像を刻し精舎を建て、祀れるにより、泰澄留錫して規模を  
松擴め、七堂伽藍金碧朱欄相映じて宏麗京  
南第一と稱せられ、鎌倉源家足利織田氏  
等代々武門の祈願所たりしが、中ごろ兵  
寺燹に亡び、今の堂宇は豊臣秀頼の再建に  
かゝり、昔日の盛なしと雖、本堂彌陀堂樓  
門等老松扶疎の間にあり、清寂をゝるに  
古を懷はしむ。寶物に賴朝義經及び弘

大阪府名所舊蹟案内

法大師の書等あり。

(今昔物語)今は昔河内の郷に入道尋祐といふ者ありけり……道心深く發しければ出家して後妻子に離れて和泉の國松尾の山寺に移り住み日夜寤寐に彌陀の念佛を唱へ常に印佛性を修す……入道年五十に餘る程に正月の一日頭痛すと云て聊か惱む、其時に戌時許りに至るまで大なる光出來て普く其山内を照す暗の夜なりと云へども現はに竹木の枝葉明かに見えけり此を見る人皆希有なりと思て何の故なりといふことを知らず而る間入道終り貴くして入滅しけり……明る朝に里人各互に問て云く夜前松尾の山寺に俄に大なる光有き……

府泉穴師神社

穴師村大字豊中

天武帝白鳳元年の創立、式内和泉五社の一たり、正哉吾勝々速日天

忍穗耳尊、栲幡千千姬命の二柱を祀る、代々の帝の信仰厚かりし事屢、正史に見ゆ。現存の社殿は豊臣秀頼の修めし所にして、丹碧莊嚴、神樹鬱葱として靈氣人に迫る。社寶の神像八十有餘、其中國寶に入るもの八、社頭楠廷尉寄進の石燈籠は青苔千古を撫して自から古忠臣を偲ぶべし。

泉南郡

岸和田城址…岸和田公園…蛸地藏尊

岸和田町

城址は當年の壘濠を其まゝ存し、天主臺上喬松聳え、楊柳長へに濠に垂る。影縁にして蓮花白し。車窓に倚りて望めば岸和田千戸の碧瓦間白石記念尖塔の高く聳ゆるを見るべし。城は初め楠氏の一族和田高家の據りて義を唱へし所、世人岸和殿と呼べり、地名も之に出づ。後ち三好實休、小出秀政を経て寛永



岸和田城址

中岡部氏の所領となり、當主長職子爵の先以て明治に及べり。郭内に岸和田神社、岸和田中學校、泉南郡役所等あり、天主臺上に登れば攝河泉の山嶺、紀淡の海峡一眸の中に集り、風光絶佳、天然の勝園をなす。

岸和田公園 は砲臺の址にして地高燥、大阪灣を展望すべく、近海は浴するに宜しく、夏時來遊の人多し。

天主臺からあたりを見れば、櫻一目に沖には白帆アレ、蓮華が毛氈しいて、菜の葉に胡蝶がヒラ〜と。

(岸和田俚諺)

蛸地藏尊 岸和田町天性寺境内にあり、又南泉の一名所にして近國來賽の人陸續たり。本堂は弘法大師作の地藏尊を安置す、本堂結構の宏壯、海内第一の地藏堂と稱す。今も口碑に無邪氣なる縁起を傳ふ。昔し此の地藏尊、大蛸の背に御して海岸に出現せしも

大阪府名所舊蹟案内

のにして、天正年間紀州一揆の岸和田城に來り迫るや、荒法師に權化して賊を破りしより城内守護佛として漸く城主の崇敬を得、後今の地に遷りて益、信仰を得たりといふ。海邊神話として又愛嬌ある珍話たるを失はず。此の近海蛸魚多く和泉蛸と呼び美味を以て名あり。

久米田寺……地獄太夫墓……橘諸兄塚

八木村

聖武帝民の早害を憐ませ給ひ、橘諸兄、行基僧正に命じて大池を穿たしめ、功成りて帝光明皇后と共に親臨して式を擧げ給ひし泉州第一の池、久米田池畔に、柳垂れ松蔽ひ、水禽蘆荻にかくれ堂影の水に映するものを隆池院久米田寺とす。行基僧正の橘諸兄公を檀越として創基せし所にして、當時堂坊二十餘の盛を唱へしも、星物の轉移を経て、今は唯五支院六堂を存し、境内幽寂にして風景明媚

湖光楓錦、最も晚秋の勝を稱す。寺寶には巨勢宅摩、兆殿、司筆、其他の書畫、古文書、佛像等頗る多く、其中數點は既に國寶に入る。

(行基自記縁起) 當池院者一國命珠萬民依怙也、堅牢地神現黃牛而

曳塊、日月星辰示白人而固堤、所以大聖老人運鷺峯海會之士築之。

善哉童子荷清涼山堀之壤加之、況國中神祇乎、何況州内黎元乎。

一天聖主降勅語而遂行幸萬乘文武捧官府臨命池内大臣某殊致

功、光明皇后勝加力、遂以去神龜二年乙丑二月五日始掘寶池、以天

平十年戊寅孟秋成功滿畢。

境外の林中に遊女地獄太夫の墓あり。女は往年堺津の麗妓なり、口に風流の歌を唱へて胸に佛心を修め、自ら地獄と名乗りし者なりき。一休禪師の濟度の逸話世に著はる。

きいしより見ておそるき地獄かな

一 休

(返し)ころの鬼に手ひきせられて

遊女地獄

橘諸兄塚 寺後、一丘上、老松偃蹇せる所古塚あり。圓碑に『橘諸兄公塚』の五字を鐫る、風悲雨淋辛うして字様を認む、里人公の徳を頌して此の碑を建つるものか。

藤原桓通

橘の香をなつかしみ来て見れば

實さへ花さへ跡さへもなし

水間観音堂

木島村大字水間

近木川の水源二流相合して一大磐丘を廻る間に、観音院水間寺建つ。縁起に『聖武天皇靈夢に感じ給ひ行基をして當山



水間観音堂

を見せしめらるゝ時、瀧の下に龍神現はれ、観音の尊像を捧げたり』と、閻浮檀金の正観音を本尊とす、聖武帝車駕親臨、此の溪流、堂を繞るの奇勝を叙覽あり、水間寺の號を賜ふ。往時堂坊伽藍百五十餘寺、領二萬餘石の巨刹なりしも、信長の兵火に罹り、今の堂塔は文政年間岡部侯の寄進に成り、里俗厄除観音と稱し、結構の壯麗、境域の奇勝、今猶ほ泉南屈指の靈場たり。奇巖怪石激湍と相争ひ、鬼が淵、蛇が淵の二瀑堂後に懸り、欄橋前に連り、偉觀云はん方なし、寶什中、観音、彌陀、文殊の三像殊に優れたり。庭前の玉椿は古來の名木、今は枯れて新木を植うにて、お夏清十郎の縁の木と傳ふ、お夏は水間村の女なりしとて、村女猶ほお夏清十郎の愛染椿縁を結ぶの玉椿の古謠を唱ふ。

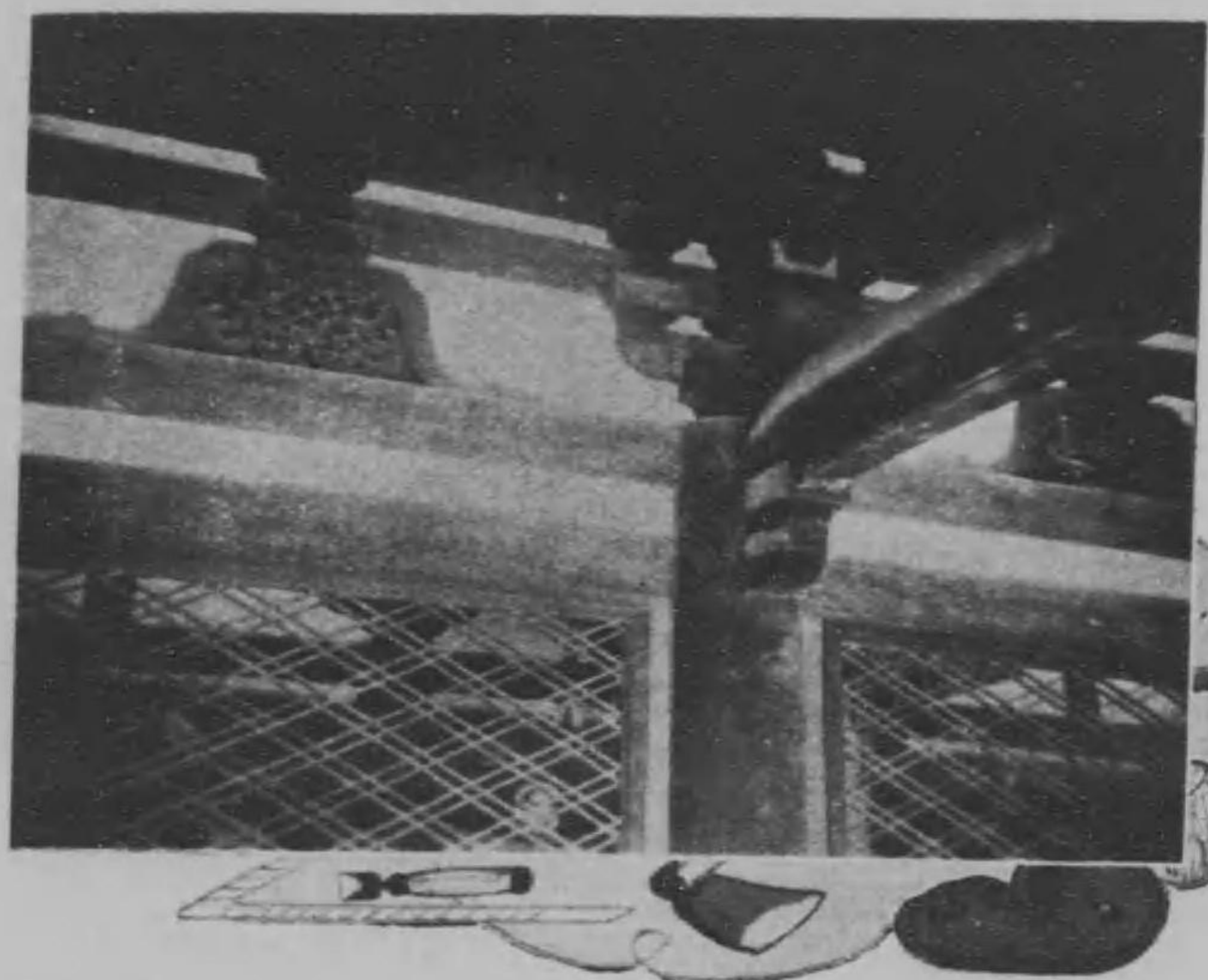
一輪は瀧に飛入る椿かな

湘夕

木積觀音堂……孝恩寺

木積觀音堂

西葛城村大字木積



行基僧正畿内に四十九院を建立するに當り、茲に用材を積みし跡なり、木積の稱之に因す。堂は聖武帝の勅願により行基自刻の觀音を安置せし所、纔に兵燹に残りし本堂は飛驒番匠の作と傳ふる七間四面釘無しの堂にして、結構精妙を極め、近時保護建造物の國定を得たり。堂傍の孝恩寺は小舎なりと雖、彌陀の本尊を始めとし、美術工藝上參考の鑑査狀を受

けたるもの十九像を有する希有の名寺たり。

蟻通神社

長瀧村大字長瀧

昔唐土より日本人の智慧試さんとて七わだに蟠れる玉の中穴に緒通さんやと難問懸りし時、中將なる人の老父の智慧により蟻に絲結び玉口に蜜塗りて之を透らしめしといふ面白き神話より名號を得たる神なり。社傳に祭神大名持命といふ智慧の神、護國の社として尊崇厚かりしものなり。紀貫之が紀州より歸路、騎馬にて社前を通り切らんとせしに馬俄に殪れて動かず、里人告ぐるにこは蟻通の神とて靈神なり、祈らば馬の起つこともあらんと聞き『かきくもりあやめもしらぬ大空にありとほしをば思ふへしやはと詠じて手向けしに馬の心地やみにけり』とは貫之家傳に載する所又蟻通しの物語は清少納言が枕草紙に出でたれば、古くより

大阪府名所舊蹟案内



名高かりし傳説と見ゆ。松檜森々、清流潺々、石橋横はり、社頭には  
秀吉及岡部氏寄進の石燈籠等ありて、頗る壯嚴なり。

一螺九穴蟻貫絲。外國彌知我計奇。

(羅山詩集)

慈眼

院...日根野神社...日根野松原 日根野村大字日根野

天武帝白鳳二年の創設にかゝり、後弘法大師の錫を留めて金堂多  
寶塔を建立せしより、屢勅願の寺となり、後又武門の歸依厚かりけ  
り。千年の星霜、兵火にも恙なき多寶塔、金堂のめでたさは夙に保  
護建造物に編入せらる。境内もの寂びて大井堰の分派さやくと  
堂下を流れ、姥櫻の老樹路を蔽ひて幽趣を添ふ。

日根野神社

は慈眼院に隣りし泉州五社の一にして式内の古社

なり、祭神は鷓鴣草葺不合尊、玉依姬命の二座とす、神武東征の日、此  
地を通りて戦捷を祈り給ひし所と傳ふ。現社は豊臣秀頼の改修

に係り、翠巒を負ひ、大井堰川を繞らし、老松路を挾んで櫻花點綴す  
或は云ふ、此の地古の所謂日根野の松原かと。日根野の行宮は允  
恭帝の麗妃衣通姫を置きし所にして、允恭、桓武二帝の日根の御狩  
のこと正史に見ゆ。

滋春

和泉なる日根のこほりのひねもすに

戀ひてそくらす君は知るらん (六帖)

犬鳴山七寶瀧寺

大土村大字大木

犬鳴山は葛城山系に連る峻嶺にして巨木蒼鬱たり、深溪の七瀧は  
大木川の源をなし、巖危くして白雲搖曳す、曾て九條植通公の茲に  
詣で、思ひきや七の寶の瀧に來て六つの濁りを清むへしとはと  
詠じけん七寶瀧寺は山上にあり。役行者の開山にして不動尊を

大阪府名所舊蹟案内

祀る。傳ふ、昔一獵夫犬を牽ゐて此の山に入り鹿を覘ふに、犬頻りに鳴いて何事をか主に告ぐるも獵夫心鹿にありて悟るなく、鹿は犬聲を聞いて驚き逸せしを怒り犬を斬れば、首躍つて主の頭上を窺ふ所の大蛇を齧殺す、獵夫始めて犬鳴の所以を知り感慨止まず出家して寺に入り忠犬の冥福を祈る、事天聽に達し遂に犬鳴山の號を賜ふと。又寺號を白雲院と稱するは昔淡路の小聖と云ふものあり官女志津に懸想せられ、此の山に遁げ込みしを志津亦追至りしが白雲俄に山を覆ひて其の人の行衛を失ひ遂に路傍に悶死す、是れより此の墓に白雲かゝれば必ず雨る、土人之を志津の涙雨といふ、院號亦之に出づと傳ふ。深山幽谷の間人畜の悲愁を留めて溪聲雲影人をして一篇の哀史を想はしむ。此の地、山の奇巖の壯、水泉櫻楓の美を併せて泉南第一勝と稱せらる。

秋の夜や犬鳴山の經の聲

衆雲

樽井遊園

樽井村

泉海弓の如く南に抱く所、淡路島山遙に黛を畫き、白浪のよせては返す、風光絶勝の地を擇び松を植ゑ、運動遊戯の具を設けて衆庶の遊覽に便せるものを樽井遊園地となす。園内に旅亭あり、海は浴するに宜しく夏時の來遊者年毎に多し。

金熊寺梅林

東信達村大字金熊寺

南海電車樽井驛に下りて東南二里、泉海眼中に出沒して峯巒亦漸く近く、香風馥郁として鼻を撲ち來る。之れ金熊寺一目千本の梅林にして、世に泉南小羅浮の稱あり。一溪を挾む兩岸の梅樹、崖に懸り峯に連り、巖を圍み水に臨み、香雲萬朶の間、金熊寺の堂樓點々隱見し、宛然一幅梅花書屋の畫圖をなす。寺は一乘山觀音寺と稱

し、役の<sup>●</sup>小<sup>●</sup>角の<sup>●</sup>靈<sup>●</sup>夢によりて土中に得たる観音を祀る、梅溪月に宜しく雪に宜しく而して春素より佳なり、杖を曳くの雅人甚だ多し。

淡輪遊園 宇度墓 淡輪村

南海鐵道會社の經營に係り、黒崎より淡輪村に到る一灣の海を抱き、葛城山系を負ひ、淡路島山の青螺を望み、浪穩にして松林風馨り、人為の設備亦整ひ旗亭旅舎相並び頗る遊樂に適す。夏季の候、海水瀑布、海水浴場の設あり、時に綸を垂るれば潑刺として鈎に上る真に南海有數の樂園たり。近時淡輪淡路間直航の汽船を經營し益、繁榮を



淡輪遊園

加ふ。

宇度の墓 は垂仁第二の皇子五十瓊敷入彦命の墳塋にして世に淡輪の御陵と稱す。四周濠を湛へて、老松鬱茂森嚴を極む。命は忠誠にして多技池を掘り溝を築き、劔一千口を茅渟川上宮に作られし如き功績頗る偉なりき。七箇の陪塚陵を繞りて環をなし、拜詣者をして無量の感を惹かしむ。

黒崎 淡輪の南海水浴場を抱き、一帯の松林海上に斗出するもの古來の名所、黒崎の松原なり。紀貫之が土佐日記に『二月朔日……和泉のなだといふ處より漕ぎ行く海の上きのふの如くに風波見え、黒崎の松原を經て行く。所の名は松の色は青く、磯の波は雪の如くに、貝の色は蘇枋にて、五色に、今一色ぞ足らぬ』と古文豪の靈筆に上りけん、風趣今尙ほさながらなり。

願泉寺 (貝塚御坊)

貝塚町大字貝塚

一三四

貝塚町の今日を成せしは始め願泉寺の法榮に因れり。寺は今眞言派に屬するも、舊と行基僧正の開基にして畿内四十九院の一たりしなり、後法燈漸く衰へ纔かに其の跡を保つに當り、名家の出たる高僧ト半和尚中興し、顯如上人に歸依して眞宗に改め、天正中顯如を茲に迎へ留めしこと三年、十戸の漁村忽ちにして三百の邑を成し、貝塚御坊と稱し、近畿信仰の中心たるに至れり。秀吉家康も亦ト半を信仰し優遇する所あり、法連日に隆にして以て今日の基を開けり。寺寶には由緒ある佛像文書頗る多く、本堂に額せる泉南第一靈刹の名、徒爾ならざるを證す。

深日浦

深日村

親隆



深日浦

夏○の○夜○は○吹○飯○の○浦○の○時○鳥○  
岩○打○つ○波○の○立○か○へ○り○啼○け○  
古○來○歌○枕○と○し○て○名○高○き○古○へ○の○  
吹○飯○浦○は○深○日○一○帶○の○海○濱○に○當○  
り○千○歳○の○河○口○よ○り○西○の○方○里○餘○  
一○灣○の○海○中○萬○態○の○奇○巖○を○擁○し○  
巨○浪○巖○に○碎○け○て○白○雪○を○飛○ば○し○  
波○濤○の○壯○觀○府○下○第○一○た○り○一○带○  
の○青○松○巉○崖○に○倚○り○其○の○間○に○漁○  
戸○網○を○懸○け○蟹○舍○煙○を○揚○ぐ○る○あ○  
り○淡○路○の○島○攝○播○の○山○淡○靄○の○中○  
に○翠○鬢○を○列○ね○西○の○方○阿○波○の○鳴○

大阪府名所舊蹟案内

一三五

戸に連る、凡そ攝泉の海、風光明媚は即ち世に絶せり、然れども豪宕の趣きに至つて乏しきを免れず、獨り深日の海あつて稍、人意を強くす。風光の美千古の詩題に入るも宜なり。今陸軍要塞地として内海の咽喉たり、低回顧望時になほ源平當時の古戰場を想はしむ。

(平家物語)……能登殿(教經)餘すな洩すなとて散々に攻め給へば

あまの六郎叶はじとや思ひけん和泉の吹飯の浦に楯籠る、……

能登殿やがて押し寄せて散々に攻め給へばあまの六郎園部の

兵衛叶はじとや思ひけん身がらは逃げて京へ上る……

時つ風ふけひの濱に出て居つゝい

あかふ命は妹かためこそ

(萬葉集)

### 南河内郡

#### 天野山金剛寺

天野村大字天野山

天野村の西杉檜鬱として和泉を畫れる翠巒を天野山となす。

山麓に金剛寺あり、史蹟の崇結構の盛山河の美とを兼ね、府下靈刹

中の優なり。寺は眞言宗に屬し聖武帝の勅願により行基僧正の

開基せるものに係る。代々帝室の尊信厚くして頻りに伽藍を營み

八條女院の歸依により女院高野の稱起り、弘法大師も來りて此處

に錫を留めらる。山に據り川を挟み、七十餘坊薨を連ねて曾て後

醍醐帝の勅願所となり、次で正平の天子後村上帝の行宮たること

六年、塔頭摩尼院は其の御座所に充てられ、世に天野殿と稱し奉り

き。食堂の政廳は楠正儀等が久しく策戰の室に當てたりし所、御



影堂は弘法の畫像を納め、當宗日本三御影堂の一たり。其の椽端に唐破風造りの月見御殿あり、後村上帝の觀月の所なり。爲忠朝臣の『君すめは峯にも尾にも宮居して深山なからの都なりけり』と慰め奉れる昔など思ひやらる。建徳中長慶天皇も亦駐蹕のことあり。當山の一木一石悉く光輝ある記念たらざるはなし正門金堂鐘樓多寶塔觀月亭は悉く特別保護建造物にして金堂内の巨像

大日如來は國寶に列し、寶庫中には十一點の國寶と數十の佛畫像、楠家の貴重記念物等、目を驚かし感を惹くもの多く、優に小博物館の觀をなす。此の附近春櫻秋楓の勝地にして亦松茸を産す。一遊して河州高野の名空しからざるを思ふ。

天野山城墟碑銘

男爵 九鬼 隆一

天野之山	嶽巖其阻	正平天子	行在之所	聽政督軍
誰贊帝謨	流離顛沛	誰護皇輿	維忠維義	續父兄志
鞠躬盡瘁	不圖其利	若夫成敗	奈天命何	思君不見
臨風浩歌	物見之松	至今鬱葱	勿剪勿折	永欽英風

狹山池

狹山村大字池尻

池は人皇第十代崇神帝の開かせ給ふ所『詔曰、農天下之大本也。民所恃以生也。今河内國狹山植田水少。是以其百姓怠於農事。其

多開池溝以寬民業……』と、古聖帝の徳を湛へて我國最古最大なる名池の一たり。天平寶字年間には八萬餘人を發して補修し、降つて安見美作守片桐且元等の補修を経て現今に至る、周圍一里、恩波二千年の碧を潑へ灌漑の域十一村三千餘町歩に及ぶ。池中龍王島あり安政年間に築きしものにして、池塘の楊柳春風に梳り、清陰深き處の石祠龍王を祀る、宛として琵琶湖の竹生島に似たり。



池山狭

楠公誕生地

一 溪を隔て赤坂城址と相對し、金剛葛城の連山を背景とせる丘上に百日紅の老樹花長へに丹く楠木の翠に反映せる所楠公誕生地と鑄せし一碑建てり。之を楠廷尉生誕の處となす。此處に小祠の大將軍塚と稱せるあり、石棺其の下に藏す、里人敢て近き穢すことなし。又附近に山の井の清泉あり、里人之を楠公の隠し水と稱せり、記念碑は明治十二年税所知事等の建つる所なり、近時楠公

赤坂村大字水分

楠公誕生地



大阪府名所舊蹟案内

保勝會相圖りて、石柵を建て地を擴め宿泊所を設けて來拜者に便せり、想ふこゝや公の髻齡にして嬉戲せし所か、かしこの坂や公が修學の爲め觀心寺に通ひし跡か。

(太平記)元弘元年八月二十七日主上笠置へ臨幸成りて本堂を皇居となさる(中略)…主上これは天の朕に告ぐる所の夢なりと思召して文字につきて御料簡あるに木に南と書きたるは楠といふ字なり、其陰に南に向ひて坐せよと二人の童子の教へつるは朕二び南面の徳をなさしめて天下の士を朝せしめんする所を日光月光の示されけるよと自ら御夢を合せられて頼もしくこそ思召されけれ…河内國金剛山の西にこそ楠多門兵衛正成とて弓矢取りて名を得たる者に候なれ、其母若かりし時志貴の毘沙門に百日詣で、夢想を感じて設けたる子にて候とて稚名を

多門とは申し候ふなりとぞ申しける、主上さては今夜の夢の告げ是なりと思召して聽て之を召せと仰せ下されければ藤房卿勅を奉りて急ぎ正成をぞ召されける。

社府建水分神社 楠公誕生地の附近にあり。崇神帝の創祀にかゝり、天水分神、國水分神、天御中主神、外二神を祀る。代々皇室の崇敬厚く、後醍醐帝の時社格を進めらる。社頭の額は正行公の筆と傳へ、社殿は正成公勅によりて建營せる所にして、結構雅麗、特別保護建造物に指定せらる。神域宏くして老松晝猶ほ暗く、丹碧嵐光と相映じて森嚴を極む。境内に南木神社あり、即ち公を祀る。公の湊川に戰死するや、後醍醐帝叡悼措かず、御躬ら公の像を刻して茲に祀らしめしものなりといふ。

9 赤坂城址…寄手塚…味方塚 赤坂村

大阪府名所舊蹟案内



奉。詔。勤。王。臣。正。成。忠。肝。誓。欲。塵。東。兵。懸。崖。絕。壑。占。形。勝。一。舉。得。義。軍。第。一。聲。

金剛山の麓、東條川の崖、絶壁三百尺、刀して削るが如き所、是れ當年楠公の據りて以て義旗を翻し、梟鷲の強敵を山下に碎きし所、偉勳燦として汗青を照す。太平記に『おのが館の上なる赤坂山に城郭を構へ其勢五百騎にて立籠り』雲霞の賊軍を神策奇謀を以て惱ませし名城の址一ノ木戸甲取坂、屏風塚、藤林出合など地名、今に残り物見の松の根は残り、泉井猶在りて、當年の趣を存す。公の歿後も一族屢々、茲に



赤坂城址

據り義を詢へし所たり。今は草丘の上赤坂城址の碑を建て記念となす。

上赤坂城址 は金剛山腹大根田にあり、大根田の城といふ。楠氏の臣平野將監の據りて千早の應援をなせし處と傳ふ。壘壁の址、今に残りて野草萋々たり。

寄手塚味方塚 赤坂城址の下森屋三昧所に、寄手塚味方塚と云ふあり。五輪塔苔蒼き標石に楠君立の三字あり、傳ふ楠公敵味方の戦死者を憐み、遺骸を收めて塔を建て、追福を營みしものなりと。寛仁の至情欽するに餘りあり。森屋には又大森彦七の墓あり、稗史に、院本に、有名なる彦七の鬼話は其の原、太平記に出で楠公遺聞として人口に膾炙せられしものなり。

金剛山 屹立四千尺、府下第一峯にして、積翠鬱々、麓を埋め、山嶺は

五畿淡紀の江山を俯瞰し景趣豪宏楠氏の遺跡と相待つて頗る崇高懐古の情を動かす。登路二あり赤坂村森屋よりするもの山頂へ四里赤坂村水分よりするもの嶮坂里餘山上に金剛山寺あり役小角の開基にして自作の法起菩薩不動明王を祀る。登臨景を賞し昔を偲ぶものに多し。

頼山陽

……望金剛山想楠河州公之事……  
山勢自東來。如鳥開雙翼。遙夾大江流。相望列黛色。南者金剛山。挿天最岐嶷。施尾抵海垠。蜿蜒畫南城。隱與城郭似。擁護天王國。想見豫章公。孤壘扞群賊。合圍百萬兵。陣雲繞麓黑。臣豈不自惜。受託由面勅。灑泣誓吾旅。爲君塵鬼蜮。果然七尺軀。自有回天力。宕叡連武庫。隔江對正北。公死實在此。在公盡臣職。所惜壞長城。寧支大厦仄。

吾行歷泉紀。往反緣大麓。顧瞻山海間。慷慨三大息。丈夫有大節。天地賴扶植。悠悠六百載。姦雄迭起踣。一時塗人眼。難洗史書墨。仰見山色蒼。萬古淨如拭。

千早城址……楠正儀墓 千早村

千早又千劍破と書す千早川の潺湲を遡り千早の村落を過ぐれば金剛山の半腹に城址を仰ぐべし。兩水麓を繞り谷深うして削立二百仞山頂老松偃蹇する所一大銅標を建て千早舊城址の五字を題す。元弘二年楠公此處に城きて北條百萬の勢を撃退し回天の偉勳を樹てし所にして爾後楠氏累代の根據地なり。本丸二の丸外構の址昔ながらに斷礎起伏し左右に大佛の寄手名越の寄手を望み俯しては風呂谷懸ヶ橋勝負が段茶園が段等を指すべく全山の木石悉く之れ國寶とも稱すべし。山麓新に石標二基を建て

『審強弱之勢於幾先』『決成敗之機於呼吸』と分ち題せり。本丸  
址に千早神社あり。楠公及び村社を併せ祀る。

橋本桂園

龍争何處是。雲外細蹊通。五水留城址。孤墳入草叢。  
松添歷朝綠。山帶夕陽紅。遺憾當年事。空懷三世忠。

楠正儀墓 千早城後、幽徑金剛山に通ずる所に一丘あり、老松の下  
五輪の塔を存す、楠正儀之墓と傳ふ。正儀父兄の志を嗣ぎ、孤忠千  
早に據り、久しく南朝を支ふと雖、遺恨病みて起たず、茲に葬らる。  
南木誌『正儀與賊將山名氏清戰平尾宗族六人家族百四十死之、尋  
罹病卒于千早城中、臨終遺言子正勝、正元曰、吾續先業、雖圖興復、時運  
未到、空入黃泉、汝等宜盡忠報皇恩矣、就葬千早本城、巽隅、今現有五層  
塔』柵壞れ、苔封じ、凄籟幽禽轉た、弔人の腸を斷たしむ。

ぬかつけは襟に冷たし松の露

龜井一山

觀心寺

後村上帝御陵、楠公首墳

川上村大字寺元

寺は長野遊園を出で、三日市川の溪聲を聞きつゝ、大和五條への通



觀心寺

路を登ること一里の所に在り。河南三  
大刹の一にして久しく南朝の行宮たり  
し所なり。役行者の開基に係り、始め雲  
心寺と號せり。弘法大師入唐歸朝の後  
來りて此處に住み、一刀三禮して如意輪  
觀音(國寶)を刻み、寺號を觀心寺と改め、法  
謫道興大師亦大に法輪を轉じ、歷朝の歸  
依甚だ厚く代々勅願の所たり。後醍醐  
帝夙に茲に祈誓し給ふ所あり、建武中興

に及び、楠正成に勅して金堂を再建せしめらる。後村上帝屢幸して、行宮と爲し、遂に此の地に崩じ給ひき。當時四十六坊の盛も今は、纔かに横本院及中院を存するのみ。寺は檜尾山の鬱蒼たる松檜を背景とし、表中の二門を前にす。中門は豊太閤の大阪城中の建物を移せしものと云ひ、結構彫刻頗る見るべし。本堂は一千餘年の歲月を經、崇高典雅掬すべく、特別保護建造物に指定せらる。大師堂辨天堂鐘樓塔堂寶庫等、綠樹の間に連り、そらに昔日の盛を想はしむ。寶庫の中には如意輪觀音像外十餘の國寶像畫像楠公湊川著用の腹卷及び幾多の貴品珍什を藏し、普く拜觀を許せり。

中院は楠氏祖先の建立に成り、楠公の幼時來り寓して、文武を修めし所、長じて奉勅討賊に従ふの間、家族を此の寺に託し、建武中興の功成るまで一日も省みざりしと言ふ。公の湊川に赴かんとす

るや、恩賜の守護佛愛染明王及佩刀具足に消息を添へ、中院に送り、て記念とせり、今國寶に入るもの是れなり。

e  
楠公首墳は本願堂の傍に在り、檜尾山の森を貫ひ、封石方一間餘の臺上に五輪塔を安置す。頗る壯嚴なり。當時尊氏の公の首を贈るや、一族相議して此處に葬り、家臣安間生地等之を督せりといふ。周邊に頌德碑多し、千歳の下、一片の石幾多志士の涙痕を止む。



楠公首墳

忠○廻○斜○日○。義○凌○清○霜○。楠○公○之○元○。千○載○如○生○。

(墓前燈柱 中井履軒)

墳邊に多寶塔あり、楠公造り懸けの塔と云ふ。公會て寶塔を建立せんとし、半ばにして戰歿し、唯此の第一重を成せしのみ、今其の上を藁葺屋根として存す、討ね來れば感殊に深きを覺ゆ。

雀子や藁て葺いたる塔の屋根 浪花寸馬

後村上帝御陵 檜尾御陵と稱す。全山幽邃として陵道苔冷かに

森嚴の氣人に迫る、帝は後醍醐帝の御子、吉野の行宮にて登祚し給ひ、南風競はず、觀心寺の行宮に崩す、後峯に葬り奉る。來り拜する者誰か、篠崎小竹が所謂「……官道自多墮涙人。此地寂寞鬼恐餒。獨有正平天子陵。君臣千載永相憑。」の感なからんや。

戲福寺……(上の太子)應戶皇子廟 磯長村大字太子

磯長山と號し、紀の金剛峯寺に屬し、世に上の太子と稱し、勝軍寺の



應戶皇子廟

下の太子に對し、南河の靈刹にして、寺觀の壯觀、心寺と伯仲す。推古の御宇、聖德太子自ら地を相し、本寺を以て廟所を定めらる、薨じて後遺命により、此處に葬る。推古帝勅して御廟守護として、僧坊十煙、方六町の地を賜はり、聖武帝の勅願により、規模を擴め、大和の法隆寺に擬す。代々皇室の崇敬厚くして、屢、行幸あり。高倉帝の時、平清盛に命じて堂宇を補修せしめられ、其の

子重盛亦大檀那たり。後兵燹に罹りしも、後陽成帝の慶長年中、勅

願によりて再興したるものを現在の堂塔となす。盛時の寺領二萬石に餘り、一千有餘年の貴什、今尚ほ寺内に存するもの多し。曾て弘法親鸞、日蓮、良忍等の大徳も茲に參籠して法を修めし所にして大門多寶塔金堂御影堂二天門淨土堂念佛堂等壯觀を競ひ、念佛堂は善光寺四十八願所の一たり。什藏千百の中には宸筆の經像を始めとし國寶鑑査狀附きのものみにても十數點を算し、近畿有數の靈刹たり。

○聖德太子廟 寺後の兆域周迴丁餘の所、高數丈の三層墳をなし、古木蔽ひ蒼苔封じ、壯嚴云はん方なし、世に之を御墓山と謂ふ。墓中に太子の母と妃を併せ葬るを以て又三骨一廟の稱あり。古來近づき拜するを許さず、今宮内省所管に屬せり、太子聰明の資、廣大の績、流芳千古、實に史上の偉人たり、廟中二十句の碑あり、上に大乘木

の老幹盤桓し、傳へて太子自刻の碑といふ。句の前半に曰ふ

大慈大悲本誓願。愍念衆生如一子。是故方便從四方。誕生片州興正法。我身救世觀世音。定惠契女大勢至。生育我身大悲母。西方教主彌陀尊。(以下略)

敏達用明推古孝德天皇御陵

磯長村 山田村

叡福寺の後山一帶を磯長山とす。山峻くして風光開豁、用明敏達孝德推古の四陵此のほとりに向背相望みて森嚴を極め、聖德太子廟と併せて恰も五瓣梅花を布けるに似たり。世に之を梅鉢御陵と稱す。

敏達天皇御陵 磯長中尾陵と稱す、帝は欽明帝の御子、在位十四年

にして崩じ給ひき、此の地曩に母后を葬れる處にして、陵は濠を周らし、林樹鬱茂せり。

用明天皇御陵 磯長原陵と稱し、隴圃の間、濠繞りて古松其上を蔽ふ。

推古帝御陵 磯長山田陵と稱す、帝は欽明の御子にして、端麗聰慧敏達帝の皇后と爲り、帝崩じて後登祚し給ふ、我邦女帝の初めとす、陵には竹田皇子を併葬す。

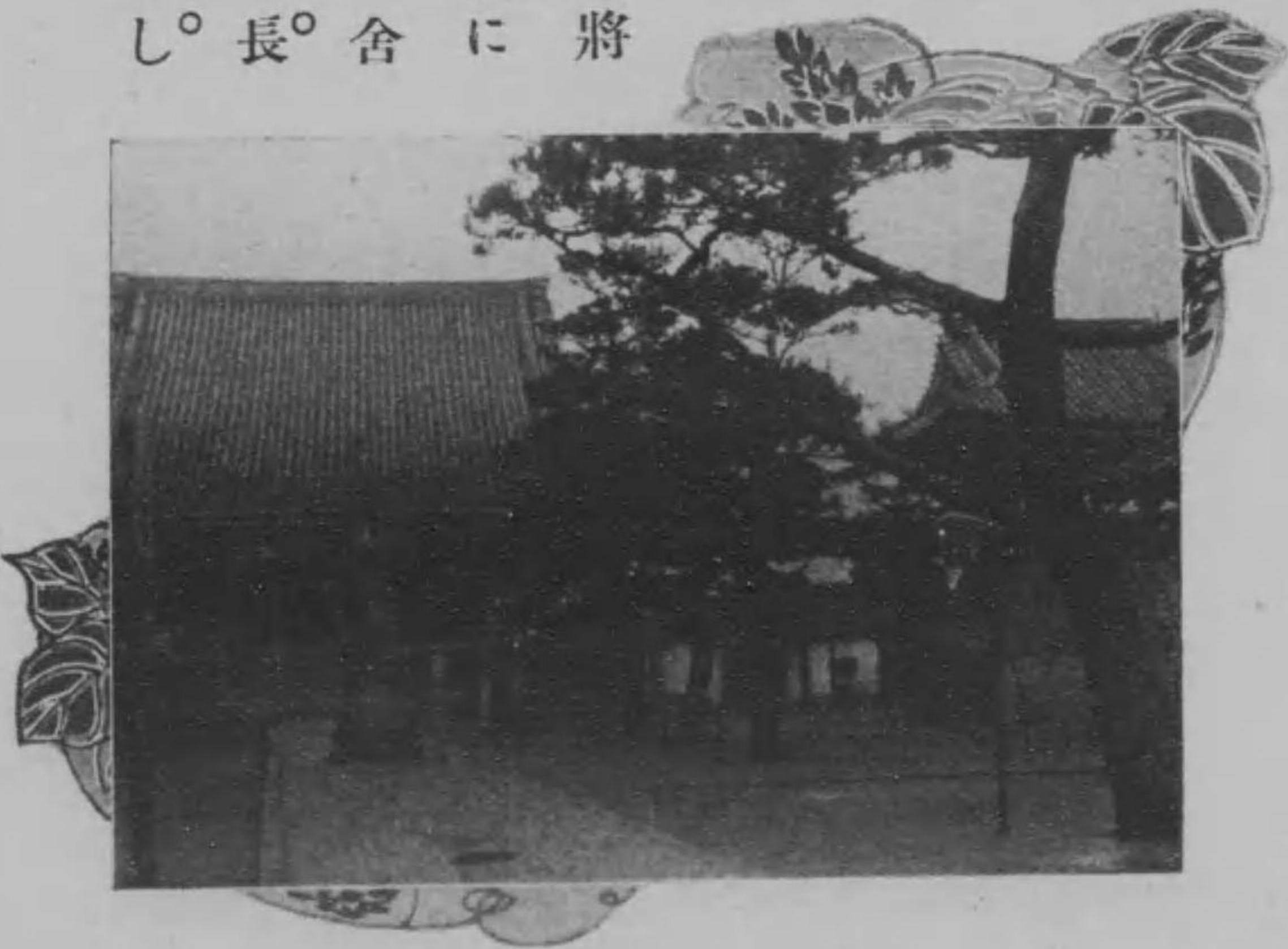
孝德帝御陵 大阪磯長陵と稱し、又一に鶯陵と謂ふ。帝は大化中興の英主に在しまし、攝津長柄豊碕宮に崩じ給ひき。封兆高さ丈許、所謂大化式の三層墳をなし、松林圍み翠蓋其上に盤屈す。幽邃崇高謂ふも畏し。枕草紙に『陵は鶯の陵かしは原の陵あめの陵』とあるもの是なり。

葛井寺……正行戦死跡

藤井寺村大字藤井寺

寺は眞言の古刹にして、聖武帝の勅願により行基僧正の開基に係

り、本尊千手観音を祀る、里人今藤井寺と呼べり。楠公嘗て祈願を籠め、旗刀の奉納ありき。後兵燹に罹り現在の堂宇は後の再建に成るものといふ。葛井寺は正平の古戰場として特記すべし。正平二年尊氏の將細川顯氏兵三千を率ゐて河内に迫り、金剛山を距る七里にして舍す、正行之を聞き、七百騎を以て長驅突撃大に賊を破り走らしめし名譽の戦蹟たり。



葛井寺

〔太平記〕此勢八月十四日の午の刻に藤井寺にぞ著きたりける、此陣より楠が館へは七里を隔てたれば縦令急に寄するとも明日か明後日かの間にぞ寄せんすらんと京勢油断して、或は物具を解きて休息し或は馬の鞍を卸して休める處に、譽田八幡宮の後なる山蔭に菊水の旗一旒ほの見てひた甲の兵七百餘騎しづしづと馬を歩せて打寄せたり、すはや敵の寄せるは馬の鞍おけ物具せよとひしめく所へ、正行眞先に進みて喚きて懸け入る……勝に乗りて関を作懸けく追ひける間大將已に天王寺渡部の邊にて危く見えける六角判官が舍弟六郎左衛門返合せて討れにけり……

讀み去つて痛快限りなく、松籟尚ほ凱歌を奏するかと疑はしむ。

平石城址……南朝戦蹟  
白木村大字平石

城ヶ塚の山上に壘壁の址回字形をなし、老松鬱々として之を圍む所を南朝の忠臣平石茂直の城址となす、笠置の陥るや正成帝を奉じて平石城に移り、茂直と力を協せて東兵と戦ひ、屢之を苦めしも衆寡敵せずして城遂に陥り、茂直茲に自刃せり、丘上に小石祠あり、二碑其傍に建てり、茂直の裔今に村内に連綿とし遺物を襲藏す。

高貴寺  
白木村大字平石

寺は役行者の葛城山二十八谷院の一にして香花寺と稱しき。弘法大師留錫の時、高貴菩薩の出現を拜して高貴寺と改め、大に堂塔樓門を修めて中興す、南朝の時、賊徒降伏を祈りしたため應て、怨みの賊火に罹りしも大塔宮其跡を訪ひ給ふて『惠をはたれ給へかし神佛伽藍を焼きし罪ふかき身に』と寛宏の悼歌をよせ給ひき。後、金堂六坊を再建し相承して今に及べり、院内頗る勝蹟に富み、什



寶に貴珍多く、境内の風光四時に佳なり。慈雲和尚が、春秋になれても馴れぬ眺めかな谷のとはその明方の空と詠じけんもむべなり。

弘川寺…西行の墓

河内村大字弘川

寺は葛城山の巨人の臥せるが如き所、溪流清く翠微こまやかなる間にあり。天智帝の御宇、役小角の開基にかゝり薬師如來を安置せり。天武帝の白鳳年中大に早するや、此處に雨を祈りて應驗ありしかば、龍池山と號し勅願所にすゝめらる。當時の龍井猶存して里人時に雨を祈る。行基弘法曾て錫を留め伽藍を興し、後鳥羽帝は茲に祈りて御惱平癒ありしかば、御幸して勅額御製を賜ひき。

後鳥羽帝御製

山深み木の葉の下の陰し水流れの末は瀧つ瀬の音

西行法師も晩年寺内の幽寂を愛し、菴を結びて傍に住みしことあり。似雲法師來り住するに及び法燈復た輝き、今も南河の一名刹なり。

西行法師墓 弘川寺内なる西行堂には傳文覺作の西行上人像を

安んず『圓位聖（西行）歌ども判こひ侍りし、其年は文治なり河内の弘川といふ山寺にて煩ふ事ありて急ぎ遣はしたりしかば、限りなく喜び云ひ遣はして後二月十六日に西行隠れ侍りけるかの上人先の年櫻の歌多く詠みけるに、「おなしくは花のもとにて春死なんそのきさらきの望月の頃」遂に此の日終りとげけるに哀に有り難く覺えて』（長秋詠草）とありし所なり、此の雲水詠人の墓久しく所在を知らざりしが、似雲法師によりて發見せられ、寺後二丁を登れば丈許の墳土圓位上人墓の石標立てり、在りし世の櫻は見え

一六二  
で、古松數株寂かに塋を繞れり。曾て自ら死後の希望を『佛には  
櫻の花を奉れ我が後の世の人とふら  
は』と詠じけん、歌聖の墓前に櫻花  
一枝を手向くるも感深し。

錦溪温泉：長野遊園

三日市村大字小鹽

多賀田川の岨、鹽の阪の岩隙より多  
量の鹽泉湧出す。里人清流奇巖に  
倚りて浴室酒樓を作り、翠巒を負ひ  
青嵐に臨み、景趣百千、高野鐵道の終  
點に近くして、來遊者陸續たり。白  
雲紅葉の秋錦溪の名真に空しからざるを思はしむ。



錦溪温泉

長野遊園 は長野町にあり、園は高野鐵道會社の經營に係り三日  
市西條の二川の合する所、奇巖碧潭に望み、流清くして魚數ふべし。  
園は山水の奇勝を併せ領して、橋を架し、途を開き、運動場を設け、亭  
榭あり、浴舎あり、以て浴し以て遊ぶべく亦山中の一樂界なり。

源氏三將軍の墓……通法寺……壺井八幡宮 駒ヶ谷村大字通法寺

駒ヶ谷一帯の地、古へ源氏の領地にして、館舎累代この地にあり。  
源頼義獵して溪中に觀音像を獲、精舎を作りて之を祀り、寺を通法  
寺と號し、後源氏と共に衰頽せしを徳川綱吉其祖廟の故を以て再  
興したりしも、今復た荒涼を極む。頼信、頼義、義家の墓と傳ふるも  
の寺の周邊にあり。老松舊苔蒼々として、垣壞れ扉傾き、人をして  
悵恨去る能はざらしむ。頼信は頼光の弟なり、驍名家兄と並び著  
はれ、鎮守府將軍に拜し、河内の刺史として、今の駒ヶ谷村壺井に館

し、子孫嗣て住み、頼義其子義家、義光皆此に生る。

壺井八幡宮は頼義が奥州凱旋の時、石清水八幡宮を勸請せるものにして、源家代々の崇敬厚かりき。社寶には源家累代の武具、其の他見るべきもの多し。

墓の義家社寶には源家累代の武具、其の他見るべきもの多し。

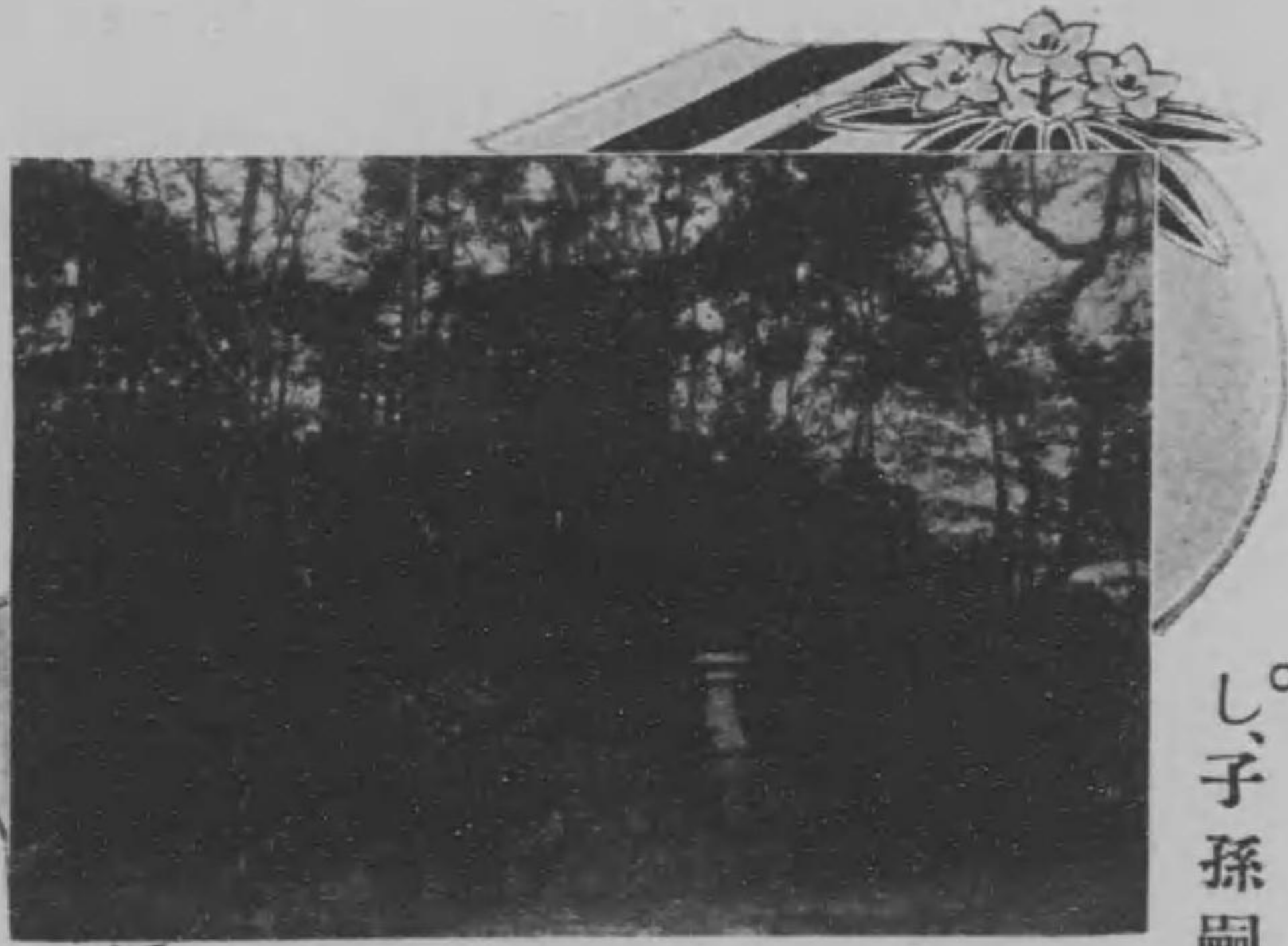
玉手遊園…安福寺…慶長古戦場

玉手村大字玉手

河内路や片敷山の片岸に、雪か花かと浪そよせくる。(今古六帖)

山水明媚にして古來歌枕

と詠みけんは今の玉手の里なりとぞ。山水明媚にして古來歌枕の勝地たり。



安福寺は道明寺停車場より數丁、玉手遊園内にあり、寺は行基僧

正の開基に係り、彌陀佛を本尊とす。

寛文中、浄土宗の傑僧珂憶和尚來り

て中興し、深く尾張大納言光友の歸

信を得て、規模を擴め、境内一萬五千

坪の廣きに及び、櫻楓途を挟み、荷花

池邊に白く、賽者常に多し。堂後に

壇越尾張侯光友の廟あり。寺寶に

は佛像、什器等珍貴見るべきもの尠

なからず。光友寄附の硯箱三箇は

模範美術たるの鑑査狀を有せり。

玉手遊園は古への所謂國見が岡

大阪府名所舊蹟案内



玉手遊園圖

なり。河南鐵道の經營に係り、石川の清流帶の如く丘を環りて、満山の翠松姿態多く溪巖の趣亦幽雅なり。天高く氣澄むの日、丘上十州を見るべし。陽春三月満山新緑の下、菜花十里の黄金を布き安福寺の櫻楓古帝陵の紅緑に映じ、古來八景の稱あり。

玉峰秋月。華城晚暉。菅廟香雲。西海帆影。南郊菜花。石川水禽。葛城春靄。福林鐘聲。

慶長古戰場 玉手片山圓明の諸部落は大阪の役、東軍の將伊達政宗の臣、片倉景綱茲に西軍と激戦して勝ち、豪雄後藤基次、薄田隼人等の首を挙げし所にして、土中往々當年の武器を出す。古市村の路傍、隴圃の間、草丘あり、梅檀の一巨樹之を蔽ふ。里人傳へて薄田隼人の墓と云ふ。

府譽田神社……應神天皇御陵

古市村大字譽田こんだ

譽田神社



大阪府名所舊蹟案内

惠賀藻伏の岡の邊、地靈にして松露滋き所、應神陵下に一社あり、應神帝竝に六神を祀る。欽明帝創めて此の地に社殿を營ませられ、後冷泉帝に至り今の社域に造營し、代々の崇敬重くして、豊臣徳川氏に至りても頻りに獻地再建の信を致し、以て今日の壯觀をなせり。拜殿本殿は秀頼が片桐且元を司監として造營せる所、結構宏麗にして彫刻の妙賞すべく、社寶には菅公筆法華經、土佐將監筆神后三韓征伐記、家光筆澤庵贊の畫、古能

面其の他見るべきもの多し。境内清浄にして古木陰を成し來拜者四時絶えず。

應神天皇御陵 譽田神社の西北碧濠深く繞りて水禽閑游し、群松半天に聳え、鬱として王氣を鍾め、寶兆の宏闊八萬坪、瓢形の丘をなし、急磴高くして頂上の寶殿に達すべし。丹鶴老松に巢ひ、幽禽鳴いて影を見ず、森嚴の氣覺えず、人をして敬俯せしむ。

此の附近一帶靈跡多く、陵墳陪塚相望み偉觀を極む。安閑帝御陵 白鳥御陵(白鳥三陵の一)清寧帝御陵 仲哀帝御陵 允恭帝御陵等皆此の附近にあり。

河南の地陵墳の多きこと他に其の比少し。煙雨空朦の日、茲も亦『十二帝陵低不見。白風黒雨滿南都』の感あらしむ。

土師神社 (道明寺天満宮)……道明寺 道明寺村大字道明寺

境内の淨曠社殿の壯麗拜壇の完整等、他の上格の社と雖、斯の如きは稀なり、道明寺天神の名遠近に響き

社前旗亭茶店の設あり、社は菅公あね姨あね覺あね壽あね尼あね竝あねに天穗日命を祀る、菅公の祖野見宿禰土偶を作りて殉死に代へ、功を以て土師姓を賜ひ、世々此の地を領とせり。菅公時に來りて此に住み、姨覺壽尼は土師寺を以て住庵とせり。菅公左遷の途、來りて尼と訣別し、自刻像、櫛等をかたみに遺し、『鳴はこそ別れもうけれ、鶏の音の聞えぬ里の曉もかな』の詠歌を留めた

土師神社



大阪府名所舊蹟案内

り、里人今も鶏を養ふを忘むといふ。朱雀帝勅して公を祀らしめ、土師神社と號しき。現在の社殿は、信長秀吉の再建する所、輪奐壯麗にして、南河の偉觀たり。境内には有名なる木樓樹、土師窯蹟、夏水井成就、梅土師の泉、龍池等の名蹟あり。近時新に寶藏を建て、襲藏の社寶を納め、拜觀に便にせり。明治十年明治天皇大和行幸の日、畏も本社に駐輦あらせられし譽を有し、神苑幽邃にして佳趣饒し。

(謠曲道明寺)……我れ善光寺の如來に一七日參籠申して候へば、新に御靈夢を蒙りて候ふ程に、是れより河内の國土師寺へ參らばやと思ひ候。……長月の色も梢の秋を得て照るや紅葉の土師の里、なほ晴れ残る音とてや、松風獨り時雨るらん、是に出でたる老人は此里の名も土師寺の佛神に仕へ申すものなり、有り難や利生は様々多けれどもわきて誓も影高き天滿つ神

の宮守に歩みを運ふ御值遇、實に身を知れば心なき我等が爲は頼もしや……。

道明寺 天滿宮社域の西にあり。眞言の尼寺にして寺は菅家の建立に係り、菅公の姨覺壽尼出家して當寺に住し、菅公亦屢來詣せらる。現在の寺觀は信長秀吉の再建する所、堂内幽靜淨閑、神祕の氣漂ひ、本尊十一面觀音は傳菅公の作、前佛試みの觀音と共に國寶に入る、其の他佛像傳張思恭の畫像等鑑査狀附の優品多し。茲より世に廣まりて通稱となれる道明寺ほしひは始めて當寺の製出したるもの曾て禁闕に獻じたるの榮を殘せり、今猶一名物たり。

閑宮多暇出城外。引歩便來古寺門。雁塔五重承夜露。鳧鐘三下報黃昏。壇那(菅公)昔至留神跡。紗帳深籠案世尊。樹下春闌懷舊處。家山暫忘立牆根。(過道明寺有感惟宗孝言)

中河内郡



枚岡神社

官幣大社 枚岡神社

枚岡村 枚岡

社殿は主神降臨の靈蹟神津岳鬱蒼たる麓にあり、主神は藤原氏の高祖天兒屋根大神及び比賣御神にして鹿島香取の二神を配祀せり。社は神武帝即位前三年に既に此の山巔に祀りしものと傳ふ。歷朝の崇敬及び武將の信仰甚厚く、社殿は世々官營たりしが、兵燹に罹りて後豊臣秀頼再建せり、現在

の社殿は即ち文政年間の造營に係るものなり。祭式古雅莊重を極め、堂宇典麗、境内に老蒼たる神木と槎枒たる古梅數百株あり、春時の來拜者殊に多し。

生駒山…生駒聖天…長尾瀧

日根市村

五畿の名山にして蜿蜒として河和の境をなす。眺望快闊、近畿の山河雙眸の間に落つ。神武の御宇既に顯はれ萬葉集以下代々の歌集に其の名を殘せり、和銅年間烽火を置きしより『秋



生駒山

大阪府名所舊蹟案内

さりくれば射駒山飛火かくれに萩か枝を……『萬葉集』と奈良朝  
時の目に映じ難波の海を漕ぐ舟よりは『難波どをこき出て見れ  
は神さふる伊駒高ねに雲そたなひく』と仰ぎ交野原頭の秋の暮  
には『秋の色を交野の暮に見わたせは伊駒の嶽も時雨しにけり  
（藤原忠定）』となつかしみ月海上に浮ぶの時は『生駒山かけまた  
峯に別れぬを浪花の海は月になりけり（上田秋成）』と驚歎しき。  
今は山頂に聖天を祀る。生駒の聖天の名頗る高く、賽者常に山徑  
に魚貫す。

長尾瀧 枚岡村の不動寺址の奥、生駒の溪間に懸る、瀑布は上下に  
分れ、雄瀧雌瀧といふ。高數丈、斷崖に素練を曳き、潭中の巨巖は累  
累として苔碧なり、山中の石壁に天正年中近衛前久公の不動尊に  
來り詣で、詠せし歌を鐫る、刻者は高僧慈雲にして其の棲廬、隻龍

菴の址猶瀧畔に存す。水勢壯ならずと雖、頗る幽韻あり。

恩智左近墓……恩智神社

南高安村大字恩智

恩智左近將監滿一は楠氏股肱の勇將なり、楠氏父子に随つて數度  
の戦功あり、城を恩智に定む。四條畷の敗や滿一亦自殺し城遂に  
陥る。墓は故城址城山にあり、九輪の古塔苔蒸して陰樹之を蔽ひ  
九本櫻は名のみを留めて墨址草離々たり。  
恩智神社 は式内、本州一の宮として大御食津彦神、大御食津姫神  
を祀る。白鳳年間の創立にかゝり、舊と天王の森に在りしを、恩智  
左近の城くに當り、現所に遷宮せり。神域清淨にして老杉古燈を  
挟み、山頗る眺望に富む。

瓢箪山稻荷社

枚岡南村大字四條

瓢箪山は東高野街道の傍、隴圃の中にあり。形を以て其の名あり。



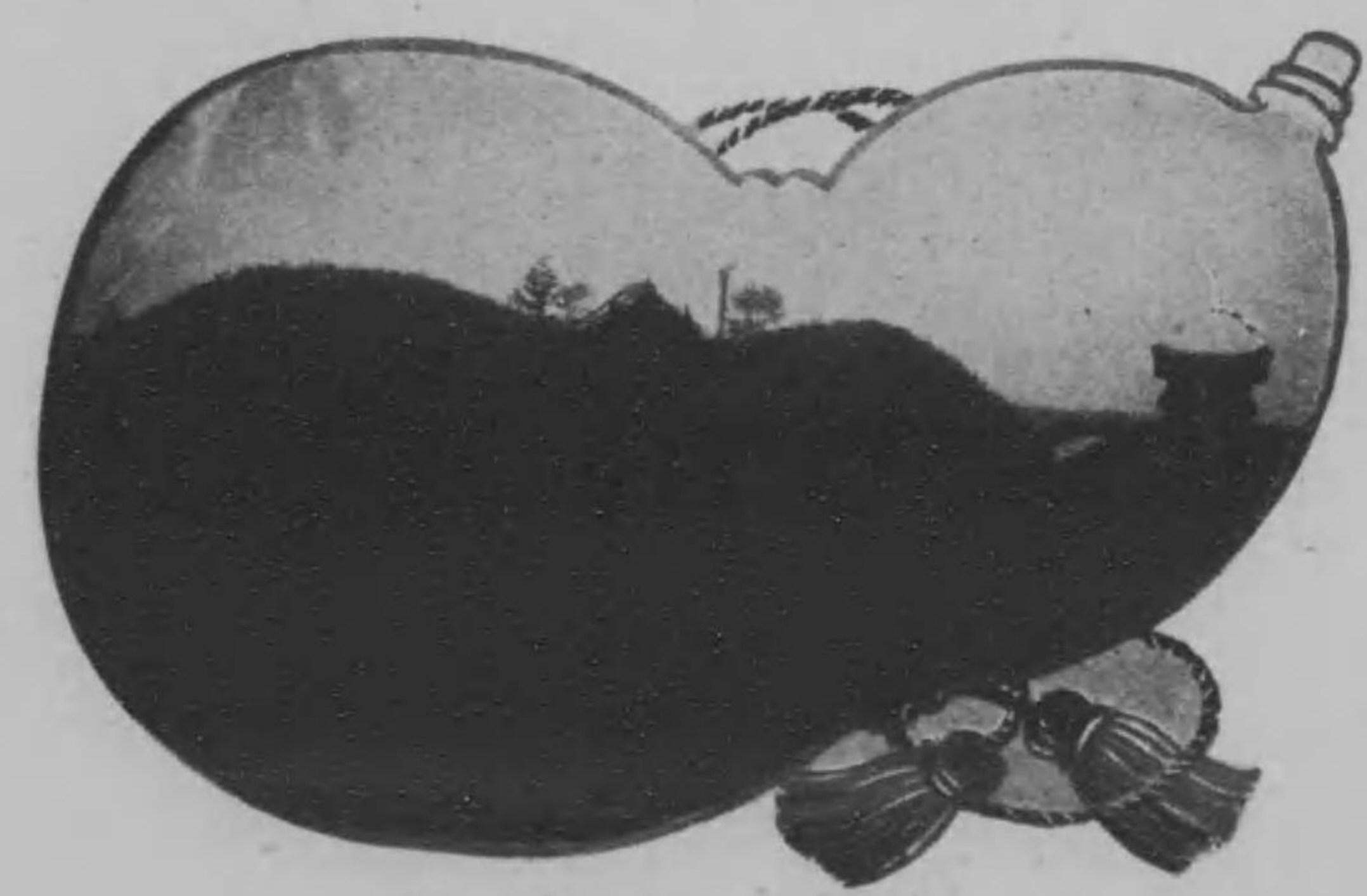
或は古墳ならんといふ。稻荷は辻占を以て頗る有名なり、賽者の

多き驚くべし。社は瓢箪の窄部にあり。維新前は篁林中の一茅屋老翁の辻占を嚮けるに過ぎざりしが大阪の一市人によつて勃興し、朱色の華表連り隧道を形り、社畔は櫛比し府下名所の一たるに至れり。

梅 嵩 寺

天照大神・高座神社  
南高安村大字教興寺

辨天山の山腹に精舎あり梅嵩寺と謂ふ。其西北に巨大の奇巖屹立し岩上喬松兩三株落々として天懸に



瓢 箪 山 稻 荷 社

吠ゆ。此に坐すれば遠近の江山指呼の間にあり、遠く十四州を望見すべしといふ。之を南河玉手の國見山に比せんか、雅麗或は及はずと雖、雄大は即ち之に過ぐ。

附近の溪谷洞巖の中に天照大神高座神社(式内)の古社あり。社側に白飯の瀧あり。黝巖に懸ること數仞、幽邃怪奇亦就て見るべし。

高 安 の 里

南、中、北高安村

高安村一帯は古の所謂高安の里なり。在原業平の高安通ひの綺話は伊勢物語に名高く又歌枕の名所たり。

(夫木集) 『河内女か手染の衣うち詫ひぬ秋風寒し高安の里』(権僧正公朝)には河内木綿の村女を詩化せり。

(謡曲 弱法師) ワキか様に候者は河内の國高安の里に左衛門通俊と申す者にて候扱ても某子を一人持ちて候をさる人の讒言に

より暮に追失ひて候、餘りに不便に候程に二世安樂の爲、天王寺にて一七日施行を引き候(中略)ワキアラ不思議や是なる者をよく見候へば某が追ひ失ひし子にて候はいかに思の餘に盲目になりて候、あら不便と衰へて候ものかな人目もさすがに候へば夜に入りて某と名乗り高安へ連れて歸らばやと存じ候。

石切劔箭神社

大戸町大字神並

式内の古社にして神代の昔天磐船に乗り此の里に天降りましけん饒速日命と其の御子可美真手命を祀る。群松道を挟み巨木社殿を蔽ふ。社司木積氏始め穂積氏と稱し創社以來の舊家たり。里人皆本社を穂積堂と呼べり。社頭の一石は神武帝東征の時此の地を過りて神を竝べ石に誓ひし瑞跡たり。古來腫物に靈驗ありとなし賽者常に絶えず。

常光寺

寺(八尾地藏)……八尾顯幸墓

八尾町大字西郷



寺は行基僧正が選みし二十五廟壇の一と傳ふ。嵯峨帝の時小野篁靈夢に感じ、自ら地藏尊像を刻みて奉納せしより八尾地藏の名世に高く、藤原盛嗣常光は後龜山帝の綸旨を奉じ堂院を再興して莊嚴を加へ、一時は方八丁の境内に塔宇を連ね、頗る盛なるを見たり。

橋は今猶存し、寺堂は昔日の觀を減すと雖、賽者常に多し、此の附近は大阪役戰士屠腹の跡にして寺は當時藤堂家の本營たり又其家臣七十餘人の墓あり、血天井の堂坊、人口に膾炙せり、堂後に八尾顯

大阪府名所舊蹟案内

幸の墓と傳ふるあり、巨大なる五輪塔を建つ。顯幸は當寺の住職にして八尾の豪族なり、後楠公に臣附して無二の忠勤を勵む、忠勇の美名青史に存す。亦此の地の誇とすべし。

一八〇



木村長門守の墓

木村長門守重成墓

西郡村大字若江南

秀頼の乳兄弟たる若武者が茶坊主の侮辱に對する深慮、今福の勇戰、茶白山營に老雄家康との談判千古に嘖々たり。元和元年五月

壯烈智勇花も實もある弱冠の丈夫、木村長門守の名大阪方の花形として千古に喧傳す。秀次の傳役として横死せる常陸介の遺孤にして又

六日重成決死の兵を提げ此の地に東軍と邀ひ戦ひ藤堂を破り井伊を挫き勇威人目を驚かすと雖、衆寡敵せずして終に若江堤に討死す、年僅に二十一家康父子其忠烈を感じ戦歿の所に碑を建て長門守木村重成之墓と勒して英魂を弔し伊達政宗は自ら重成の像を畫いて家の代寶となすといふ。當日慷慨揚武の地は荒草徒に長くして墓石獨り存し、孤松風悲み、暮鴉遙に大阪城邊の雲に没するを見る。近時來弔者漸く多く里人之に祭仕し香華墓前に絶えず、此處より又纔かに田を隔て、丘上に石柵の巨碑を圍むものを山口伊豆守の墓となす、當日伊豆守茲に長門守と相搏ちて死す、後嗣此の碑を建て石川丈山の額、林道春の銘を請ひしもの兩墓相對して感慨殊に深し。

大信寺 (八尾御堂)

八尾町

大阪府名所舊蹟案内

慶長年間教如上人康より八尾莊方八丁の地を賜はり大信寺を創建す。爾後世々連枝の住寺として八尾御堂と稱し、聖德太子刻の彌陀如來と祖師親鸞の影像とを安置す、世に開運の御影と稱し崇敬甚だ厚し。堂宇は萬治年間の再營にして結構宏麗を極め、書院客室には圓山應舉筆の襖障數十室あり。山水の間鳩の間竹の間狗兒の間の畫の如き筆致殊に秀妙を見る、此の他表門大鼓樓の建築の桃山式の典雅なる等眞に地方希有の名刹たり。

勝軍寺……下ノ太子……物部守屋墓 龍華村字太子堂

八尾停車場を距る西南十餘丁にあり、聖德太子が守屋征討の時匿れ避け給ひし棕樹跡に謝恩の爲め一寺を創し、棕樹を以て佛像を刻して此に安置し、後勅許を得て大伽藍を建て、神妙棕樹山大聖勝軍寺の號を賜ひて、記恩祝勝の瑞刹となせしより今に至つて千有

餘年、惜むらくは昔日の壯觀を減すと雖如意輪觀音の黄金佛を始め見るべきもの多く、三世の巨棕猶ほ陰深くして中河屈指の靈刹たり。

(吉野詣記)……之より神廟むくの木の

ある寺に参りてかの木のもとを拜み本堂へ詣り太子の御影開帳はなき由語りしかと案内しける人竊に申して開きけり。

公條

隔ておくとはり掲げて棕の木のみくつけきまて向ふ面影



勝軍寺

物部守屋墓 勝軍寺の東田圃の中にあり『物部守屋大連墳』の碑は明治二年に建つる所なり。近傍守屋頸洗池と傳ふ